

第 91 期社員総会

議案 第 1 号

議案 第 2 号

## 第 91 期 会 務 報 告 書

自 平成 2 9 年 4 月 1 日

至 平成 3 0 年 3 月 3 1 日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会



# 目次

I. 法人の概況	
1. 設立年月日	1
2. 定款に定める目的	1
3. 定款に定める事業内容	1
4. 所管官庁に関する事項	1
5. 主たる事務所・支部の状況	1
6. 会員に関する事項	2
(1) 会員異動表	2
(2) 支部別正会員数	2
(3) 論文集予約購読者数	2
7. 役員に関する事項	3
(1) 役員	3
8. 支部運営委員に関する事項	4
(1) 北海道支部	4
(2) 東北支部	4
(3) 中部支部	5
(4) 北信越支部	5
(5) 近畿支部	6
(6) 中国・四国支部	6
(7) 九州支部	6
9. 職員に関する事項	7
II. 事務報告	
1. 総会に関する事項	8
2. 役員会等に関する事項	8
3. 登記・契約に関する事項	15
4. 規程に関する事項	16
5. 新設委員会に関する事項	17
6. 他学会・協会との連携に関する事項	18
III. 事業報告	
1. 理事管掌委員会一覧	22
2. 委員会	23
(1) 法人運営	23
(2) 会員情報管理	26
(3) 北海道支部	27
(4) 東北支部	30
(5) 中部支部	35
(6) 北信越支部	40
(7) 近畿支部	42
(8) 中国・四国支部	47
(9) 九州支部	51

3.資格付与の実施に関する事項 .....	54
(1)設備士資格検定委員会 .....	54
(2)設備士資格検定試験 .....	55
4.技術開発・研究開発の実施に関する事項 .....	56
(1)規格制定事業 .....	56
5.講座・セミナーの実施に関する事項 .....	60
(1)教育普及事業 .....	60
(2)学術事業 .....	61
(3)CPD事業 .....	63
(4)各種会合 .....	64
6.調査・資料収集の実施に関する事項 .....	65
(1)学術調査研究事業 .....	65
(2)国際交流に関する事項 .....	89
(3)出版物発行に関する事業 .....	90
(4)刊行物に関する事項 .....	94
(5)学会誌掲載内容内訳 .....	95
(6)出版物出庫部数 .....	96
7.表彰の実施に関する事項 .....	98
(1)表彰事業 .....	98
(2)空気調和・衛生工学会賞 .....	99
(3)特別賞「十年賞」、「リニューアル賞」 .....	100
(4)空気調和・衛生工学会振興賞 .....	101
(5)井上宇市記念賞 .....	103
(6)篠原記念賞 .....	103
(7)功績賞 .....	104
IV. 会 計 報 告	
1.財務諸表報告 .....	105
(1)貸借対照表 .....	105
(2)正味財産増減計算書 .....	106
(3)財務諸表に対する注記 .....	109
(4)付属明細書 .....	110
(5)財産目録 .....	111
監査報告 .....	113

# I.法人の概況

1. 設立年月日 大正6年(1917年)7月28日

## 2. 定款に定める目的

第3条 この法人は、空気調和、衛生、環境、エネルギー等に関する工学、技術の研究の連絡提携及び促進をはかり、もって学術、文化の発展に寄与することを目的とする。

## 3. 定款に定める事業内容

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究発表会及び学術講演会、学術集会の開催
- (2) 講習会、見学会、セミナー、シンポジウム、研修会等の開催
- (3) 会誌、論文集、研究報告、資料その他の刊行
- (4) 調査、資料収集、情報収集、データベース作成
- (5) 研究、開発、技術開発、システム開発、ソフト開発
- (6) 研究・調査の援助、奨励
- (7) 技術基準の制定、技術検査の支援、助言
- (8) 論文・報文、技術の業績の表彰
- (9) 技術者資格の認定、空気調和、衛生、環境、エネルギー等の技術に関するコンテスト、政策提言
- (10) 学術・技術資料・文献の所蔵、公開
- (11) 空気調和、衛生、環境、エネルギー等に関する知識の社会への普及と展示会その他による広報
- (12) 国内外の関連学術団体との協力及び連携
- (13) その他この法人の目的を達成するための必要な事業

第40条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

## 4. 所管官庁に関する事項

内閣府(平成24年3月19日認定書受理、平成24年4月1日より公益社団法人)

## 5. 主たる事務所・支部の状況

①主たる事務所(定款第2条) 東京都新宿区神楽坂4丁目8番地 神楽坂プラザビル4階

②支部(定款第37条)

北海道支部	北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院 空間性能システム部門 空間性能分野
東北支部	宮城県仙台市青葉区本町3丁目5番22号 宮城県管工事会館3階
中部支部	愛知県名古屋市中区錦1丁目7番31号 山田ビル3階
北信越支部	石川県金沢市御影町10番7号 菱機工業㈱内
近畿支部	大阪府大阪市住之江区南港北2丁目1番10号 ATC/ITM 棟11階
中国・四国支部	広島県広島市中区大手町3丁目8番22号 広島管工事会館内
九州支部	福岡県福岡市中央区天神2丁目3番10号 天神パインクレスト622号

## 6. 会員に関する事項

### (1) 会員異動表

平成30年3月31日現在

種別	前期末 a)	資格取得者			小計	資格喪失者			小計	調整	当期末 b)	前期末比 増減 a)-b)
		入会※	資格変更	復活		退会	資格喪失 ・除名	死亡				
正会員	14,514	829	58	32	919	745	136	11	892	-3	14,538	24
名誉会員	28	0	4	0	4	0	0	4	4	0	28	0
特別会員	32	0	5	0	5	1	0	1	2	0	35	3
終身会員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学生会員	354	176	-67	0	109	73	35	1	109	0	354	0
小計	14,928	1,005	0	32	1,037	819	171	17	1,007	0	14,955	27
賛助1級	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0
賛助2級	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0
賛助3級	53	1	0	0	1	2	1	0	3	0	51	-2
賛助4級	370	18	0	0	18	12	1	0	13	0	375	5
小計	479	19	0	0	19	14	2	0	16	0	482	3
合計	15,407	1,024	0	32	1,056	833	173	17	1,023	0	15,437	30

※第92期 4月理事会入会承認分を含む

### (2) 支部別正会員数

支部名	北海道 支部	東北 支部	中部 支部	北信越 支部	近畿 支部	中国・四国 支部	九州 支部
会員数※	445	657	1,264	539	2,040	602	951

※第92期 4月理事会入会承認分を含む

### (3) 論文集予約購読者

種別	前期末a)	入会※	資格喪失者	調整	当期末b)	前期末比 増減 a)-b)
正会員	544	50	56	0	538	-6
学生会員	41	17	17	0	41	0
賛助会員	36	4	0	0	40	4
合計	621	71	73	0	619	-2

※第92期 4月理事会入会承認分を含む

## 7. 役員に関する事項

### (1) 第91期役員

役職名	担当職務	氏名	所属区	就任年月日	手 当	現 職	備 考
代表理事	会長	奥宮 正哉	4	平28.5.12	なし	名古屋大学大学院	平26.5.13就任
同	副会長	田辺 新一	1	平28.5.12	なし	早稲田大学	
同	副会長	田ノ畑好幸	1	平28.5.12	なし	(株)竹中工務店	
同	副会長	阿部 靖則	1	平29.5.11	なし	新菱冷熱工業(株)	
業務執行理事	総務	武田 晃成	1	平28.5.12	なし	東京ガス(株)	
同	総務	山本 一郎	1	平29.5.11	なし	高砂熱学工業(株)	
同	財務	立石 賢太	1	平28.5.12	なし	ダイダン(株)	
同	財務	熊谷 雅彦	1	平29.5.11	なし	日本ファシリティ・ソリューション(株)	
同	学術	大岡 龍三	1	平28.5.12	なし	東京大学生産技術研究所	
同	学術	竹部 友久	1	平28.5.12	なし	(株)日本設計	
同	学術	柳 宇	1	平29.5.11	なし	工学院大学	
同	教育普及	村西 良司	4	平28.5.12	なし	鹿島建設(株)	
同	教育普及	坂下 行範	1	平28.5.12	なし	新日本空調(株)	
同	教育普及	古閑 幸雄	1	平29.5.11	なし	(株)大林組	
同	技術	月館 司	2	平28.5.12	なし	(地独)北海道立総合研究機構	
同	技術	倉田 雅史	1	平29.5.11	なし	(株)山下設計	
同	技術	浅野 勝弘	6	平29.5.11	なし	清水建設(株)	
同	出版	近藤 明	6	平28.5.12	なし	大阪大学大学院	
同	出版	舟里 忠益	1	平28.5.12	なし	(株)大気社	
同	出版	高口 洋瑞	1	平29.5.11	なし	早稲田大学	
同	会員・情報	平岡 秀明	6	平28.5.12	なし	三機工業(株)	
同	会員・情報	楠本 晃典	8	平29.5.11	なし	西日本技術開発(株)	
同	会員・情報	井上 純一	1	平29.5.11	なし	須賀工業(株)	
同	北海道支部担当	濱田 靖弘	2	平29.5.11	なし	北海道大学大学院	支部長
同	東北支部担当	須藤 諭	3	平29.5.11	なし	東北文化学園大学	支部長
同	中部支部担当	羽津本好弘	4	平29.5.11	なし	中部電力(株)	支部長
同	北信越支部担当	高村 秀紀	5	平28.5.12	なし	信州大学	支部長
同	近畿支部担当	吉田 篤正	6	平29.5.11	なし	大阪府立大学大学院	支部長
同	中国・四国支部担当	小金井 真	7	平29.5.11	なし	山口大学大学院	支部長
同	九州支部担当	北山 広樹	8	平28.5.12	なし	九州産業大学	支部長
監 事		嶋村 和行	1	平28.5.12	なし	大成建設(株)	
同		那須原和良	1	平29.5.11	なし	清水建設(株)	

## 8. 支部運営委員に関する事項

### (1) 北海道支部

支 部 長	濱田 靖弘								
副 支 部 長	月館 司								
総 務 幹 事	若林 斉	葛 隆生	芥藤 雅也						
会 計 幹 事	中村 真人								
事 業 幹 事	葛 隆生 菊田 弘輝 小原 伸哉 武田 清賢	森 太郎 宮本 一英 阪田 義隆	野川 貴史 本間 康雄 山本 進	林 達也 水野 恭一 佐藤 秀紀	尾崎 大介 白土 博康 甲斐 至				
有 識 者	荒谷 登 高松 康二 持田 徹	伊藤 健二 谷口 博 長野 克則	岡垣 理 羽山 広文	落藤 澄 半澤 久	窪田 英樹 平間 登				

### (2) 東北支部

支 部 長	須藤 諭								
副 支 部 長	渡辺 浩文	船木 寮一							
総 務 幹 事	荒川 博之	及川 義信	金田 清満						
会 計 幹 事	庄司 恒久	小林 照和	牧野 泰弘						
事 業 幹 事	内海 康雄	赤井 仁志	小林 光	田原 誠					
事 業 委 員	石島 知明 菅原 正則 田中 和則 山田 英明	岡田 誠之 鈴木 道哉 谷 博之 渡邊 東一	許 雷 須知 秀行 早瀬 訓	後藤 正徳 高原 洋介 月野 智弘					



### (3) 中部支部

支 部 長	羽津本好弘
副 支 部 長	田中 宏明 (総務・会計/事業担当)
”	斎藤 輝幸 (研究・国際交流担当)
総 務 幹 事	田上 賢一 (総務代表)
”	江口 忠三 伊藤 能宣 <sup>※2</sup> 井上 聡 <sup>※1</sup> 渡部 篤 <sup>※1</sup> ( <sup>※1</sup> : 会計兼務、 <sup>※2</sup> : 12月より大場 章晴に交替)
会 計 幹 事	閑林 憲之 (会計代表)
事 業 幹 事	大野 智之 (教育普及事業代表)
(教育普及事業)	杉山 伸二 大塚 淳 大野 剛志 田中 雅之 原 豊
事 業 委 員	河路 友也 (学術事業代表)
(学術事業)	北野 博亮 原田 昌幸

### (4) 北信越支部

支 部 長	高村 秀紀 (長野) (本部理事兼務)
副 支 部 長	坂口 淳 (新潟) ◎松本 幸保 (長野)
”	堀 祐治 (富山)
総 務 幹 事	◎鈴木 啓泰 (石川) 熊谷 郁郎 (富山) 内藤 祐輔 (福井)
会 計 幹 事	◎猪野毛 淳 (富山) 垂水 弘夫 (石川) 北川 信重 (石川)
事 業 幹 事	◎中川 勝弘 (新潟) ◎佐々木龍二 (福井)
学術委員会 委員長	坂口 淳 (新潟)
名 誉 会 員	村島外三雄 (石川) 西村 豊治 (富山)

(※◎印は各県代表)

(5) 近畿支部

支 部 長	吉田 篤正					
副 支 部 長	近藤 明	平岡 秀明				
総 務 幹 事	白木 一成					
会 計 幹 事	山本 雅洋	片山 茂克				
事 業 幹 事	近藤 明	平岡 秀明				
委 員	竹林 英樹 西脇 里志	下田 吉之 堀江 宏	近本 智行 木虎 久隆	河野 良坪 山中 俊夫		

(6) 中国・四国支部

支 部 長	小金井 真					
副 支 部 長	西名 大作	大枝 隆介				
総 務 幹 事	横田 秀樹	松田 啓二	谷口 実男	八木 崇郎		
会 計 幹 事	岡石 隆	角廣 誠	兼崎 智			
事 業 幹 事	川島 敏彦	田中 成幸	中川 信一	保森 博美	牧本 浩明	

(7) 九州支部

支 部 長	北山 広樹				
副 支 部 長	林 徹夫	龍 有二	藤井 修		
総 務 幹 事	今岡 浩司	楠本 晃典			
会 計 幹 事	中村 繁年	吉田 智明			
事 業 幹 事	小島 昌一	白石 靖幸			
賛助会会長	今給黎 督				
本 部 理 事	北山 広樹	楠本 晃典			

## 9. 職員に関する事項

事務局職員は、事務局長 1名、書記11名、嘱託3名、計 15名である。

職員	当期末職員数	前期末比増減
男性職員	9	-1
女性職員	6	1
合 計	15	0

## Ⅱ.事務報告

### 1. 総会に関する事項

#### 1.1 社員総会

日 時	平成 29 年 5 月 11 日 (木) 午後 1 時 00 分～午後 2 時 00 分		
場 所	東京都港区元赤坂 2 丁目 2 番 23 号 明治記念館「蓬莱の間」		
出席者数等	社員現在数	14,524 名	
	総会成立定足数	7,263 名	
	本人出席社員数	105 名	
	委任状提出者数	8,020 名	
	出席社員総数	8,125 名	

総会の目的	議 案 第 1 号	第 90 期会務報告承認の件	(承認)
	同 第 2 号	第 90 期収支決算報告承認の件	(承認)
	同 第 3 号	第 91 期役員選任の件	(承認)
	同 第 4 号	名誉会員・特別会員推薦の件	(承認)
	同 第 5 号	中島ビル区分所有部分売却の件	(承認)
	報 告 第 1 号	第 91 期事業計画の報告	(了承)
	同 第 2 号	第 91 期収支予算の報告	(了承)
	同 第 3 号	事務所移転に関する報告	(了承)

### 2. 役員会等に関する事項

#### 2.1 役員会

理事会(平成 29 年度第 1 回)平成 29 年 4 月 21 日(金) 本学会会議室

##### I.審議事項

##### (1)副会長

- ①第 31 回空気調和・衛生工学会 振興賞学生賞に関する件 (承認)
- ②第 26 回篠原記念賞・同奨励賞に関する件 (承認)
- ③平成 29 年度 設備士資格検定委員会委員委嘱に関する件(非公開) (承認)

##### (2)総務理事

- ①第 90 期社員総会に付議する第 90 期会務報告書の審議、承認に関する件 (承認、議案第 1 号に決定)

##### (3)財務理事

- ①第 90 期社員総会に付議する第 90 期収支決算報告の審議、承認に関する件 (承認、議案第 2 号に決定)

##### (4)会員・情報理事

- ①新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
- ②平成 29 年度 委員会委員委嘱に関する件 (承認)

##### Ⅱ.報告事項

##### (1)総務理事

- ①内閣府公益認定等委員会定期届出完了報告 (了承)

- ②委員派遣(1件) (了承)
- ③共催、協賛等名義使用依頼(3件) (了承)
- ④事務局に関する事項(2件) (了承)
- ⑤契約(1件) (了承)
- (2)財務理事
  - ①契約(1件) (了承)
- (3)教育普及理事
  - ①CPD登録状況報告 (了承)
  - ②教育普及事業報告 (了承)
- (4)出版理事
  - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
  - ②引用・転載許諾報告 (了承)
  - ③図書出版・増刷報告 (了承)
- (5)支部担当報告 (了承)
- (6)その他(3件) (了承)

理事会(平成29年度第2回) 平成29年5月11日(木) 明治記念館 末広の間

#### I. 審議事項

- (1)会員・情報理事
  - ①学会ホームページ改定に関する件 (承認)
  - ②新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

#### II. 報告事項

- (1)副会長
  - ①委員派遣(1件) (了承)
- (2)総務理事
  - ①委員派遣(1件) (了承)
  - ②共催、協賛等名義使用依頼(4件) (了承)
- (3)学術理事
  - ①学術調査研究事業運営要領改定に関する報告 (了承)
  - ②委員会成果報告書の品質確保に関する報告 (了承)
- (4)教育普及理事
  - ①教育普及事業報告 (了承)
- (5)技術理事
  - ①委員派遣(1件) (了承)
  - ②日本規格協会(JSA)による『JIS A 5522 ルーフドレン(ろく屋根用)』見直し調査依頼の報告 (了承)
- (6)出版理事
  - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
  - ②引用・転載許諾報告 (了承)
- (7)支部担当報告 (了承)
- (8)監査報告 (了承)

**理事職務互選のための理事会 平成 29 年 5 月 11 日(木) 明治記念館 末広の間**

- (1) 理事会規程第 8 条第 2 項に基づく理事会開催に関する件 (承認)
- (2) 定款第 36 条第 2 項に基づく議事録署名人に関する件 (承認)
- (3) 理事会規程第 2 条に定める代表理事及び業務執行理事の選定に関する件 (承認)

**理事会(平成 29 年度第 3 回)平成 29 年 7 月 21 日(金) 本学会会議室**

**I. 審議事項**

- (1) 総務理事
  - ① 選挙管理委員会ならびに役員候補者選挙推薦委員会の委員委嘱に関する件 (承認)
- (2) 学術理事
  - ① 国際交流視察団 ASHRAE 冬季大会 実施計画 (承認)
- (3) 技術理事
  - ① SHASE-S 119-2017 空気調和設備室内騒音の測定方法制定に関する件 (承認)
  - ② SHASE-S 115-2017 室内換気効率(規準化居住域濃度)の現場測定法改定に関する件 (承認)
  - ③ SHASE-S 220-2017 器具排水特性試験法改定に関する件 (承認)
- (4) 会員・情報理事
  - ① 会費長期滞納に伴う会員資格喪失候補者に関する件 (承認)
  - ② 平成 29 年度委員会委員委嘱に関する件 (承認)
  - ③ 新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

**II. 報告事項**

- (1) 会長
  - ① 運営に関する事項 (了承)
- (2) 副会長
  - ① 平成 29 年度(第 62 次)設備士資格検定試験申込書販売方法の変更について (了承)
- (3) 総務理事
  - ① 国と特に密接な関係がある公益社団法人及び公益財団法人への該当性に関する報告 (了承)
  - ② 内閣府公益認定等委員会への定期届出ならびに登記完了報告 (了承)
  - ③ 消防関係の届出 (了承)
  - ④ 共催、協賛等名義使用依頼(14 件) (了承)
  - ⑤ 契約(2 件) (了承)
- (4) 財務理事
  - ① 会計定期報告 (了承)
  - ② 中島ビル区分所有部分売却完了報告 (了承)
- (5) 教育普及理事
  - ① CPD登録状況報告 (了承)
  - ② 教育普及事業報告
- (6) 技術理事
  - ① 委員派遣(2 件) (了承)
- (7) 出版理事
  - ① 学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)

- ②引用・転載許諾報告(5件) (了承)
- ③出版物増刷報告 (了承)
- ④出版委員会小委員会設置報告 (了承)
- ⑤契約(5件) (了承)
- (8)支部担当報告 (了承)
- (9)その他(1件) (了承)

**理事会(平成29年度第4回)平成29年10月13日(金) 本学会会議室**

**I. 審議事項**

(1) 副会長

- ①学会賞技術審査小委員会、特別賞審査小委員会、振興賞技術振興賞審査小委員会委員委嘱の件 (承認)
- ②「100周年記念事業」に関する件 (承認)

(2) 総務理事

- ①第92期役員候補者選挙日程(案)に関する件 (承認)

(3) 財務理事

- ①資産関連規程の廃止と制定に関する件 (承認)
- ②中島ビル区分所有部分売却に伴う基本財産等移行の件 (承認)
- ③第92期予算編成に関する件 (承認)
- ④第92期予算編成日程について (承認)

(4) 会員・情報理事

- ①平成29年度SHASE技術フェローの認定定数について (承認)
- ②新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)
- ③会費長期滞納による会員資格喪失者に関する件(確定) (承認)
- ④平成29年度委員会委員委嘱に関する件(第3回) (承認)

(5) 中部支部担当理事

- ①中部支部設立50周年記念式典における感謝状の贈呈について (承認)

(6) 九州支部担当理事

- ①九州支部長賞の表彰に関する運営要領改定に関する件 (承認)

**II. 報告事項**

(1) 副会長

- ①平成29年度(第62次)設備士資格試験受験資格審査状況報告 (了承)

(2) 総務理事

- ①共催・協賛等名義使用依頼(18件) (了承)
- ②委員派遣(1件) (了承)

(3) 財務理事

- ①第91期会計定期報告 (了承)
- ②支部会計に関する会合に関する件 (了承)

(4) 学術理事

- ①平成29年度大会(高知)終了報告 (了承)

- ②平成 29 年度大会(高知)「優秀講演奨励賞」表彰者報告 (了承)
- ③第 22 回国際建築設備調査団 CIBW062 シンポジウム実施報告 (了承)
- (5)教育普及理事
  - ①CPD登録状況報告ならびに SHASE-CPD ポイント表改定報告 (了承)
  - ②教育普及事業報告 (了承)
- (6)出版理事
  - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
  - ②引用・転載許諾報告(9 件) (了承)
  - ③新規出版・増刷報告 (了承)
- (7)会員・情報理事
  - ① SHASE 技術フェロー制度に関する規程第 11 条に基づく該当者に関する報告 (了承)
  - ② SHASE 技術フェロー選考基準ならびに募集スケジュールに関する報告 (了承)
  - ③ウェブサイトバナー広告に関する誌面広告連動価格の設定のご報告 (了承)
- (8)支部担当報告 (了承)
- (9)定期報告 (了承)
- (10)その他(3 件) (了承)

**理事会(平成 29 年度第 5 回)平成 29 年 12 月 15 日(金) 本学会会議室**

**I.審議事項**

- (1)総務理事
  - ①第 92 期役員候補者選挙投票用紙に記載する理事・監事候補者の決定に関する件 (承認)
  - ②第 91 期社員総会における議案等に関する件 (承認)
  - ③会合ならびに第 91 期社員総会付帯行事等の運営に関する件 (承認)
- (2)財務理事
  - ①支部会計に関する財務理事指針に関する件 (承認)
- (3)技術理事
  - ①SHASE-S 117-2017 換気・空調設備の現場風量測定法改定に関する件 (承認)
- (4)会員・情報理事
  - ①新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

**II.報告事項**

- (1)副会長
  - ①「100 周年記念事業」に関する報告 (了承)
  - ②設備土運営要領ならびに試験実施方法制定に関する報告 (了承)
- (2)総務理事
  - ①共催・協賛等名義使用依頼(8 件) (了承)
- (3)財務理事
  - ①第 91 期会計定期報告 (了承)
  - ②第 92 期予算調整会議 (了承)
- (4)教育普及理事
  - ①CPD登録状況報告 (了承)
  - ②教育普及事業報告 (了承)



- (5)技術理事
  - ①委員派遣(1件) (了承)
- (6)出版理事
  - ①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)
  - ②出版・増刷報告 (了承)
- (7)各支部報告 (了承)
- (8)その他(2件) (了承)

**理事会(平成29年度第6回)平成30年3月16日(金) 本学会会議室**

**I.審議事項**

(1)会長

- ①平成30年度各種委員会委員長候補者選考に関する件 (承認)
- ②会員管理規程第10条第3号に基づく特別会員の推薦について (承認)

(2)副会長

- ①第56回空気調和・衛生工学会賞推薦の件 (承認)
- ②空気調和・衛生工学会特別賞第6回「リニューアル賞」推薦の件 (承認)
- ③第32回空気調和・衛生工学会振興賞技術振興賞推薦の件 (承認)
- ④第15回空気調和・衛生工学会功績賞推薦の件 (承認)
- ⑤第8回井上宇市記念賞受賞候補者推薦の件 (承認)
- ⑥創立100周年記念事業報告 (承認、報告第3号に決定)

(3)総務理事

- ①第92期役員候補者選挙結果に関する件 (承認)
- ②第92期役員選任議案に関する件 (承認、議案第3号に決定)
- ③役員候補者選挙管理規程第15条第3項の規定に基づく役員候補補欠者の選任について (承認、議案第3号と併せて提案を決定)
- ④第92期事業計画(案)に関する件 (承認、報告第1号に決定)
- ⑤平成30年度年間予定に関する件 (承認)
- ⑥第91期社員総会の開催に関する件 (承認)

(4)財務理事

- ①第92期収支予算(案)承認の件 (承認、報告第2号に決定)
- ②第91期収支決算の件 (承認)

(5)学術理事

- ①国際名誉員候補者の推薦に関する件 (承認)
- ②第23回国際建築設備調査団 CIB W062 シンポジウム実施計画 (承認)

(6)教育普及理事

- ①第91期社員総会特別講演会の提案に関する件 (承認)

(7)会員・情報理事

- ①第91期社員総会に推挙する名誉会員・特別会員候補者の選考に関する件 (承認、議案第4号に決定)
- ②平成29年度「SHASE技術フェロー」候補者推薦に関する件 (承認)
- ③SHASE技術フェロー制度に関する規程改定に関する件 (承認)

④新入会承認及び会員異動報告に関する件 (承認)

## II.報告事項

### (1)副会長

①平成 29 年度(第 62 次)設備士資格検定試験の終了ならびに結果報告 (了承)

②平成 30 年度(第 63 次)設備士資格検定試験実施日程の件 (了承)

### (2)総務理事

①共催、協賛等名義使用依頼(17 件) (了承)

②「建築設備六団体協議会設備女子支援ネットワーク」事業における名義使用のお願い (了承)

③契約に関する件(3 件) (了承)

④職員採用に関する報告(1 名) (了承)

### (3)財務理事

①第 91 期会計定期報告 (了承)

②「マイナンバーの事務手続きについて」一部改定に関する報告 (了承)

### (4)学術理事

①第 27 回国際交流視察団 ASHRAE 冬期大会実施報告 (了承)

### (5)教育普及理事

①CPD登録状況報告 (了承)

②教育普及事業報告 (了承)

### (6)出版理事

①学会誌「特集」企画に関する報告 (了承)

②引用・転載許諾報告 (了承)

③改定出版・増刷報告 (了承)

④空気調和・衛生工学会 論文集の要領等改定に関する報告 (了承)

⑤出版契約(1 件) (了承)

### (7)各支部報告

(了承)

### (8)定期報告

(了承)

### (9)その他(5 件)

(了承)

## 2.2 賛助会員会

実施なし。

以上

### 3. 登記・契約に関する事項

#### 3.1 登記に関する事項

登記年月日	登 記 事 項
29.6.19	役員の変更

#### 3.2 契約に関する事項

##### (1) 総務関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
29.4.1	㈱損害保険ジャパン	労働災害総合保険（※29.6.30付解約）
29.7.1	AIU損害保険㈱	業務災害総合保険
30.1.16	ダイドードリンコ㈱	自動販売機設置協定書
30.2.1	トーセイ㈱	自動販売機設置に関する覚書
30.2.27	セコム損害保険㈱	店舗総合保険（設備・什器等、商品・製品等、借家人賠償責任）
30.3.1	東京海上日動火災保険㈱	会社役員賠償責任保険

##### (2) 総務関連の再リース契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
29.11.19	三井住友ファイナンス&リース㈱	シュレツダ
29.11.20	日立キャピタルNBL㈱	電話機

##### (3) 事業関連の契約

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
30.1.16	東京海上日動火災保険㈱	旅行事故対策費用保険（国際交流視察団）

##### (4) 出版理事関連の契約（編集著作権および出版権者）

契約年月日	相 手 方	締 結 内 容
29.3.25	(株)オーム社	「空気調和・衛生設備の知識(改訂4版)」、「空気調和設備計画設計の実務の知識(改訂4版)」、「給排水衛生設備計画設計の実務の知識(改訂4版)」それぞれの出版契約 (平成29年度第3回理事会報告)
29.6.7	奥宮正哉	「蓄熱式空調システムが実現するエネルギーマネジメント」出版契約
29.6.7	亀谷茂樹	「新版都市ガス空調のすべて」出版契約
29.11.30	(株)オーム社	「はじめての環境・設備設計シミュレーションCFDガイド」出版契約

#### 4. 規程に関する事項

提出者	内容	決定・報告機関	決定年月日
財務理事	「建物減価償却引当資金に関する規程」廃止	理事会	29.10.13
	「建物付属設備減価償却引当資金に関する規程」廃止		
	「建物・設備改修準備資金に関する規程」廃止		
	「公益目的資産に関する規程」制定		
	「公益目的事業資産に関する規程」制定		
	「事務所等の改修および取得資産に関する規程」制定		
	「退職給付引当資産に関する規程」制定		
会員・情報理事	「SHASE技術フェロー制度に関する規程」改定	理事会	30.3.16

## 5. 新設委員会に関する事項

設置年月日	委員会名称		委員長/主査
29.4.1	空気調和設備委員会	環境建築における室内環境検討小委員会	甲谷 寿史
		空調システムの設計・評価検討小委員会	田中 英紀
		熱環境システム動的設計法検討小委員会	富樫 英介
		パーソナル空調適用条件検討小委員会	佐々木真人
		ZEB計画指針検討小委員会	丹羽 英治
	給排水衛生設備委員会	給排水衛生設備設計手法検討小委員会	小原 直人
		再生可能エネルギーと多熱源利用調査小委員会	赤井 仁志
		節水型衛生器具普及のあり方提言小委員会	豊貞佳奈子
		建物における雨水対策検討小委員会	金津 文夫
		排水通気システム設計基礎検討小委員会	本郷 智大
	コミッションング委員会	CC法を活用したEHP式個別分散空調システムの機能性能試験検討小委員会	三浦 克弘
		コミッションング導入効果調査検討小委員会	高草 智
		データマネジメント手法活用小委員会	住吉 大輔
		ZEBシステムに関するコミッションング手法検討小委員会	高瀬 知章
	省エネルギー委員会	住宅指針改訂小委員会	小椋 大輔
		非住宅指針改訂小委員会	河路 友也
	住宅設備委員会	高齢者・生活弱者に優しい住宅設備検討小委員会	川本 聖一
		集合住宅の在宅非難のためのトイレ使用方法検討小委員会	木村 洋
		住宅設備のBIM活用検討小委員会	柿沼 整三
	施工・保全委員会	安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会	割石 浩幸
施工図ガイドライン検討小委員会		加藤健一郎	
取扱説明書作成ガイドライン検討小委員会		花房 俊治	
換気設備委員会	空気質小委員会	柳 宇	
29.7.3	出版委員会	室内CFDガイドブック編集小委員会	酒井 孝司

## 6. 他学会・協会との連携に関する事項

### (1) 委員派遣

年月日	推薦先	内 容	委員名	
29. 4. 21	(一財)日本建築設備・昇降機センター	建築設備検査員講習運営委員会委員	事務局長 杉山 敦	
29. 5. 11	(公社)全国ビルメンテナンス協会	理事	副会長 阿部 靖則	
	(一社)日本建築学会	JABEE建築分野審査委員会委員	正会員 岩本 静男	
	(一社)公共建築協会	機械設備幹事会幹事	評価委員会・機械設備専門部会・幹事会委員	正会員 船木 寮一
			正会員 木村 文夫	
			正会員 中川 睦章	
			正会員 野澤 英美	
正会員 吉田 友夫				
正会員 渡部 一八				
29. 7. 21	(一財)電気安全環境研究所	製品認証専門委員会委員	正会員 赤井 仁志	
	ステンレス協会	認定委員会委員	正会員 松島 俊久	
29. 10. 13	(一財)全国建設研修センター	管工事施工管理技術検定試験委員	正会員 中川 健	
			正会員 澤田 和美	
29. 12. 15	国土交通省	環境保全性を確保するための官庁施設の整備手法に関する検討会	正会員 竹部 友久	

## (2)他学協会への後援・協賛依頼

開催年月日	名 称	名義	相手方
29. 4. 17～29. 4. 21	平成29年度 初級技術者のための研修会	協賛	7団体
通年	平成29年度 中堅技術者のための研修会(18講座)	協賛	10団体
29. 7. 19	平成29年度 技術講演会「IoT とAI 利用の現状」	協賛	7団体
29. 7. 13～7. 14	平成29年度 初級技術者のためのステップアップ研修会	協賛	7団体
30. 2. 9	平成29年度セミナー 「建築設備設計・施工の生産性向上技術の最新動向 －建築設備分野における働き方改革へのアプローチ－」	協賛	7団体

## (3)他学協会との共同主催その他

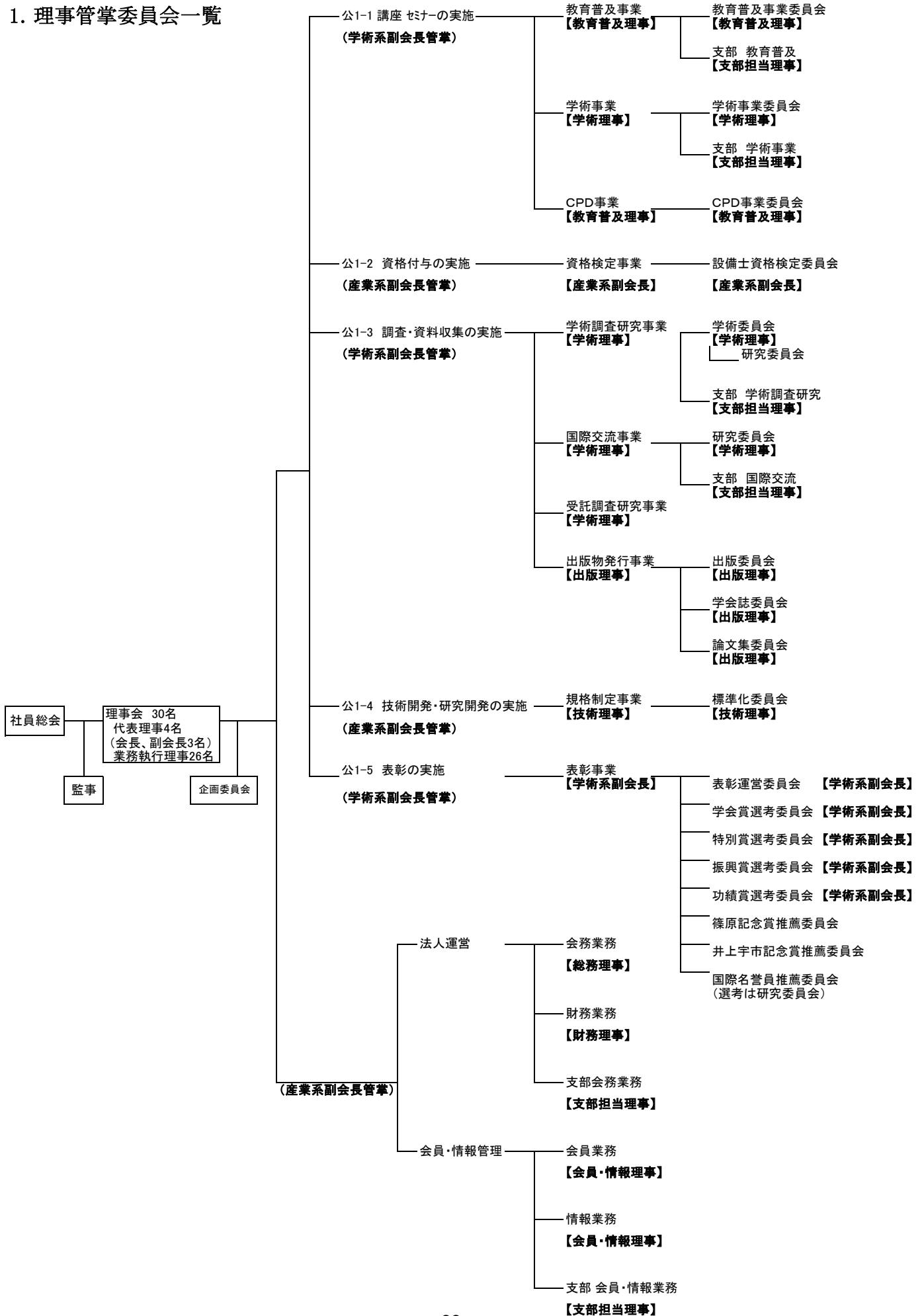
	開催年月日	名 称	名義	申 請 者
1	29.6～12、 29.7～30.2	平成29年度「電力平準化・省エネルギー社会実現セミナー」及び「蓄熱技術研修会」	協賛	(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター
2	29.11.13～11.15	第55回燃焼シンポジウム	協賛	(一社)日本燃焼学会
3	29.6.23	日本学術会議シンポジウム「低炭素・健康と社会の実現への道筋」	共催(負担金なし)	日本学術会議 土木工学・建築学委員会 低炭素・健康社会の実現への道筋と生活様式・消費者行動分科会
4	29.11.8、29.11.17	平成29年度ボイラーデー並びに第55回日本ボイラー大会	協賛	(一社)日本ボイラ協会
5	29.11.7～11.9	第38回日本物性シンポジウム	協賛	日本熱物性学会
6	29.6.8	原子力総合シンポジウム2017	共催(負担金なし)	日本学術会議総合工学委員会 (一社)日本原子力学会
7	29.7.10～7.12	第27回環境工学総合シンポジウム2017	協賛	(一社)日本機械学会
8	29.8.24～8.25	第30回におい・かおり環境学会	協賛	(公社)におい・かおり環境協会
9	上級 29.9.9、 9.10、1級・2級 29.12.9	2017年 計算力学技術者(CAE技術者)資格認定事業	協賛	(一社)日本機械学会
10	29.11.21～11.22	第46回日本医療福祉設備学会	後援	(一社)日本医療福祉設備協会 日本医療福祉設備学会
11	29.7.28～7.30	日本ヒートアイランド学会第12回全国大会	協賛	日本ヒートアイランド学会
12	29.12.12～12.14	第31回数値流体力学シンポジウム	協賛	(一社)日本流体力学会
13	29.9.27～9.29	2017年度日本冷凍空調学会年次大会	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
14	29.8.7	機械の日	協賛	(一社)日本機械学会
	29.8.1～8.7	機械週間		
15	29.10.20	セミナー「ZEBを実現する空調機器・システム」	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
16	29.10.31	第13回建築設備シンポジウム「環境建築で切り開く設計と研究のこれから Part 2」	後援	(一社)日本建築学会
17	未定	第16回環境・設備デザイン賞	後援	(一社)建築設備総合協会
18	29.7～12	住まいの環境デザイン・アワード2018	後援	東京ガス㈱
19	29.9.28～9.29	講習会『伝熱工学資料(改定第5版)』の内容を教材にした熱設計の基礎と応用』	協賛	(一社)日本機械学会
20	29.11.13～11.14	62 nd FRP CON-EX 2017(第62回FRP総合講演会・展示会)	協賛	(一社)強化プラスチック協会
21	30.1.21	第10回MDIC(医療機器情報オミューネータ)認定セミナー	後援	(一社)日本医療機器学会
22	29.12.9～12.10	第41回人間-生活環境系シンポジウム	協賛	人間-生活環境系学会
23	29.11.20～11.22	「HOSPEX Japan2017」(第46回日本医療福祉設備学会併設展示会)	協賛	(一社)日本医療福祉設備協会 (一社)日本能率協会
24	29.10.17～10.21	日本地熱学会平成29年学術講演会	協賛	日本地熱学会
25	29.11.29	BELCA資格者セミナー「建築非構造部材を巡る最新動向 - 地震対策と環境配慮 -」	後援	(公社)ロングライフビル推進協会
26	東京29.9.6 大阪30.1.26	室内環境学会講演会(2017JASISコンファレンス/2018大阪講演会)	後援	(一社)室内環境学会
27	29.9.11	セミナー「改正省エネ法施行で広がる放射(輻射)冷暖房」	後援	放射(輻射)冷暖房協議会
28	29.11.11	「公共建築の日」	後援	(一社)公共建築協会
	29.11.1～11.30	公共建築月間		
29	29.11.6	第24回都市環境エネルギーシンポジウム	協賛	(一社)都市環境エネルギー協会
30	29.11.10	シンポジウム「より快適で省エネな車室内空調を目指して」	協賛	(公社)自動車技術会
31	29.10.24	設備診断セミナー「空調・衛生設備診断の実践ノウハウと実技体験」	協賛	(一社)日本建築設備診断機構
32	29.11.1	平成29年度 DECCシンポジウム「建築物における新しいエネルギーサービスとDECCの役割-DECCの10年の今後の展開-」	後援	(一社)日本サステナブル建築協会
33	29.11.16	海外交流会シンポジウム	協賛	(一社)都市環境エネルギー協会
34	29.11.20	シンポジウム第6回都市環境デザインフォーラム「暑熱環境に適応した都市環境デザインの実践」	後援	(一社)日本建築学会
35	30.1.18～1.19	第45回建築物環境衛生管理全国大会	後援	(公財)日本建築衛生管理教育センター
36	30.2.27～3.2	HVAC&R JAPAN 2018(第40回冷凍・空調・暖房展)	協賛	(一社)日本冷凍空調工業会
37	29.12.13～12.14	平成29年度室内環境学会学術大会	後援	(一社)室内環境学会
38	30.12.3～12.5	第25回「風工学シンポジウム」	協賛	第25回風工学シンポジウム運営委員会
39	29.11.1	国際セミナー「健康と快適な睡眠のための寝床環境セミナー」	後援	早稲田大学理工学術院総合研究所
40	29.11.30～12.1	平成29年度都市環境エネルギー技術研究会	協賛	(一社)都市環境エネルギー協会



41	29.11.22	平成29年度「建築設備士の日」記念事業	後援	(一社)建築設備技術者協会
42	30.6.17～6.22	グランド再生可能エネルギー2018国際会議	協賛	グランド再生可能エネルギー2018国際会議組織
43	30.4.24～4.25	第35回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	協賛	(公社)日本空気清浄協会
44	30.1.16	2018年BSCA CxTE講習会およびCxシンポジウム in 四国	協賛	NPO法人建築設備コミッション協会
45	30.2.20	平成29年度地域熱供給シンポジウム	協賛	(一社)日本熱供給事業協会
46	30.5.29～5.31	第55回日本伝熱シンポジウム	共催(負担金なし)	(公社)日本伝熱学会 第55回日本伝熱シンポジウム実行委員会
47	30.2.15	コージェネシンポジウム2018	協賛	(一財)コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
	30.2.16	テクニカルツアー		
48	30.3.1	第9回シンポジウム「建築設備の最新動向:BIM、既設建物での運用改善、省エネルギー改修」	協賛	(一社)日本建築設備診断機構
49	30.3.18	講習会「日本建築学会環境基準 昼光照明規(AIJES-L0003-2018)」	後援	(一社)日本建築学会
50	30.6.14～6.15	No.18-17 第23回動力・エネルギー技術シンポジウム	協賛	(一社)日本機械学会
51	30.3.9	2018年Cx事例紹介シンポジウム in 関西 ～オーナーが語るCxの有用性と課題～	協賛	NPO法人建築設備コミッション協会
52	30.2.20	BIMの日2018シンポジウム「BIMはどこを目指すべきかー他産業に学ぶ」	後援	(一社)日本建築学会
53	30.2.6	建設産業の最新動向と今後の展望 ～魅力ある産業の創成に向けて～	後援	早稲田大学理工学術院総合研究所
54	30.8.8～8.10	日本混相流学会混相流シンポジウム2018	協賛	日本混相流学会
55	一次30.4(東京,大阪)二次30.7(東京,大阪,札幌,福岡)	建築設備士第一試験受験準備講習会 建築設備士第二次試験受験準備講習会	協賛	建築設備士受験準備講習委員会 (一社)日本設備設計事務所協会連合会 (一社)電気設備学会
56	30.6.6～6.8	第23回計算工学講演会	協賛	(一社)日本計算工学会
57	30.4.16	セミナー「給湯設備の最新動向 ～今後の展望と消費者のライフスタイルに合わせた導入事例」	協賛	(公社)日本冷凍空調学会
58	30.3.19	報告会「建築設備運用の最適化に向けた建築設備技術者の新たな業務展開に関する調査報告会」	協賛	(一社)建築設備技術者協会
59	30.8.8～8.9	第27回日本エネルギー学会大会	協賛	(一社)日本エネルギー学会
60	年会30.9.3.～9.6 シンポジウム 30.9.4	「日本流体力学会年会2018」および「日本流体力学会創立50周年記念シンポジウム」	協賛	(一社)日本流体力学会
61	30.8.29～8.30	平成30年度工学教育研究講演会	協賛	(公社)日本工学教育協会
62	東京 30.11.28～11.30、大阪 30.11.14～11.16	平成30年度「建築・設備総合管理士」	協賛	(公社)ロングライフビル推進協会
63	東京 30.7.11～7.13、大阪 30.7.4～7.6	平成30年度「建築設備診断技術者」	協賛	(公社)ロングライフビル推進協会
64	理論5.26電力6.9 法6.23機械7.7模 試と解説8.4	平成30年度第三種電気主任技術者試験の受験対策講座	協賛	(一社)電気設備学会

# Ⅲ. 事業報告

## 1. 理事管掌委員会一覧



## 2. 委員会

### (1) 法人運営

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
企画委員会 奥宮 正哉	8	以下の検討を行った。 1. 会務全般に関する事項 2. 理事会運営を適切に行うための議案整理に関する事項 3. 役員選挙に関する事項 4. 事業計画及び収支予算に関する事項 5. 事業報告及び決算報告に関する事項 6. 内部統制に関する事項 7. 法人運営の重要事項に関する事項 8. 各種規程制定に関する事項 9. 特別委員会設置ならび成果報告に関する事項 10. 100周年事業の企画準備に関する事項 11. 海外協力団体との交流事業に関する事項 12. 関連学協会に関する事項
熊本地震に関する支援対策本部 奥宮 正哉	3	1. 日本学術会議公開シンポジウム 第3回 防災学術連携シンポジウム 熊本地震 追悼・復興祈念行事「熊本地震・1周年報告会」 日 時：平成29年4月15日(土)13:00～18:00 発 表：木村 剛 題 目：「熊本地震における設備被害の傾向と地震後の継続使用への取組みについて」 2. 九州支部による熊本地震調査報告の公開 「熊本地震による熊本市内主要大学の設備関連の被害調査」 3. 関連団体への情報提供 今期を以って終了することとした。
法人運営を統括する委員会 田ノ畑 好幸	3	1. 学会運営に関する継続的な課題の検討を行った。 2. 事務局体制に関する課題を整理し進め方の協議を行った。
100周年記念事業組織委員会 田辺 新一	3	下記の事項について審議、決定した。 1. 事業予算に関する事項 2. 事業決算に関する事項 3. 趣意書、記念事業等に関する事項 4. 部会、ワーキンググループによる事業に関する事項 5. 創立100周年記念式典、記念祝賀会の実施 ◇創立100周年記念式典（第Ⅰ部） 日 時：平成29年12月1日(金) 15時00分～17時50分 会 場：明治記念館 蓬莱の間 参 加：525名 ◇創立100周年記念祝賀会（第Ⅱ部） 日 時：平成29年12月1日(金) 18時00分～19時30分 会 場：明治記念館 富士の間 参 加：533名
選挙管理委員会 加藤 信介	3	下記の事項について審議、決定した。 1. 第92期役員候補者選挙日程 2. 第92期役員候補者選挙の公示内容 3. 第92期役員候補者選挙の立候補、被推薦の確認 4. 第92期役員候補者選挙名簿の作成 5. 第92期役員候補者選挙開票

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
役員候補者選挙 推薦委員会 富田 弘明	3	<p>下記の事項について審議、決定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第92期役員候補者選挙日程を確認した。</li> <li>第92期役員候補者選挙の被推薦者を選考し、選挙管理委員会へ推薦した。</li> </ol>
省エネシミュレーション ツール評価法作成委員会 吉田 治典	6	<p>第1回委員会：平成28年4月20日(水)、第2回委員会：平成29年6月29日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会外へ依頼した空調システムテストトライアルの分析結果について議論した。</li> <li>トライアルを通じた意見収集を踏まえ、建物全体テストの改善点を整理した。</li> <li>空調システムテストの追加ケースについて委員でトライアルを行い、改善点等について議論した。</li> </ul> <p>第3回委員会：平成29年9月21日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建物全体テスト条件の改善前後のトライアル結果について議論した。</li> <li>既存ガイドラインの内容で投稿する国際会議論文 (Building Simulation) について議論した。</li> </ul> <p>第4回委員会：平成29年11月28日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空調システムテストへ新たに追加するサブシステム動作テストの内容について議論した。</li> <li>翌年2月に開催する成果報告シンポジウムのプログラムについて議論した。</li> </ul> <p>第5回委員会：平成30年1月17日(水)、第6回委員会：平成30年3月1日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>追加テストケースの委員会内トライアルを行い、結果と改善点について議論した。</li> <li>成果報告シンポジウムの論点と発表内容案について議論した。</li> <li>成果報告書の内容を確認した。</li> </ul> <p>シンポジウム</p> <p>題目 「建物エネルギーシミュレーションツールの評価方法」</p> <p>日時 平成30年2月28日(水) 13:30～17:00</p> <p>会場 東京理科大学 森戸記念館第一フォーラム</p> <p>参加者 43名</p>
次世代空調システム 研究委員会 田辺 新一	5	<p>次世代空調システムに関する将来的な方向性の調査・研究と、設備設計・施工技術の継承を目的として委員会を4回開催し、下記について活動するとともに委員の情報提供と併せて意見交換を行った。</p> <p>また、昨年度実施したシンポジウムやオーガナイズドセッションを踏まえて、学会誌の特集として「8つのトライ-2030年に向けた次世代空調システム」を発表した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
次世代空調システム 研究委員会 (続き)		<p>&lt;主要活動概要&gt;</p> <p>1. 研究委員会での討議内容            昨年度に引き続き「8つのトライ」(以下の8項目)を掘り下げるための討議実施。</p> <p>①ZEB化への圧倒的寄与            ②既成概念にとらわれないスマートな空調システム            ③室内環境とヒューマンファクター            ④リニューアル            ⑤コミショニングビジネスの体系化            ⑥防災力、頑健性の向上 (BCP)            ⑦海外への技術展開            ⑧制度改革</p> <p>2. 学会誌への発表 創立100周年記念特集号、計8報            2017 Vol. 91 No. 5 pp. 357～420</p> <p>3. 次世代空調に関連する新たな動向の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ZEBの実現・普及に向けた取り組みと政策動向</li> <li>・ WELL認証の動向</li> <li>・ SDGsやSociety 5.0と空調設備の関連把握や位置づけ検討</li> </ul> <p>委員開催日:4月13日、6月15日、10月16日、1月15日、3月15日</p>
BIM活用ビジョン 検討委員会 山羽 基	3	<p>本委員会は、2年間の活動を通してBIMの設計、施工、FM・運用での活用を検討し、関連する技術として、データ交換・標準化、自動設計を調査しました。その成果から、情報共有ルールを考慮しロードマップ、学会への提言をまとめた。この成果について広く公表し意見を聞くためのシンポジウムを企画した。</p> <p>活動の内容は下記の通りである。</p> <p>第1回委員会 (2017年4月18日)            シンポジウムの内容について</p> <p>第2回委員会 (2017年8月3日 シンポジウム開催後)            シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員会成果報告 : 設計、施工、運用での活用 (委員より)</li> <li>・ 日本建築学会での取組 : 猪里 孝司(大成建設)</li> <li>・ BIMのコーディネート : 平島ゆきえ (アラップ東京事務所)</li> <li>・ BIMライブラリーコンソーシアムの現状と展開 : 寺本 英治 (建築保全センター)</li> <li>・ データモデルの提案</li> <li>・ ディスカッション</li> </ul> <p>空気調和・衛生工学会100周年記念 シンポジウム            題 目 「建築設備BIMの最前線 ～BIMによる設備設計・工事の高度合理化～」</p> <p>日 時 2017年8月3日 (木) 13:30～17:00            会 場 当会会議室            参加者 55名</p> <p>第3回委員会 (2017年10月6日)            シンポジウムの総括            報告書の最終版の確認、学会への提言について</p>

(2) 会員情報管理

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
技術フェロー選考委員会 平岡 秀明	2	以下を協議し実施した。 1. 年次報告書、計画書、委員候補者、予算に関する事項 2. SHASE技術フェロー授与式に関する事項 3. 技術フェロー制度のお知らせ、募集案内に関する事項 4. 理事会に提案する認定者の定数に関する事項 5. SHASE技術フェロー認定者に関する事項
情報委員会 楠本 晃典	2	下記につき審議、検討、管理を行った。 1. ホームページの運用管理全般 2. ホームページの利用状況の分析とフィードバック 3. バナー広告の管理（広告代理店(株)中外との連携） 4. 会員拡大のための各種情報提供ツールの検討 5. その他情報管理、会員拡大に関する事項の検討

(3) 北海道支部

1) 報告会 (第53期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題
29. 5. 23	かでの 2・7	1. 来賓挨拶 2. 支部長挨拶 3. 会員の異動報告 4. 議 事 (1) 平成28年度事業報告 (2) 平成28年度決算報告 (3) 運営委員の件 (4) 平成29年度事業計画 (5) 平成29年度収支予算 (6) その他 5. 新支部長挨拶

社員総数 455名 当日出席30名

2) 各賞授与式および表彰式

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 5. 23	かでの 2・7	平成29年度特別会員受賞者 第31回技術賞技術振興賞 平成28年度北海道支部学術講演会優秀発表奨励賞受賞者	30名

3) 特別講演会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 5. 23	かでの 2・7	共 催：(一社)建築設備技術者協会北海道支部 共 催：(一社)電気設備学会北海道支部 持続可能な街・建築を支えるエネルギーシステム 奥宮正哉 (空気調和・衛生工学会 会長/ 名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻教授)	76名

4) 百周年記念事業 (後援)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
29. 9. 19	北海道大学工学部	北海道建築環境 フォーラム 主 催：北海道大学建築環境学研究室・(株)北海道日建設計 内 容： 基調講演1 秋元孝之 (芝浦工業大学 教授) 基調講演2 堀川 晋 (株)日建設計 執行役員) 基調講演3 田辺新一 (早稲田大学 教授) パネルディスカッション「寒冷地の環境建築の可能性を考える」	128名
29. 11. 9	北海道大学工学部	衛生工学シンポジウム25周年記念講演会 主 催：北海道大学工学部環境工学コース 内 容： 基調講演1 堀越哲美 (愛知産業大学 学長/名古屋工業 大学名誉教授) 基調講演2 田中 勝 (鳥取環境大学客員教授/岡山大学 名誉教授) 基調講演3 丹保憲仁 (北海道立総合研究機構理事長/ 北海道大学名誉教授/放送大学名誉教授) 基調講演4 浅野 孝 (カリフォルニア大学デービス校名 誉教授)	150名

## 5) 地区講演会 (100周年記念事業)

開催年月日	場 所	件 数	参加者
30. 1. 23	北海道大学工学部	100周年記念事業 「流体工学的視点でのin silico human model」 伊藤一秀(九州大学大学院)	32名

## 6) 見学会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30. 1. 22	札幌市中央区南7条東1丁目	見学先：リンナイ(株)北海道支店 説明者：本間康雄・後藤なつみ (清水建設(株)札幌支店設計部)	12名

## 7) セミナー

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 7. 21	北海道大学工学部	「省エネルギー性能からみた不動産価値」 富樫英介 (工学院大学) 「放射空間オフィスビルの性能検証」 一ノ瀬雅之 (首都大学東京)	40名
30. 2. 16	北海道大学工学部	「面的エネルギーの効率的利用とBCPへの活用」 内 容： 話題提供1「市の施策の観点」 札幌市 樫山和哉 話題提供2「供給側からの観点」 北海道熱供給公社 北村能宏 話題提供3「需要家側からの観点」 (株)伊藤組 伊藤直紘	37名

## 8) 運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 5. 9	北海道大学工学部	1. 理事会報告 2. 議 題 2.1 平成28年度事業報告 2.2 平成28年度決算報告 2.3 平成29年度事業計画 2.4 平成29年度収支予算案 2.5 支部総会について 3. その他	23名
29. 7. 28	北海道大学工学部	1. 報告事項 (理事会報告) 2. 議 題 2.1 本年度の幹事 2.2 本年度の行事内容 2.3 設備技術研究会 2.4 その他	30名

## 9) 有識者会議

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 7. 28	北海道大学工学部	1. 本年度の幹事 2. 本年度の行事内容 3. 設備技術研究会 4. その他	7名



## 10) 委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 5. 9	北海道大学工学部	第9回 凍結・雪対策委員会 議 題 1. 建築設備の凍結防止 計画と実務 修正原稿の確認 2. 目次の確定について 3. 東北支部との連携について	10名
29. 6. 8	北海道大学工学部	第10回 凍結・雪対策委員会 議 題 1. 建築設備の凍結防止 計画と実務 修正案および新規原 稿案について 2. 東北支部とのまとめ方について 3. 今後のスケジュール・次回会議について	10名
29. 7. 7	北海道大学工学部	第11回 凍結・雪対策委員会 議 題 1. 建築設備の凍結防止 計画と実務 目次案について 2. 修正原稿の確認について 3. 今後のスケジュール・次回会議について	7名

## 11) 学術講演会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
30. 3. 20	北海道大学工学部 フロン ティア応用科学研究棟2F 鈴木章ホール	第52回支部学術講演会 発表演題 一般講演60題、特別講演1題 協 賛：日本機械学会北海道支部	77名

## 12) 幹事会

開催年月日	場 所	件 数	参加者
30. 3. 22	北海道大学工学部	1. 報告事項 2. 本年度の行事計画・実施状況について 3. その他	8名

## 13) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	件 数	受験者
29. 11. 25～26	北海道大学工学部	平成29年度（第62次）設備士資格検定試験 空調部門（申込者） 42 名 衛生部門（申込者） 32 名	33名 27名

(4) 東北支部

1) 報告会 (第44期)

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
29. 05. 17	仙台戦災復興記念館	1. 平成28年度 事業報告及び収支決算報告 2. 平成28年度 監査報告及び承認 3. 平成29年度 事業計画案・収支予算案の審議、承認	24名

2) 記念講演会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 05. 17	仙台戦災復興記念館	演題：「ゼロ・エネルギービルとウエルネス」 講師： 田辺新一氏 (空気調和・衛生工学会 副会長) 共催： (一社) 建築設備技術者協会東北支部	25名

3) SHASE100周年/地区講演会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30. 01. 16	ユアテック本社 3階A会議室	「関連学協会賞作品にみるスマート設備システムへの取組 その1」 ～大規模街区と中小ビルにおける環境負荷低減の最先端技術～ 【内容】 講演1 第5回建築設備技術者協会カーボンニュートラル賞 (東北支部) 受賞 「次世代中小ビルにおける環境負荷低減の取組み」 講師：梅田 裕之 (大和ハウス工業) 講演2 第28回電気設備学会賞 施設奨励賞受賞 「東京スクエアガーデンの電気設備」 第54回空気調和・衛生工学会賞 技術賞 建築設備部門 受賞 「東京スクエアガーデンの環境設備計画—事業者・管理 者・入居者・建設者が四位一体で低炭素化に取り組む次世 代の都市型環境モデルビル—」 講師：小坂 千里 (清水建設) パネルディスカッション コーディネーター：内海 康雄 (仙台高専) パネリスト：梅田 裕之 (前掲)、小坂 千里 (前掲)	43名

4) 東北支部第7回学術・技術報告会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.03.09	東北文化学園大学	1. 開会 2. 学術・技術報告〔口頭発表〕 3. 特別セッション（SHASE100周年記念イベント） 「関連学協会賞作品にみるスマート設備システムへの取組その2」 ～寒冷地における環境計画と負荷低減の最先端技術～ 講演 講師：市川 卓也（山下設計） 空気調和・衛生工学会振興賞 第30回技術振興賞受賞 「北海道ガス札幌東ビル 技術開発・研修センターの環境計画と建築設備」／第5回カーボンニュートラル賞（北海道支部）受賞 「北海道ガス札幌東ビルにおける低炭素化の取組み」 パネルディスカッション コーディネーター：内海康雄（仙台高専） パネリスト：梅田裕之、小坂千里、市川卓也 4. 技術展示 5. 優秀発表奨励賞授与式 6. 閉会 7. 交流会	論文 39件 技術展示 7件 来場者 128名

5) 見学会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30.02.20	白河文化交流館 コミネス	第1回見学会「白河文化交流館コミネス」 1100人強を収容する音楽主目的の大ホールのほか、プロセニウム型で多目的に使用できる小ホール、練習室、リハーサル室及びロビー・レストランなどで構成。 設備計画も音響や省エネルギー、出演者をはじめとする使用者の利便性への配慮などが行き届いていた芸術文化による地域コミュニティの活性化や新たなコミュニティの形成を基本方針とした施設の見学。	19名

## 6) 後援行事

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 07. 16	東北大学 川内北キャンパス	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2017 出展：131団体、110プログラム 主催：特定非営利活動法人natural science	約1万名
29. 07. 28	(株)ユアテック 本社 3階会議室	日本技術士会東北本部研修会「再生可能エネルギーへの視点」 講演1「再生可能エネルギーとしての温度差エネルギー」 講師：小倉 怜子（ゼネラルヒートポンプ工業(株)） 講演2「再生可能エネルギーとしての地中熱」 講師：村上 知詠里（サンポット(株)）	61名
29. 09. 28	(株)ユアテック 本社 3階会議室	日本技術士会東北本部ふくしま未来委員会初回講演会 「ふくしまの未来に向かって」 講演1「きずなのちから」 講師：上石 美咲（福島大学） 講演2「水力発電が日本を救う」 講師：竹村公太郎（日本水フォーラム）	131名
29. 10. 03	大和ハウス工業 郡山支店・国見町庁舎	建築設備技術者協会東北支部建築設備士の日記念事業 見学会「大和ハウス工業郡山支店・国見町庁舎」 第5回（平成28年度）カーボンニュートラル賞受賞の大和 ハウス工業郡山支店と、カーボンニュートラル賞、東北支 部奨励賞を受賞の国見町庁舎の見学。	27名

## 7) 平成29年度初級技術者研修会

## ①前期・入門編

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 04. 24～28	宮城県管工事会館 9階大会議室	地球環境時代における建築設備と技術者の役割、熱の性質 講師：内海 康雄（仙台高等専門学校）	累計 82名
		都市設備・建築環境と建築設備との関わり、空気と水の性質 講師：須藤 諭（東北文化学園大学大学院）	
		建築設備に関わる建築と計画の入門 講師：渡邊 浩文（東北工業大学）	
		空気調和設備の概要、空気・熱・湿気と空気線図 空気の操作と空気の状態変化、空調熱負荷計算 講師：小林 光（東北大学）	
		熱源設備、空調配管と設計、換気設備・排煙設備 空調ダクトと設計 講師：小林 光（東北大学）	
		給排水衛生設備の概要、給水設備、給湯設備 講師：赤井 仁志（福島大学）	
		排水通気設備、衛生器具設備、再生可能エネルギー熱 特殊設備（浴場・プール設備、ディスプレイ等） 講師：赤井 仁志（福島大学）	

②後期・実務基礎編

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 05. 08～12	宮城県管工事会館 9階大会議室	負荷計算、一次エネルギー計算、空気線図、空調全般 講師：小林 光（東北大学）	累計 114名
		ダクト、排煙設備、配管、防音、設計、耐震設計 講師：金田 清満（新菱冷熱工業㈱）	
		ポンプ・送風機 講師：吉富 利治（日立産機システム㈱）	
		給水設備、給湯設備、特殊設備 講師：赤井 仁志（福島大学）	
		排水通気設備、節水・節湯・湯水の有効利用、地震被害・凍結防策 講師：赤井 仁志（福島大学）	
		消火設備 講師：宮崎 謙介（ホーチキ㈱）	
		電気設備 講師：田原 誠（㈱竹中工務店東北支店）	
		自動制御 講師：河田 年弘（ジョンソン・コントロールズ㈱ 東北支店）	
		シーケンス制御・動力盤 講師：鈴木 正幸（古川電気工業㈱）	
		ヒートポンプ 講師：谷藤 浩二（ゼネラルヒートポンプ工業㈱）	

8) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 11. 25, 26	宮城県管工事会館 9階大会議室	平成29年度（第62次）設備士資格検定試験 受験申込者 空調部門：81名 衛生部門：67名	67名 55名

9) 第32回振興賞技術振興賞（応募数2件）/第15回住宅環境設備賞（応募数0件）

開催年月日	内 容
29. 9. 11 （第1回）	1. 推薦小委員会設置とスケジュールの概略調整 2. 事前に配布した資料を基に質疑項目を検討・作成
29. 9. 28 （第2回）	1. 質疑の洗い出しと質疑のまとめ
29. 11. 27 （第3回）	1. 作業分担、スケジュールの決定
29. 11. 30 （第4回）	1. 宮城県富谷市と美里町にて現地審査・質問回答書の審査 2. 調査内容の報告と審議
29. 12. 04 （第5回）	1. 岩手県釜石市にて現地審査・質問回答書の審査 2. 調査内容の報告と審議
29. 12. 05～ 29. 12. 27 （第6回）	1. 推薦文の作成と査読 2. 推薦文の確認と決定 3. 審査結果の報告書作成（12月28日に本部へ報告）

10) 支部運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 協 議 事 項	出席者
29. 04. 10 (第1回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 平成29年度の日程確認 2. 各行事等実施報告 3. 支部報告会の運営要領等協議 4. 今後の行事について	23名
29. 07. 03 (第2回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告 2. 今年度行事について協議（第7回学術・技術報告会、 初級技術者研修会、後援行事等） 3. 第32回振興賞技術振興賞、第15回住宅環設備賞募集について	24名
29. 09. 11 (第3回)	宮城県管工事会館 8階会議室	1. 各行事等実施報告 2. 第31回振興賞技術振興賞、第14回住宅環設備賞募集結果 3. 今年度の行事について協議（第7回学術・技術報告会等） 4. 運営委員会各委員会の構成について	21名
29. 11. 27 (第4回)	宮城県管工事会館 9階会議室	1. 各行事等実施報告 2. 本部会計幹事との面談について 3. 平成29年度初級技術者研修会の企画について 4. 外部サーバーの利用について 5. 今年度の行事について協議（地区講演会等）	24名
30. 02. 05 (第5回)	宮城県管工事会館 9階会議室	1. 各行事等実施報告（地区講演会、白河文化交流館 コミネス見学会等） 2. 今年度の行事について協議 3. SHASE100年記念プレイベント・特別セッションについて 4. 第7回学術・技術報告会審査員について	20名

11) 委員会・ワーキンググループ（随時開催）

- ①総務委員会
- ②会計委員会
- ③支部長・副支部長・事業幹事会議（SHASSE100周年記念対応）
- ④東北支部学術・技術報告会組織委員会／実行委員会
- ⑤技術研修委員会
- ⑥事業企画委員会
- ⑦東北地方の建築設備研究委員会／専門委員WG
- ⑧振興賞推薦選考委員会

## (5) 中部支部

## 1) 中部支部報告会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	参加者
29. 06. 09	中部大学 三浦記念館	1. 代表理事及び支部長挨拶 2. 支部活動報告 ・平成28年度事業報告、平成29年度事業計画 ・平成28年度決算、平成29年度予算 3. 第31回振興賞技術振興賞表彰式	57名

## 2) 報告会記念講演

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 06. 09	中部大学 三浦記念館	「空調技術の魅力 ー半世紀の歩みの中でー」 中原 信生（環境システック中原研究処）	149名

## 3) 講演会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 10. 17	栄ガスビル	第31回中部支部振興賞技術振興賞及び第5回リニューアル賞 受賞作品紹介 1. 「愛知学院大学名城公園キャンパスにおける次世代型エコキャンパスのロールモデル構築」 掛江 純司（大建設計） 2. 「群馬県立自然史博物館における省エネルギー改修」 野村 太郎（日本ファンリティー・ソリューション） 3. 「クリスタルタワーの熱源・空調リニューアル」 粕谷 敦（竹中工務店）	50名
30. 03. 14	東桜会館	第55回空気調和・衛生工学会技術賞受賞作品の紹介 1. 「虎ノ門ヒルズに導入した高効率熱源・空調設備の計画と性能検証」 佐々木 真人（日本設計） 2. 日本生命保険相互会社東館における環境・設備計画と実施 水出 喜太郎（日建設計）	30名

## 地区講演会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30. 02. 22	栄ガスビル	リニア時代の到来 ～リニアにより中部地区がどう変わるか～ 1. スーパーメガリネーション構想を担う名古屋 奥野 信宏（名古屋都市センター） 2. リニア時代の東海創生（仮称） 加藤 義人（UFJリサーチ&コンサルティング）	57名

## 4) 設備士資格検定試験 (第62次)

開催年月日	場 所	部 門	参加者
29. 11. 25	中部大学	空調部門	85名
29. 11. 26		衛生部門	67名

## 5) 見学会

開催年月日	見 学 先	参加者
29. 8. 3	みなとアクルス施設見学	20名
29. 9. 8	ものづくりにおける環境への取組みと施設見学	33名

## 6) 講習会・シンポジウム

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 11. 01 29. 11. 08 29. 11. 15	栄ガスビル	「空気調和・衛生設備の基礎知識技術研修会」 ・地球環境と建築設備 尹 奎英 (名古屋市立大学) ・空気調和の概要と設備計画 田中 宏明 (日建設計) ・省エネルギーとマネジメント 田上 賢一 (新菱冷熱工業) ・空気調和設備の方式 水原 一樹 (清水建設) ・空気調和の方式 (熱源方式) 山内 祥司 (ダイダン) ・自動制御と中央監視 遠山 志郎 (アズビル) ・給排水設備の概要、給水・給湯設備 市川 幸尚 (三機工業) ・排水・通気設備、衛生器具設備 江口 忠三 (TOTO) ・消火設備 篠原 雄介 (能美防災)	11/1: 38名  11/8: 39名  11/15: 40名
30. 3. 7	今池ガスビル	「最適化研究会シンポジウム」 ・高密度蓄熱・熱搬送技術の研究開発 中村 洗平 (東邦ガス) ・清水建設技研本館の位置情報を活用した省エネ・ 快適運用の推進 大塚 俊裕 (清水建設) ・日本におけるZEBの動向と先進事例 尹 奎英 (名古屋市立大学)	21名

## 7) 中部支部学術研究発表会 (第19回)

開催年月日	場 所	内 容	参加者
30. 3. 22	東桜会館	空気調和・衛生・環境工学全般に関する研究及び事例・論文発表。ポスター発表及び優秀ポスター賞の表彰。	87名



## 8) 中部支部設立50周年記念事業

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 11. 13	ホテル メルパルク名古屋	中部支部設立50周年 記念式典・記念講演会・記念パーティー * 記念式典にて感謝状を贈呈 個 人：中原 信生（名古屋大学名誉教授） 澁谷 春壽（シブヤパイピング工業(株) 代表取締役会長） 久野 覚（名古屋大学教授） 企 業：中部電力(株)（一級賛助会員） 東邦ガス(株)（一級賛助会員） * 記念講演 「地球環境の変化を宇宙からとらえる～地球温暖化／気候変動問題へのJAXAの貢献」 平林 毅（宇宙航空研究開発機構）	記念式典：111名 記念講演：132名 記念パーティー：109名

## 9) 建築設備研究会

開催年月日	場 所	内 容	参加者
29. 6. 29	大名古屋ビルヂング	『大名古屋ビルヂング』の見学会 名古屋市中村区名駅三丁目28-12	36名
29. 12. 15	名城大学名古屋ドーム前 キャンパス	公開座談会『ワークプレイス・プロダクティビティについて考える』 座 長：恒川 和久（名古屋大学） ・愛知製鋼新本館などにおける取り組み 石橋良太郎（竹中工務店） ・ヤマハモーター・イノベーションセンターなどにおける取り組み 平野 章博（日建設計） ・オフィスラボでの実証実験の取り組み 花田 愛（岡村製作所）	86名

## 10) 委員会・その他

## ①運営委員会

開催日	開催場所	内 容	
29. 04. 25	中部大学名古屋キャンパス	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	13名
29. 05. 30	中部大学名古屋キャンパス	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	17名
29. 06. 20	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	20名
29. 07. 18	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	16名
29. 08. 22	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	17名
29. 09. 19	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	16名
29. 10. 24	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	14名
29. 11. 21	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	16名
30. 01. 23	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	13名
30. 02. 20	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	15名
30. 03. 20	TOTO名古屋 コラボレーションルーム	本部理事会報告、事業報告、今後の事業 他	16名

## ②最適化研究会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
29. 5. 30 (第173回)	中部大学名古屋キャンパス	清水建設技研本館の位置情報を活用した省エネ・快適運用の推進 中村 卓司 (清水建設)	11名
29. 7. 31 (第174回)	中部大学名古屋キャンパス	竣工後の性能検証について 山口 隆生 (三菱地所設計) 話題提供：置換換気について	9名
29. 10. 3 (第175回)	中部大学名古屋キャンパス	既製杭型地中熱利用向け省力化工法 地熱トルネード工法® 永坂 茂之 (新日本空調) 話題提供：CFDの利用実態について	10名
29. 11. 30 (第176回)	中部大学名古屋キャンパス	『環境試験に向けた直接膨張方式の開発』 永田 淳一郎 (三機工業) 話題提供：消臭・殺菌・におい	11名
30. 1. 30 (第177回)	中部大学名古屋キャンパス	「高速給排気管理システム i-Fume® (アイ・ヒューム) 概要説明」 河相 家康 (高砂熱学工業) 話題提供：現場計測	8名
30. 3. 7 (第178回)	中部大学名古屋キャンパス	(シンポジウムとして別記)	21名

## ③学術事業企画委員会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
29. 10. 12	中部大学名古屋キャンパス	学術研究発表会の内容確認と役割分担、論文締切、プログラム編成会議等の日程決定。	9名
30. 2. 27	中部大学名古屋キャンパス	学術研究発表会、研究会について	9名

## ④振興賞推薦委員会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
29. 9. 5	名古屋大学ES総合館506号室	技術振興賞推薦小委員会 第1回 応募業績, 審査スケジュール説明	4名
29. 11. 28	名古屋大学ES総合館506号室	技術振興賞推薦小委員会 第2回 推薦文審議	6名

## ⑤50周年記念事業実行委員会

開催年月日	場 所	内 容	出席者
29. 5. 30	中部大学名古屋キャンパス	(第1回) 記念事業部会、記念誌部会、総務部会合同会議	13名
29. 7. 10	中電ビル本館1階会議室	(第2回) 記念事業部会、記念誌部会、総務部会合同会議	11名
29. 8. 10	中電ビル本館1階会議室	(第3回) 記念事業部会、記念誌部会、総務部会合同会議	7名
29. 9. 6	中電ビル本館1階会議室	(第4回) 記念事業部会、記念誌部会、総務部会合同会議	9名
29. 10. 10	中電ビル本館1階会議室	(第5回) 記念事業部会、記念誌部会、総務部会合同会議	12名
29. 11. 8	中電ビル本館1階会議室	(第6回) 記念事業部会、記念誌部会、総務部会合同会議	8名

## (6) 北信越支部

## 1) 支部報告会 (第48回)

開催年月日	場 所	報 告 事 項
29. 5. 26	福井市 福井パレスホテル	1. 平成28年度事業報告 2. 平成28年度収支決算報告 3. 平成29年度事業計画 4. 平成29年度収支予算 5. 平成29年度支部運営委員 6. その他 ・第31回 振興賞 技術振興賞 授与式

## 2) 活動・運営委員会

開催年月日	場 所	内 容・主 要 議 題	出 席 者
29. 5. 26	福井市 福井パレスホテル	1. 支部運営委員会	15名
29. 5. 26	福井市 福井パレスホテル	1. 講演会 (空衛学会設立100周年記念) 「固有の技術を活かして、新成長産業へ挑む」	53名
29. 5. 27	永平寺、朝倉氏遺跡	1. 見学会	35名
29. 7. 14	テレビ会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	9名
29. 8. 28	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	12名
29. 8. 28	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	5名
29. 11. 10	テレビ会議	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	7名
30. 3. 27	富山市 富山第一ホテル	1. 支部運営委員会 今後の支部運営について 他	12名
30. 3. 27	富山市 富山第一ホテル	1. 学術委員会 学術委員会の活動について	5名

## 3) 設備士資格検定試験

開催年月日	場 所	内 容・主 要 議 題	受 験 者
29. 11. 25	新潟テルサ	空調部門	26名
29. 11. 26		衛生部門	26名

## 4) 見学会・講演会・講習会・フォーラム

開催年月日	場 所	内容・主要議題	受講者
29. 5. 26	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「衛生器具」	66名
29. 5. 26	福井市 福井パレスホテル	1. 講演会（空衛学会設立100周年記念） 「固有の技術を活かして、新成長産業へ挑む」	53名
29. 5. 27	福井県 永平寺、朝倉氏遺跡	1. 見学会	35名
29. 6. 20	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「樹脂配管の使用範囲の広がり」 他	57名
29. 7. 3	長野市 信州大学工学部	1. 講習会 「第1回中央監視（自動制御）システム」	185名
29. 7. 25	金沢市 石川県立中央病院	1. 見学会 「石川県立中央病院見学会」	70名
29. 7. 27	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「太陽光・エコキュート、BEMS・HEMS」	54名
29. 9. 21	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「冷凍・冷蔵設備」	71名
29. 10. 24	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 技術講習会 「脱臭技術について」 他	38名
29. 11. 8	金沢市 石川県地場産業振興センター	1. 研修会 「光環境に関する研究動向について」 他	108名
29. 11. 8	福井市、越前町 福井県営体育館、越前古窯博物館	1. 見学会	25名
29. 11. 8	長野市 信州大学工学部	1. 講習会 「第2回中央監視（自動制御）システム」	115名
29. 11. 10	福島県 西郷村民プール、光雲閣	1. 見学会	19名
29. 11. 10	金沢市 ながせ	1. 『設備女子会（石川地区）』交流会	15名
29. 11. 14	富山市 富山電気ビル	1. 設備フォーラム 「新しいハイブリッド空調の時代」 他	64名
29. 11. 16	新潟市 新潟卸センターnocプラザ	1. 講習会 「機器の構造理解向上（GHPについて）」	69名
30. 2. 6	金沢市 金沢ものづくり会館	1. 技術講習会 「ZEBと快適性について」 他	32名
30. 2. 28	福井市 福井県国際交流会館	1. 技術講習会 「超高効率変圧器と省エネ関連補助金・建物評価制度について」	33名
30. 3. 9	富山市 高志会館	1. 技術講習会 「新型空冷ヒートポンプチラーの概要」 他	57名
30. 3. 9	新潟市 新潟テルサ	1. 技術講演会 「建築物省エネ法に係る省エネ基準適合義務の施行状況について」 他	71名

(7) 近畿支部

I. 事務報告

1) 支部報告会並びに関連行事

① 支部報告会（第54期）

開催年月日	場 所	主 要 議 題
29. 5. 19	ガーデンシティ クラブ大阪	1. 平成28年度 事業実績報告の件 2. 平成28年度 収支決算報告の件 3. 平成29年度 事業計画案報告の件 4. 平成29年度 収支予算案報告の件 5. 平成29年度 委員選任の件  以上各報告

参加者 39人

② 記念講演会

開催年月日	場 所	題 目・講 師
29. 5. 19	ガーデンシティ クラブ大阪	「パスカル『パンセ』入門—「考える葦」から「賭け」へ」 講師：山上 浩嗣 大阪大学大学院文学研究科教授

参加者 66人

2) 運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題
29. 4. 28	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 3. 支部報告会開催に関する件 4. 会計報告(収支報告・予算案)に関する件
29. 5. 19 (拡大)	ハービスPLAZA 会議室	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 委員等の交代に関する件 4. 第54期支部報告会・関連行事等に関する件 5. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件
29. 6. 30 (拡大)	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 平成29年度各委員会の役割に関する件 4. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 5. 平成29年度年間予定表（各委員会別）に関する件
29. 7. 28	阪大中之島 センター	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 平成29年度年間予定表（各委員会別）に関する件
29. 10. 23 (拡大)	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 平成29年度年間予定表（各委員会別）に関する件
29. 11. 20	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 3. 平成29年度年間予定表（各委員会別）に関する件 4. 本部委員会旅費交通費について

29. 12. 18	エル・おおさか	1. 支部長からの連絡事項 2. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 3. 新年交礼会開催に関する件 4. 支部組織図に関する件
30. 1. 9 (拡大)	ハービスPLAZA 会議室	1. 本部理事会報告の件 2. 支部長からの連絡事項 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 会計報告(収支報告・予算案)に関する件 5. 平成29年度委員会開催日程の件
30. 3. 20 (拡大)	エル・おおさか	1. 本部理事会報告の件 2. 各委員会の委員長交代の件 3. 各委員会の報告事項及び審議事項に関する件 4. 平成30年度年間予定(各委員会別)に関する件

## II. 事業報告

### 1) 第32回振興賞技術振興賞に関する業務実施

技術振興賞推薦小委員会にて審査資料を検討の上、現地調査を行い審査

### 2) 平成29年度(第62次)設備士資格検定試験(大阪)に伴う業務実施

試験日 平成29年11月25日(土)空調部門 受験申込者 152名

平成29年11月26日(日)衛生部門 受験申込者 144名

試験場 大阪大学

### 3) 能力開発委員会

#### ①研修会(1)

開催年月日	場 所	内 容	受講者
29. 5. 8～12	エル・おおさか	初級技術者のための基礎知識研修会 研修科目 16科目	全講座 75名 パート別 12名

#### プログラム

区分	日程	時 間	題 目	講 師	所 属
共 通	5. 8	9:30～11:00	建築設備の知識	弓崎 幸治	㈱東畑建築事務所
		11:10～12:30	電気の知識	西尾 徹	㈱きんでん
		13:30～15:30	設備図面の知識	梅村 俊輔	㈱日建設計
		15:40～17:40	施工と安全管理	平 俊樹	ダイダン㈱
給排水	5. 9	9:30～12:30	給水・給湯設備	竹原 貴子	須賀工業㈱
		13:30～15:30	衛生器具設備	小出啓次郎	TOTO㈱
		15:40～17:40	消火設備	渡具知善治	元㈱城口研究所
給排水	5. 10	9:30～12:30	排水・通気設備	森嶋 章浩	㈱西原衛生工業所
		13:30～15:30	排水処理設備	大屋 雅英	㈱西原ネオ
		15:40～17:40	配管と材料	曾我部峰幸	㈱三晃空調
空 調	5. 11	9:30～11:00	室内環境	甲谷 寿史	大阪大学
		11:10～12:30	空調負荷	千原 崇	三機工業㈱
		13:30～15:00	空調・換気設備	辻 晴亮	三機工業㈱
	5. 12	9:30～12:30	湿り空気線図	谷口 勝則	㈱昭和設計
		13:30～16:00	熱源設備	門脇 宏和	新日本空調㈱
		16:10～17:40	排煙設備	新保東輝彦	㈱朝日工業社

②研修会 (2)

開催年月日	場 所	内 容	受講者
29. 6. 6～7 29. 6.13～14	エル・おおさか	中堅技術者のための研修会 (パート1～8)	全 講 座 21名 パート別 41名

プログラム

開催年月日	時 間	題 目・講 師		
29. 6. 6	10:00～13:00	建築計画と設備計画	田中 宏昌	(株)日建設計
	14:00～17:00	設備リニューアル計画	坂元 永和	(株)大気社
29. 6. 7	10:00～13:00	熱源システム	吉田 岳	新日本空調(株)
	14:00～17:00	自動制御とビル管理システム	福田 裕行	(株)大林組
29. 6.13	10:00～13:00	用途別空調システム (業務用)	野口 照二	高砂熱学工業(株)
	14:00～17:00	用途別空調システム (産業用)	中村 浩二	新菱冷熱工業(株)
29. 6.14	10:00～13:00	給排水設備の動向	加川 一郎	須賀工業(株)
	14:00～17:00	施工管理とトラブル事例	平 裕二	ダイダン(株)

③一般講習会

開催年月日	場 所	内 容	受講者
29.12. 22	大阪大学 中之島センター	空気調和・衛生工学会100周年記念シンポジウム (近畿支部) 「空気調和・衛生工学のフロンティア：今後100年の展望」 ①持続可能代謝系都市を主導する空衛技術者 水野 稔 (大阪大学 名誉教授) ②コミッションングで100年建築を創る 吉田 治典 (京都大学 名誉教授) ③ヒートアイランド対策技術の展望 ～クリマアトラスと気候変動 適応策～ 森山 正和 (摂南大学) ④都市に眠る熱エネルギー資源の活用 中尾 正喜 (大阪市立大学) ⑤これからの湿気と建物・人との関わりあい 銚井 修一 (京都大学) ⑥蓄熱式空調システムの現状と将来 相良 和伸 (四国職業能力開発大学校)	109名

④地区講演会

開催年月日	場 所	内 容	受講者
30. 2. 28	ドーンセンター	平成29年度地区講演会 (近畿支部) 「臭気と換気効率を考慮した換気設計手法の提案」 報告者：山中 俊夫 (大阪大学)	66名

4) 見学会委員会

開催年月日	見 学 場 所		参加者
29.10. 4	キューピー神戸工場		21名
29.11.29	中之島フェスティバルタワー・ウエスト		27名

5) 学術研究発表委員会

①第47回学術研究発表会

申込締切 平成30年1月11日 (木)  
原稿締切 平成30年2月23日 (金)  
開催日時 平成30年3月13日 (火)  
会 場 大阪大学中之島センター



一般講演86件、技術報告講演18件、参加168名  
奨励賞審査員16名、司会者18名  
奨励賞受賞者7名

6) 広報・情報委員会

①支部ホームページの運用・維持管理

研究会・講習会の資料をホームページよりダウンロードするシステムを運営中  
研修会・講習会の申し込みをホームページ上で行うシステムを運営中

②ホームページの活用法等に関する検討と提案

環境工学研究会の会員申し込みをホームページ上で行うシステムを運営中

③技術資料収集および支部広報活動の検討

④その他

学術研究発表会論文集のPDF化  
支部パンフレットの配布  
技術フェローと優秀論文ポスターを近畿支部ホームページに掲載

7) 国際交流委員会

①国際技術動向報告会

実施日 平成30年1月9日（火）

場 所 ハービスPLAZA

演 題 「2016年ASHRAE冬季大会（フロリダ）および2017年冬季大会（ラスベガス）  
の視察報告、ジャパンセミナーの講演内容紹介、米国環境配慮建築の視察報告」

講 師 (1)2016年ASHRAE冬季大会、関連行事および視察の報告 中嶋俊介（大阪ガス）

(2)2017年ASHRAE冬季大会、関連行事および視察の報告(1) 下田吉之（大阪大学）

(3)2017年ASHRAE冬季大会、関連行事および視察の報告(2) 今井田尚文（清水建設）

参加者 34名

②第8回国際学生交流会

留学生を対象に研究交流・見学会・懇親会を実施

実施日 平成29年10月25日（水）

場 所 中之島フェスティバルタワー・ウエスト

参加者 29名

③国際学術交流講演会

実施日 平成29年10月10日（火）

場 所 ドーンセンター

演 題 「全熱・顕熱回収換気装置の性能評価と欧米での最新動向」

講 師 Mrs Kenneth Carlsson & Claes Jäderholm (REC Indovent AB) 、

Ms. Tomoko Hansson (日英専門通訳者)

参加者 51名

④空気調和・衛生工学会近畿支部国際交流事業

応募無し

8) 総務企画委員会

①運営委員会、運営委員会（拡大）、支部報告会に関する検討

②運営委員会、運営委員会（拡大）の議事次第、議事録作成並びに年間予定表（各委員会別）の随時更新

9) 環境工学研究会運営委員会

①登録数 個人登録：85名 団体登録：39社

②プログラム

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
29. 6. 16 (第326号)	ドーンセンター	「ヒューマンファクターとパーソナル空調」 報告者：近本 智行（立命館大学 工学部建築都市デザイン学科教授） 李 明香（立命館大学 工学部建築都市デザイン学科准教授） 羽鳥 大輔（三菱地所設計 設備設計二部）	63名
29. 7. 21 (第327号)	ドーンセンター	振興賞技術振興賞、支部学術研究発表会奨励賞の成果報告	31名
29. 9. 22 (第328号)	ドーンセンター	「屋外・半屋外空間の暑熱環境と暑さ対策について考える」 報告者：永長 大輔（内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局） 中野 淳太（東海大学 工学部建築学科） 田中 宏昌（日建設計 エンジニアリング部門設備設計グループ）	46名
29. 10. 27 (第329号)	ドーンセンター	「窓の熱性能と省エネルギー・室内環境」 報告者：木下 泰斗（日本板硝子） 永田 明寛（首都大学東京）	32名
29. 11. 17 (第330号)	ドーンセンター	「Integrated Design 環境建築のこれから」 報告者：佐々木真人（日本設計） 杉原 浩二（日建設計） 一ノ瀬雅之（首都大学東京）	41名
29. 12. 15 (第331号)	ドーンセンター	「湿気・換気の基礎研究とその最前線」 報告者：伊庭千恵美（京都大学） 小林 知広（大阪市立大学）	29名
30. 1. 26 (第332号)	ドーンセンター	「蒸気設備の省エネ性、トラブル防止のポイント」 報告者：橋爪 裕宜（ティエルブイ） 三浦 正敏、上笹 政仁（三浦工業）	42名

10) 会員委員会

①会員数増加に関する方策検討

## (8) 中国・四国支部

## 1) 報告会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 6. 2	広島ガーデンパレス	1. 平成28年度事業報告に関する件 2. 平成28年度収支決算報告に関する件 3. 平成29年度事業計画報告に関する件 4. 平成29年度収支予算報告に関する件	29名

## 2) 地区講演会（報告会付帯）

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 6. 2	広島ガーデンパレス	「バイオマス利用の概要と水熱技術の可能性」 講 師：広島大学大学院工学研究科機械物理工学専攻 教授 松村 幸彦	83名

## 3) 支部運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 4. 28	広島管工事会館	1. 平成28年度事業報告に関する件 2. 平成28年度収支決算報告に関する件 3. 平成29年度事業計画報告に関する件 4. 平成29年度収支予算報告に関する件 5. 平成29年度支部報告会のスケジュールに関する件 6. 平成29年度地区講演会に関する件 7. 学会100周年支部事業に関する件	8名
29. 7. 10	広島管工事会館	1. 平成29年度事業計画案に関する件 2. 平成29年大会に関する件 3. 学会100周年支部事業に関する件	8名
29. 8. 25	広島管工事会館	1. 平成29年度事業計画案に関する件 2. 学会100周年支部事業に関する件 3. 学会大会に関する件 4. 情報運営委員会に関する件 5. 振興賞スケジュールに関する件	8名
29. 10. 20	広島管工事会館	1. 平成29年度事業報告に関する件 2. 学会100周年支部事業に関する件 3. 第11回技術発表会に関する件 4. 平成29年度事業計画案に関する件 5. 情報運営委員会に関する件	8名

## 4) 情報運営委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 6. 8	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	2名
29. 8. 24	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	4名
29. 11. 22	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	5名
30. 2. 22	広島管工事会館	1. 支部ホームページの更新に関する件	6名

## 5) 委員会合同会議

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 5. 9	広島管工事会館	1. 報告会当日のスケジュールに関する件 2. 報告会報告事項に関する件	11名
29. 6. 2	広島ガーデンパレス	1. 報告会並びに関連行事運営の細目に関する件	19名

## 6) 振興賞技術振興賞推薦小委員会

開催年月日	場 所	主 要 議 題	出席者
29. 10. 20	広島管工事会館	1. 技術振興賞表彰規程の確認に関する件 2. 応募業績に関する件 3. 今後の審査予定に関する件	5名
29. 11. 15	広島管工事会館	1. 応募業績のヒアリングに関する件 2. 今後の審査予定に関する件	6名
29. 12. 7	あかがねミュージアム	1. 現地調査に関する件	3名
29. 12. 12	広島管工事会館	1. 応募業績現地調査報告に関する件 2. 推薦業績の決定に関する件	6名

## 7) 見学会

開催年月日	見 学 場 所	参加者
29. 9. 22	修道中学校・修道高等学校プール	43名

## 8) 技術セミナー

開催年月日	場 所	題 目	参加者
30. 3. 9	RCC文化センター	(第1部) 「住宅におけるCO2ヒートポンプ式給湯機の稼働実態と性能評価に関する研究」 (広島大学大学院教育学研究科 人間生活教育学講座 准教授 高田 宏) (第2部) 「西条市庁舎における地域資源の有効活用についての検証・評価-水・風・光・木の活用-」 (株安井建築設計事務所 環境・設備部 寺井 千佳) (第3部) 「サンスターホール (坂町立町民交流センター) ~エコロジカルな防災拠点を目指した環境・設備計画~」 (株竹中工務店広島支店 設計部 横山 輝明)	58名

## 9) 技術発表会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 11. 17	まちづくり市民交流プラザ 研修室AB	第11回技術発表会 ○特別講演 最新技術の動向 「広島豪雨災害を踏まえた避難所の整備について」 (広島市危機管理室 災害予防課 課長 河本 秀明) 「災害時マンホールトイレについて」 (積水化学工業(株) 環境・ライフラインカンパニー西日本支店 開発部長 向井 政博) ○技術発表会 「(仮称)広島西部SCプロジェクト 【レクト】に於ける外壁ダクトユニット化」 (東洋熱工業(株) 黒住 政徳) 「アルミニウム配管による冷媒配管施工の省力化」 (三機工業(株) 内山 聖士) 「総合病院におけるハイブリッド給湯の提案事例」 (株中電工 高橋 恵一) 「環境に配慮した配管洗浄技術「排水レスフラッシング工法」」 (高砂熱学工業(株) 龍 昌一良)	68名

10) 学会100周年支部記念講演会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 10. 27	サテライトキャンパス ひろしま	<p>「建築環境・設備技術者が描く建築設備の将来」</p> <p>第1部 特別講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ICTが拓く建築設備の将来 —持続可能な社会情報システムに向けて—」 (九州大学大学院 システム情報科学研究院 情報知能工学部門 教授 福田 晃)</li> </ul> <p>第2部 講演会</p> <p>“支部の技術シーズから見える建築設備の将来”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「未利用熱の活用によるヒートポンプの省エネルギー化」 (広島大学大学院工学研究科 建築計画学講座 助教 金田一 清香)</li> <li>「システム同定を用いたモデル化による空調制御の調整と改善」 (国立米子工業高等専門学校 建築学科 教授 前原 勝樹)</li> <li>「避難所体育館熱環境の基礎的検討」 (福山大学 工学部 建築学科 講師 伊澤 康一)</li> <li>「ZEB Readyからはじまる建築設備の将来」 (山口大学大学院 創成科学研究科 建設環境系専攻 准教授 桑原 亮一)</li> </ul> <p>第3部 パネルディスカッション</p> <p>「支部のあゆみとこれから」</p>	73名

11) 設備士資格検定試験

実施年月日	場 所	受験申込者内訳
29. 11. 25, 26	広島情報専門学校	「平成29年度(第62次)設備士資格検定試験」 空調部門： 51名 衛生部門： 50名

12) その他〔共催〕

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 7. 1	広島工業大学 広島校舎	<p>日本建築学会中国支部環境工学講演会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「工場向け囲い込み置換空調に関する研究」 山口大学 工藤 光幸</li> <li>「乗用車における浮遊真菌の実態調査」 山口大学 蔵下 祥太</li> <li>「中国人被験者による広島県の観光地に対するキャプション評価法による評価結果」 広島大学 石川 瑞穂</li> <li>「CFD解析による貯留水ヒートポンプ運用時の熱的挙動に関する研究」 広島大学 河崎 啓太</li> <li>「室内空間を対象とした全天球画像による観察特性と心理的評価との関連に関する研究」 広島大学 秋山 美早季</li> </ol> <p>主 催：建築学会中国支部環境工学委員会</p>	39名
29. 11. 14	中国電力(株)本社	<p>「スマートグリッドの電気事業者・需要家間サービスインタフェース技術」</p> <p>主 催：電気学会中国支部</p>	30名

29. 12. 16	広島大学 東千田キャンパス	環境工学講演会 1. 「打ち上げ花火を利用した都市インパルス応答による屋外反射応答評価」 (島根大学大学院 下倉良太) 2. 「潜熱・顕熱分離空調システムと省エネルギー」 (山口大学大学院 桑原亮一) 主 催：日本建築学会中国支部環境工学委員会	43名
30. 2. 2	(株)中電工本店	講演会「日新電機が提案するSPSSスマート電力供給システム」 主 催：電気設備学会中国支部	39名

13) その他〔後援〕

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 8. 4～ 8. 5	東広島芸術文化ホール くらら	第10回雨水ネットワーク全国大会in広島 主 催：雨水ネットワーク全国大会in広島実行委員会	240名
29. 12. 8	広島YMCA	次世代技術者のための講演会～輝け！若手技術者たち～ 主 催：建築設備技術者協会中国・四国支部	198名

## (9) 九州支部

## 1) 支部報告会 (第52期)

開催年月日	場 所	主 要 題 目	参加者
29. 5. 19	福岡商工会議所ビル (407号室)	・第52期事業報告、会務報告、会計報告 ・第53期支部事業計画ならびに予算について ・第31回振興賞技術振興賞表彰式	38名

## 2) 講演会 (報告会附帯)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
29. 5. 19	福岡商工会議所ビル (407号室)	「ゼロエネルギービルとウェルネス」 講 師：田辺 新一 氏 本会副会長・早稲田大学教授	112名

## 3) 振興賞技術振興賞報告会 (報告会附帯)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
29. 5. 19	福岡商工会議所ビル (407号室)	受賞件名 「佐賀県医療センター好生館」 報告者：國吉 敬司 氏 (株式会社日建設計) 「えがお本社ビルの空気調和システム」 報告者：清水章太郎 氏 (株式会社久米設計)	92名

## 4) 市民公開シンポジウム (本部100周年記念企画)

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
29. 10. 20	TERASO I ビル 5階 (蘇芳・連翹・雪柳)	熊本地震後のいま、学ぶこと、考えること、実践すること 1. 「避難所コミュニティを仮設住宅につなぐ」 講 師：吉村 静代 氏 (益城だいすきプロジェクト) 2. 「福岡市での防災への取り組み」 講 師：定直 孝之 氏 (福岡市市民局防災・危機管理部) 3. 「熊本地震による建築設備の被害状況」 講 師：村田 泰孝 氏 (崇城大学)	201名

## 5) 見学会 (本部100周年記念企画)

開催年月日	場 所	参加者
29. 11. 21	佐賀県医療センター好生館, 九州電力(株)生物資源研究センター	22名

## 6) 国際学生交流会 (施設見学)

開催年月日	場 所	参加者
30. 2. 19	(福岡市) シーサイドももち熱源センターおよび天神地区	53名

## 7) 講習会

開催年月日	場 所	題 目・講 師	参加者
30. 2. 21	電気ビル共創館 (会議室A)	九州におけるコミッションングの拡がり 1. 「新長崎県庁舎建設工事におけるコミッションングの取り組み」 講 師：高屋 誠 氏 (長崎県総務部県庁舎建設課) 2. 「沖縄科学技術大学院大学におけるコミッションングの取り組み」 講 師：當間佳代子 氏 (沖縄科学技術大学院大学 施設管理セクション) 講 師：松下 直幹 氏 (株式会社アレフネット) 3. 「佐賀県医療センター好生館におけるコミッションングの取り組み」 講 師：國吉 敬司 氏 (株式会社日建設計)	96名

## 8) 学術・技術交流会 (第1回)

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 10. 20	TERASO I ビル 5階 (蘇芳・連翹・雪柳)	・研究発表 (口頭発表：5題, ポスター発表：22題)	59名

## 9) 試験関係

開催年月日	場 所	題 目	受験者
29. 11. 25 29. 11. 26	九州大学筑紫地区	・平成29年度 (第62次) 設備士資格検定試験	空調 60名 衛生 58名

## 10) 支部運営委員会・幹事会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 4. 26	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第53期年間行事予定 3. 第24回九州支部学術研究発表会について 4. 第52期九州支部報告会および附帯行事について 5. 第53期委員名簿について	26名
29. 5. 19	福岡商工会議所ビル (406号室)	1. 本部理事会・通常総会報告 2. 第53期年間行事予定 3. 第52期九州支部報告および附帯行事の最終確認	21名
29. 7. 26	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第53期年間行事予定 3. 平成29年度 (第32回) 技術振興賞応募状況について 4. 100周年記念市民公開シンポジウムについて 5. 九州支部学術・技術交流会について 6. 100周年記念施設見学会について	23名
29. 9. 28	博多駅南Rビル会議室	1. 第53期年間行事予定 2. 第1回九州支部学術・技術交流会について 3. 100周年記念市民公開シンポジウムについて 4. 100周年記念施設見学会について 5. 支部講習会について	25名



29. 10. 17	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第53期年間行事予定 3. 第1回九州支部学術・技術交流会について 4. 100周年記念市民公開シンポジウムについて 5. 100周年記念施設見学会について 6. 支部講習会企画について	19名
29. 10. 20	TERASO I ビル 5階 (蘇芳・連翹・雪柳)	1. 第53期年間行事計画予定 2. 100周年記念市民公開シンポジウムの最終確認	23名
29. 12. 19	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第53期年間行事予定 3. 第1回九州支部学術・技術交流会報告 4. 100周年記念市民公開シンポジウム報告 5. 100周年記念施設見学会報告 6. 支部講習会について 7. 国際交流について 8. その他	24名
30. 3. 22	博多駅南Rビル会議室	1. 本部理事会報告 2. 第53期年間行事予定 3. 支部講習会報告 4. 国際学生交流会報告 5. 第53期支部報告会について 6. その他	22名

#### 11) 賛助委員会

開催年月日	場 所	題 目	参加者
29. 4. 24	(株)産研設計会議室	・第1回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第52期支部報告会準備打合せ	幹事 7名
29. 6. 27	(株)産研設計会議室	・第2回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ	幹事 6名
29. 8. 28	(株)産研設計会議室	・第3回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ	幹事 6名
29. 10. 3	(株)産研設計会議室	・第4回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・市民公開シンポジウム、支部学術・技術交流会、施設見学会打合せ	幹事 6名
29. 12. 4	(株)産研設計会議室	・第5回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・支部講習会打合せ	幹事 6名
30. 3. 6	(株)産研設計会議室	・第6回支部運営委員会・幹事会準備打合せ ・第53期支部報告会準備打合せ	幹事 6名

### 3. 資格付与の実施に関する事項

#### (1) 設備士資格検定委員会

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事 業 内 容
設備士資格検定委員会 阿部 靖則	38	平成29年度（第62次）設備士資格検定試験の実施にあたり、試験問題の作成および試験運営について審議、決定した。 受験申込者実数は1,746名で、受験資格審査の結果、有資格者実数は1,729名（空調部門1,394名、衛生部門1,297名）であった。 試験日は空調部門11月25日（土）、衛生部門11月26日（日）であり、全国9都市（東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・新潟・広島・福岡・那覇）において実施した。

(2) 平成 29 年度 (第 62 次) 設備士資格検定試験

受験申込期間 平成 29 年 8 月 1 日 (火) ～8 月 31 日 (木)  
 試験実施日 空調部門 平成 29 年 11 月 25 日 (土)  
 衛生部門 平成 29 年 11 月 26 日 (日)  
 試験実施地 全国 9 都市  
 (東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・新潟・広島・福岡・那覇)

	延人数	内 訳 (人)		実人数
		空調	衛生	
受験申込者	2,714	1,408	1,306	1,746
有資格者	2,691	1,394	1,297	1,729
出席者	2,020	1,088	932	
合格者	840	465	375	
不合格者	1,180	623	557	

#### 4. 技術開発・研究開発の実施に関する事項

##### (1) 規格制定事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
標準化委員会 月館 司	10	<p>1. 学会規格 (SHASE-S) の改定について理事会に提案した。  <b>【SHASE-S 119-2017】</b> 空気調和設備室内騒音の測定方法  <b>【SHASE-S 115-2017】</b> 室内換気効率(規準化居住域濃度)の現場測定法  <b>【SHASE-S 220-2017】</b> 器具排水特性試験法  <b>【SHASE-S 117-2017】</b> 換気・空調設備の現場風量測定法</p> <p>2. 学会規格 (SHASE-S) の5年見直し(改定・確認・廃止)について協議した。</p> <p>3. 平成30年度学会規格 (SHASE-S) 改定小委員会の設置を 審議・決定した。  <b>【SHASE-S 010】</b> 空気調和・衛生設備工事標準仕様書改定小委員会  対象規格：空気調和・衛生設備工事標準仕様書 (2013)  <b>【SHASE-S 012】</b> 建築設備用あと施工アンカー改定小委員会  対象規格：建築設備用あと施工アンカー (2013)</p> <p>4. 第15回功績賞受賞候補業績について審議・決定し、功績賞選考委員会に推薦した。  &lt;業績名&gt;  <b>【SHASE-S 119-2017】</b> 空気調和設備室内騒音の測定方法</p> <p>5. 他団体規格等に関する委員会委員について選任した。  ◇一般財団法人 電気安全環境研究所  (製品認証専門委員会)  ◇ステンレス協会  (SAS 322_一般配管用ステンレス鋼鋼管の管継手性能基準_規格_規格認定委員会)  ◇一般社団法人 公共建築協会  (建築材料・設備機材等品質性能評価委員会)  ◇国土交通省 大臣官房 官庁営繕部  (環境保全性を確保するための官庁施設の整備手法に関する検討会)</p>
冷暖房熱負荷簡易計算法 改定小委員会 石野 久彌	10	<p>おもに、以下のテーマについて議論した。</p> <p>1. 事務所の最大熱負荷、年間熱負荷の簡易計算法  ・計算条件、実験計画について検討し、東京のみでなく全国全ての都道府県について熱負荷表を作成した。</p> <p>2. 住宅の最大熱負荷、年間熱負荷の簡易計算法  ・計算条件、実験計画について検討し、省エネ基準の8地域区分の代表都市について熱負荷表を作成した。</p> <p>3. その他建物の最大熱負荷、年間熱負荷の簡易計算法  ・計算条件について検討し、東京のみでなく全国全ての都道府県について熱負荷表を作成した。  ・室用途として学校の教室を追加した。</p> <p>4. エネルギー計算のための機器効率  ・ルームエアコン、パッケージエアコンについて地域補正係数を作成した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
冷暖房熱負荷簡易計算法 改定小委員会 (続き)		5. 規格文書の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所、住宅、その他建物の熱負荷表から規格文書を作成した。</li> <li>・事務所、その他建物の出力特性値として室負荷、外気負荷、装置負荷を採用した。</li> </ul> 6. プログラム開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最大熱負荷、年間熱負荷の表が膨大となるため、プログラムを開発した。</li> </ul>
減圧弁改定小委員会 村田 博道	7	昨年度の検討を踏まえて作成されたSHASE-S 106の改定原案のたたき台をもとに、7回の審議を経て改定原案の作成を行った。 今回の改定においては、 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建物の高層化を踏まえて減圧弁の規格において最高使用圧力を1MPaから1.6MPaに拡大</li> <li>2. 労働安全衛生法施行令による使用材料の制限の反映および適用材料の見直し</li> <li>3. 現行規格SHASE-S 106-2005の用語・付図の見直し</li> </ol> を主としているが、規格の本体と解説の内容や表現について全て確認した。 特に、解説の内容については、全7回の審議のなかで4回の審議を行い、判りにくい表現の修正、減圧弁に直接関係の無い図の削除、文章だけでは判りにくい親子弁方式と安全弁・逃がし弁の吹出し圧力について新たに解説図を追加した。 以上を踏まえて、SHASE-S 106の改定原案を作成した。
給排水衛生設備規準・ 同解説改定小委員会 中島 一義	12	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体会議において、各WGで作成した改定案原稿（全体原稿）についての協議・検討</li> <li>2. 全体会議での協議に基づいて、各章の担当WGごとに改定案原稿（全体原稿）の修正</li> <li>3. 全体会議で修正を行った箇所の最終確認</li> <li>4. 技術要項の変更内容の検討・修正</li> <li>5. 全体原稿のとりまとめ、及び原案提出用原稿の作成</li> </ol>
換気規準・同解説 改定小委員会 山中 俊夫	5	「SHASE-S 102 換気規準・同解説」の狙いは、室内の良好な空気環境を達成し、これを保持するための換気設備の技術的基準を示すものである。従って、本規格は、換気計画や換気設計を行う際の最も拠り所となる基準で、換気関連規格の中でも根幹をなすものである。本規格は1972年に制定されたHASS102換気（案）を基に、2003年に新たに制定されて以来、WHOで変更された新たな換気負荷への対応、あるいは住宅の厨房の換気計画に必要なデータの整備などを目的に2011年に改定が加えられて現在に至る。その後も外気の二酸化炭素濃度の大幅な上昇に基づく換気量の見直しや、換気効率のさらなる正確な情報が求められており、これに応えるため本規格の改定の必要性が高まってきている。 そこで本年度は、下記の項目について審議を行った。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本換気規準の経緯の確認とともに、改定項目の洗い出し。</li> <li>2. 改定すべき項目として、空気質小委員会、換気効率小委員会、及び建築学会規準（臭気）の活用の検討。</li> <li>3. 国際及び海外の換気基準である、ISO/TC163 WG4, ASHRAE 62.1, 62.2, EN13779, DS/CEN/CR 1752における換気のコネクションについての検討。</li> <li>4. 現状の喫煙環境と加熱式たばこの取り扱いに関する議論。</li> <li>5. 二酸化炭素発生量については、最新情報を追加。</li> <li>6. 具体的な適用範囲とする室の検討。</li> <li>7. 改定項目の分担を決定し、順次改定を行った。</li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
トレーサガスを用いた 単室の換気量測定法 改定小委員会 倉渕 隆	2	<p>本規格「SHASE-S 116」は、「SHASE-S 102 換気基準・同解説」を支える規格の一つであり、トレーサガスを利用した数種類の測定法の要領を規定したものである。今回の改訂では、用語の定義や使用するトレーサガスの見直し、実例・応用例の更新などを改定の主目的としている。</p> <p>現行のSHASE-S 116 2011を元に作成されたものがISO 12569である。すなわち、ISOをSHASE-S 116に再度反映させる必要がある。今年度(29年度)は最終年度であり、原案を提出しまとめる必要があったが、ISO 12569の改訂作業終了が29年秋にずれ込み、改訂作業もそれに伴い遅れた。</p> <p>第1回小委員会では、ISO原案並びにSHASE-S 116を委員に配布し、委員間で分担を決めて、ISOの翻訳とSHASE-S 116との対比作業を行うことを宿題にした。第2回委員会では翻訳作業の進捗状況の確認と、改訂するにあたっての問題点について議論し、また、同時進行で現行SHASE-S 116との対比作業を進める予定である。</p>
金属製変位吸気管継手 改定小委員会 山崎 祐二	4	<p>以下の活動を行った。</p> <p>2017.04.27【第1回】現行規格についての改定必要事項の洗い出しと整理</p> <p>2017.06.29【第2回】製造者・使用者の要求(要望)事項の時間経過における変化の確認</p> <p>2017.09.29【第3回】製品に対する関係規格の改廃状況と追加の確認</p> <p>2018.01.26【第4回】改定原案の作成</p>
メカニカル形変位吸気管 継手改定小委員会 倉田 雅史	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>現在の製品供給状況に応じ、不要と思われる部分を検討</li> <li>本文に残す部分と、付属書等に移行する部分を見直した</li> <li>関連企画との整合を行った</li> <li>「作成のための手引」への準拠を見直した</li> <li>改定文章の作成(順次)</li> </ol>
ゴム製変位吸気管継手 改定小委員会 松島 俊久	4	<p>前回改定から8年以上経過したこともあり、当時の製造者が生産中止していたり、新たな製造者も出てきている中、委員についての委嘱も遅れて小委員会をスタートした。今年度は、改定のための準備段階である。その中で実施した内容は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>今までの改定経緯の確認 今回の委員は、前の委員会経験者がほとんどいないため、今まで3回の改定の主旨やポイント、残された課題などを確認した。同時に、最近、設計者などで必要とされる試験・検査も把握した。</li> <li>各製造者の製品の種類・仕様の確認 製造者が新旧入れ替わっているため、今回、新たに製品の種類・仕様を調査することにした。そのための書式を作成した。その書式で各製造者に記載を依頼し、一覧表にまとめた。</li> <li>現行規格の見直し洗い出し用書式の作成 現行規格と見直しすべき部分や内容についてまとめるための書式を作成した。</li> <li>関連するJISや業界基準などの把握</li> </ol>
送風機の音響パワー レベル測定方法 改定小委員会 高木 正尚	6	<p>送風機の音響パワーレベル測定方法改定小委員会は、SHASE-S 110 送風機の音響パワーレベル測定方法の改定原案の作成を目的とする委員会である。</p> <p>設置初年度の今年度は、改定方針について協議し、規格の章毎に執筆担当の委員を決定し、解説を含む改定原案の作成に着手した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
オイル阻集器改定委員会 小南 和也	9	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員及び関係者からの質問・意見を求め、規格改正の意見の蓄積を図った。</li> <li>2. 文献、資料の収集、関連法令の調査を行い、整理・検討した。</li> <li>3. 現状の現場を把握するために、実態調査の検討を行った。</li> <li>4. 改正が必要な基礎数値の洗い出しを行い、それを確認するための実験方法を検討した。</li> </ol>

## 5. 講座・セミナーの実施に関する事項

### (1) 教育普及事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
教育普及事業委員会 村西 良司	4	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 委員会が管掌する本部事業の企画ならびに運営について検討した。</li><li>2. 初級技術者のための研修会、技術講演会、セミナー初級技術者のためのステップアップ研修会、中堅技術者のための研修会、見学会の企画・実施を行なった。</li><li>3. 平成29、30年度の本委員会が管掌する事業について大要を検討した。</li></ol>



## (2) 学術事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術事業委員会 大岡 龍三	6	<p>1. 平成29年度大会(高知)の実施  会期：平成29年9月13日(水)～15日(金)  会場：高知工科大学 香美キャンパス  参加者：1,280名  講演論文：一般643編(うちInternational Session12編)、オーガナ  イズドセッション29編  委員会中間報告 設置2年目の8調査研究小委員会  第55回学会賞論文賞受賞論文発表  第55回学会賞技術賞受賞物件発表  特別賞第17回「十年賞」・第5回「リニューアル賞」受賞物件発表  第31回振興賞技術振興賞受賞物件発表  スチューデントフォーラム  テクニカルツアー  ワークショップ 1件に関するテーマ  International Session Special Lecture(国際セッション 特別講  演)  日時：9月14日(木)9:00～10:00  会場：高知工科大学 教育研究棟C101教室  参加者：約170名  展示会  期間：9月13日(水)午後～15日(金)午前  規模：企業・団体：10社11コマ、研究機関：10大学研究室14コマ  交流会  日時：9月13日(水)  会場：一般：三翠園 桜の間(19:00～21:00)  学生：高知工科大学 学生会館(17:30～19:00)  出席者：一般：221名、学生：81名  公開講演会  日時：9月13日(水)16:00～17:30  会場：高知工科大学 教育研究棟C101教室  参加者：約190名  優秀講演奨励賞  受賞者：18名  大会学術講演論文集の発行  発行日：平成29年9月1日(金)</p> <p>2. スチューデントフォーラムの活動  スポーツ大会  種目：ボーリング  日時：10月13日(金)16時～19時  見学会  見学先：東京ドーム  日時：3月15日(木)15時30分～17時  会誌の発行</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事 業 内 容
学術事業委員会 (続き)		<p>3. 第51回空気調和・冷凍連合講演会(東京)の共催            共 催：当学会(幹事学会)、日本冷凍空調学会、日本機械学会            会 期：平成29年4月19日(水)～21日(金)            会 場：東京海洋大学 海洋工学部 85周年記念会館            講演件数：一般講演 44件                      特別講演 1件                      基調講演 3件                      技術賞講演 6件                      参加登録 142名</p> <p>4. 平成30年度大会(名古屋)の開催計画            会 期：平成30年9月12日(水)～14日(金)            会 場：大同大学            関連企画(予定)：第56回学会賞“論文賞”“技術賞”受賞物件の講演、技術展示会、テクニカルツアーその他</p> <p>5. 平成31年度大会の開催予定            会 期：平成31年9月            会 場：北海道支部管轄の大学</p> <p>6. シンポジウム            開催申請、終了報告を承認</p> <p>7. 第30回環境工学連合講演会の運営協力(主催：日本学術会議)            会 期：平成29年5月23日(火)            会 場：日本学術会議講堂</p>

(3) CPD事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
CPD事業委員会 坂下 行範	3	CPD制度の課題を整理し以下の検討を行った。 1. 履歴登録内容の審査ならびに履歴審査担当者の調整 2. CPDポイント表の改定 (外国語による発表のポイント加算を見直し、表彰対象を整理) 3. WEB履歴登録システム修正事項の検討 4. CPD参加者からの依頼事項の検討 (英文証明書発行) 5. 証明書発行業務の実施 6. 所属する協議会等の運営に関する報告 7. 年次報告書、計画書、委員候補者名簿、予算の検討

(4) 各種会合

管掌	名 称	開催年月日	場 所	参加者数	発表件数・テーマ	会誌掲載号
学術理事	空気調和・冷凍連合講演会*	29. 4. 19～21	東京海洋大学85周年記念会館	142	一般講演：44編、特別講演：1件、基調講演：3件、技術賞講演：6件	29. 3
	年次大会**	29. 9. 13～15	高知工科大学 香美キャンパス	1,280	一般講演：643編、オーガナイズドセッション：29編	29. 7
	公開講演会	29. 9. 13	高知工科大学 香美キャンパス	190	東日本大震災を契機とする災害対策の新たな考え方	29. 7
	シンポジウム	29. 7. 20	空気調和・衛生工学会会議室	22	100周年記念シンポジウム 公共施設としての給食センターのあり方	29. 6
	シンポジウム	29. 10. 30	NSRIホール	65	100周年記念シンポジウム ビジネスとしてのコミッション普及に向けて～オーナーが語るCxの有用性と課題～	29. 10
	シンポジウム	29. 10. 18	空気調和・衛生工学会会議室	12	100周年記念シンポジウム 住宅設備設計プラットフォームとBIMのあり方について	29. 9
	シンポジウム	29. 10. 27	空気調和・衛生工学会会議室	64	100周年記念シンポジウム 大規模災害後のBCP・LCPに対応する給排水衛生設備の計画・設計と対策を考える	29. 9
	シンポジウム	29. 11. 1	空気調和・衛生工学会会議室	54	100周年記念シンポジウム 建物エネルギーシステムの運用最適化の実施動向と今後の課題	29. 9
	シンポジウム	29. 11. 17	空気調和・衛生工学会会議室	32	100周年記念シンポジウム 次世代の給排水衛生設備への期待と展望	29. 10
	シンポジウム	29. 11. 30	工学院大学 アーバンテックホール	137	100周年記念国際ワークショップ Workshop on World Collaboration for Creating Future-From Viewpoint of Built-Environment-	29. 11
	シンポジウム	29. 12. 7	空気調和・衛生工学会会議室	40	100周年記念シンポジウム 次世代がめざす給排水衛生設備の新技術～若手研究者・技術者が語る将来像～	29. 11
	シンポジウム	29. 12. 11	早稲田大学 西早稲田キャンパス 55号館N棟1階大会議室	100	100周年記念シンポジウム ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の先進事例	29. 11
	シンポジウム	29. 12. 21	空気調和・衛生工学会会議室	45	100周年記念シンポジウム これからの地域エネルギーマネジメント	29. 11
	教 育 普 及 理 事	社員総会特別講演会	29. 5. 11	明治記念館	300	学会の百年遺産と将来像
技術講演会		29. 7. 19	空気調和・衛生工学会会議室	93	IoTとAI利用の現状	29. 6
セミナー		30. 2. 9	空気調和・衛生工学会会議室	53	建築設備設計・施工の生産性向上技術の最新動向 ー建築設備分野における働き方改革へのアプローチー	29. 12
初級技術者のための研修会		29. 4. 17～ 29. 4. 21	KFC Hall&Rooms Room115	107	初級技術者のための研修会	29. 3
初級技術者のための ステップアップ研修会		29. 7. 13～ 30. 7. 14	空気調和・衛生工学会会議室	19	初級技術者のための ステップアップ研修会	29. 6
中堅技術者のための研修会		通年	空気調和・衛生工学会会議室	517	中堅技術者のための研修会	29. 3
見学会		29. 6. 22	_____	30	ペプチドリーム本社・研究所	29. 6
見学会		29. 7. 12	_____	30	京橋エドグラン	29. 6
見学会		29. 8. 29	_____	30	竹中工務店東関東支店ZEB化改修	29. 8
見学会		29. 2. 27	_____	29	川崎火力発電所の高効率化と蒸気供給事業への取組み	30. 1

\* 第51回：当学会（幹事学会）・日本冷凍空調学会・日本機械学会共催 \*\* 優秀講演奨励賞受賞者：18名

## 6. 調査資料収集の実施に関する事項

### (1) 学術調査研究事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学術委員会 大岡 龍三	2	以下について協議を行った。 1. 学術事業の統括に関する事項 2. 委員会年次報告、計画、予算、委員候補者に関する事項 3. 公募型研究委員会の実施に関する事項 4. 国際交流事業 (ASHRAE, CIBW062, CLIMA2016)に関する事項 5. 委員会成果報告書の品質確保に関する事項 6. 関連学協会への委員派遣および行事等に関する事項
研究委員会 竹部 友久	4	1. 管掌委員会に関する事項 1) 常設委員会、傘下小委員会の構成について審議し承認した 2) 平成29年度年次報告書および平成30年度計画書、予算、委員候補の審議、承認を行った。 3) 委員会終了報告書 (9件)、新規設置申請書 (7件) の審議、承認を行った。 4) 委員会成果報告書の提出の調整およびレポート番号付番を行った。 5) 各表彰の推薦を行った。(功績賞、篠原記念賞、篠原記念奨励賞) 2. 研究助成候補者等の推薦に関する事項 1) 財団法人鹿島学術振興財団:1件 2) 財団法人とうきゅう環境浄化財団:申請なし 3) 財団法人給水工事技術振興財団:1件 4) 独立行政法人日本学術振興会:申請なし 5) 関係団体からの研究助成推薦依頼に関する検討:申請なし 3. 国際交流に関する事項 1) 国際交流視察団の派遣 ①第22回国際建築設備調査団 第CIB W062国際シンポジウム(オランダ・ハーレム) 期 間:2017年8月20日(日)~8月27日(日) 団 長:大塚 雅之君 関東学院大学 副団長:西川 豊宏君 工学院大学 参加者:18名 ②第27回国際交流視察団 ASHRAE冬季大会(シカゴ) 期 間:2018年1月20日(土)~1月28日(日) 団 長:大岡 龍三君 東京大学 副団長:熊谷 雅彦君 日本ファシリティ・ソリューション 参加者:38名 2) 学術交流を目的とする海外渡航に対する補助金支給に関する件(会員情報理事付託事業) 国際会議参加補助金:1件 3) 国際名誉員に関する件(会員情報理事付託事業) 1名を理事会へ推薦、承認された。 4) その他、関連の海外受信文書を適宜処理した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
空気調和設備委員会 村上 公哉	4	<p>本委員会は、以下の5つの小委員会にて構成されている。本年度は、委員会を4回開催した。そして、毎回以下の点について、情報共有、審議および検討を行っている。また2小委員会がシンポジウムを開催した。</p> <p><b>【小委員会構成】</b></p> <p>①次世代型地域エネルギーシステム検討小委員会（吉田 聡主査）            ②環境建築における室内環境検討小委員会（甲谷 寿史主査）            ③空調システムの設計・評価検討小委員会（田中 英紀主査）            ④熱環境システム動的設計法検討小委員会（富樫 英介主査）            ⑤パーソナル空調適用条件検討小委員会（佐々木真人主査）            ⑥ZEB計画指針検討小委員会（丹羽英治主査）</p> <p><b>【委員会検討事項】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究委員会からの伝達事項の報告および付託事項の協議</li> <li>2. 各小委員会の活動内容の報告と意見交換</li> <li>3. 各小委員会の平成30年度事業計画・予算の検討</li> <li>4. シンポジウムの企画・計画</li> <li>5. 空気調和設備の設計に関わる話題提供と意見交換</li> </ol>
次世代型地域エネルギー システム検討小委員会 吉田 聡	5	<p>平成28年4月、電力の小売りが完全自由化、熱供給事業は許可制から登録制へと変更された。平成29年度には、ガス事業においても自由化が進められる。このような社会的背景の中で熱供給事業を主体とした地域エネルギーシステムから地域の電力融通、需要家ビルを含めた統合マネジメント、地域の災害時機能継続など新たな動向が進展すると考えられる。そこで本小委員会では、これらの状況を踏まえた、今後の地域エネルギーシステムの役割やあり方を整理、検討する。</p> <p>本小委員会は3年間の期間のうち今年度は2年目であり、合計5回の小委員会を開催した。活動の内容としては、以下の情報収集および議論を行った。</p> <p>[第1回] MM21地区における自立分散型エネルギーシステムの導入及び拡大に関する研究            d4PDFデータを用いた将来の地域熱供給需要予測</p> <p>[第2回] 既存の地域熱供給事業区域内に設置されたコージェネレーションシステム（CGS）の導入形態及びメリット・デメリット</p> <p>[第3回] 熱源水ネットワークについて            シンポジウム企画に関して</p> <p>[第4回] [第5回] シンポジウム開催に関して、次年度報告書とりまとめ方針について（予定）</p> <p>また、学会100周年記念事業の一環として、平成29年12月21日（木）にシンポジウム「これからの地域エネルギーマネジメント」を空気調和衛生工学会会議室にて開催予定である。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
環境建築における室内 環境検討小委員会 甲谷 寿史	3	<p>建物の低炭素・省エネルギー化、節電等の社会的要求を背景としたZEB (Zero Energy Building)化の中で、いわゆる環境建築が急増している。環境建築においては、LED照明化、ペリメータレス空調、ファサードの工夫、自然換気の導入等々、急激に新技術が導入されている。これら技術に対して、省エネルギー評価を目的とした測定手法の検討や、BEMSを中心としたコミショニング技術は種々導入され、エネルギーベースの議論は行える状況にある。しかしながら、本来担保されなくてはならない空気質、温熱環境、光環境等の室内環境の議論が後手に回っている可能性があり、一歩立ち止まって室内環境の担保手法を考える必要がある。</p> <p>本小委員会では、この問題意識と、前身委員会で取り組んだセンシング技術等の継続的な調査の必要性に鑑み、室内環境を担保する空調機器やセンサ等の関連メーカーが数多く存在する関西地方を中心に活動し、各企業の関連技術開発状況のヒアリング、最近竣工した環境建築の室内環境に関する動向調査、設計者・専門研究者へのヒアリング等を通じて、環境建築における室内環境の実態を明らかにするとともに、室内環境を担保するための技術に関してとりまとめることを目的とする。</p> <p>第1回目の小委員会では、関西電力南大阪営業所の見学を行い、あわせて当該建物で個別空調を外部指令制御により室内環境をセンシングしながら省エネ・デマンド低減を行なう取り組みに関する委員報告があり、室内の湿度調整方法やセンシング方法に関する議論を行なった。</p> <p>第2回目の小委員会では、「冬期における建物内湿度の実態調査と乾燥感に配慮した環境調整目標」に関する委員の報告が行なわれ、各在室者の乾燥感と実際の湿度には相当な幅がある点が問題提起された。また、大阪ガス北部事務所の在室者の行動観察を利用した省エネルギー改修の報告がなされ、当該建物の見学を行なうとともに、在室者の意見を室内温度設定に反映させ、冷房時の設定温度を過剰に下げることによる冷やしすぎを防いだ省エネルギーの取り組みに関する議論を行なった。</p> <p>第3回目の小委員会では、「病室でのノンドラフト空調、輻射空調」について委員の報告が行われ、ベッド上でのドラフトや吹出音に配慮した病室用吹出口に関する議論を行なった。また、竣工直後の新日生病院の設計概要と室内環境での配慮事項についての議論を行なうとともに、病院内各施設の実地調査を行なった。</p> <p>次年度も、引き続きこれらの調査・検討を継続し、室内環境の担保方法や先進事例に関する研究を行なう予定である。</p>
空調システムの設計・ 評価検討小委員会 田中 英紀	5	<p>本小委員会では、建物の新築・改築や既存建物の機能改修におけるZEB指向の建築ストック移行に伴って変貌を来す空調負荷形態や実現温熱環境の変化に対応すべく、近年提案されている先進的な空調システムについて、その設計・制御法のあり方および今後の性能向上のための課題整理を目的に活動を行った。</p> <p>今年度は、先ずZEB指向建築の熱負荷特性の整理した。ここでは、近年の内部発熱等の室負荷要素の実情や期間熱負荷特性などを、委員がこれまでに行った解析結果や文献レビューをもとに検討した。</p> <p>次に、現時点でデファクトスタンダードと考えられ得る、次世代型空調システムの事例を収集し、これらのシステムに対する、現時点における課題や更なる効率向上のための視点について検討した。</p> <p>さらに、慣習的な空調設備設計や運用にとまらぬ問題点や、その問題解決のための新たな着眼点について提案を行った。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
熱環境システム動的 設計法検討小委員会 富樫 英介	3	<p>3回の委員会を開催し、以下の内容について議論を進めた。</p> <p>第1回（2017/6/8 開催）</p> <p>本委員会の趣旨を委員に説明するとともに、エミュレータシステムの開発状況についての解説を行った。また、エミュレータシステムから出力された運転データを分析した結果について報告を行った。エミュレータに追加すべき機能について指摘があり、特に人間の滞在の不確実性や人間の熱的快適性の拡充が提案された。</p> <p>第2回（2017/10/6 開催）</p> <p>エミュレータシステムの開発の進捗および運転データ分析結果について報告があった。特に二次側のVAV制御の不安定性や蓄熱槽まわりの運用状態の異常について懸念が示され、改善が必要であることが示唆された。</p> <p>また、人間の環境受容に関連し、ヒューマンファクターの考え方について報告があった。熱源・空調設備の運用方法に関連し、中温水による建物の設計・運用例の報告があった。</p> <p>エミュレータを用いたコンペティションの実施に向け、興味がありそうな研究者・実務者に対してアンケートの実施を行うことが提案された。アンケート内容に関しては、主査および幹事でとりまとめ、メールにて審議し、年末に実施となった。</p> <p>第3回（2018/1/26 開催）</p> <p>実施したアンケートの結果について報告があった。最低5組程度の参加を狙ってコンペの実施要綱などの条件を調整していく方針となった。実施要綱の設定のために、追加アンケートを許諾した主体に対して、試用版エミュレータの配布と実施要綱案を配布し、再度のアンケートないしはヒアリングを実施する方針が示された。</p> <p>現在のエミュレータの動作状況が示された。蓄熱槽空調システムの概要について解説が行われ、エミュレータ内の熱交換器周りの制御不良の可能性について議論があった。</p> <p>室内温熱環境の受容に関する研究報告が行われ、エミュレータを利用したコンペにおける総合評価指標の設定方法に関して議論が行われた。</p>



委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
パーソナル空調適用 条件検討小委員会 佐々木 真人	5	<p>パーソナル空調は、ワークプレイスにおけるZEB化指向、快適性に関わる付加価値空調システムとして次代に期待される技術である。本小委員会では、パーソナル空調に関する基礎情報の収集に加え、システム導入背景を技術的側面で捉え、アンビエント域との関係性など適用条件の整理を行うことを目的としている。</p> <p>今年度、5回の小委員会を開催している（予定を含む）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最新事例に関する情報収集           <p>パーソナル空調が導入された2つの事例について調査、情報収集を行なった。1つは、パーティションを活用し、パネル放射、パネル接触冷却、気流感創出用ファンを組み込んだシステムを現地見学調査し、2つめは、天井放射空調をベース空調として、天井に気流感創出ファンを設置し、個人の好みによって操作できるシステムについて詳細な説明をうけた。共に快適感に関する申告評価を行なうことに加え、操作性や使用方法についても先進的に取り組んだ事例であり、今後の技術展開に向けて、有益な情報を提供いただいた。</p> </li> <li>2. 快適性評価に関する情報収集           <p>パーソナル空調によって得られる効果の評価手法についても議論を行なった。健康に着目した認証制度WELLにおいては、パーソナル空調の影響項目の抽出し、システム設計でのポイントなる点を議論した。また、空調システムによって室内環境状態は変動性などが異なることから、確率論的温熱受容性の評価を試みる研究についても情報提供された。その他、建物内室内環境に限らず、放射環境に強度な偏差が生じるトラクター内環境での快適性向上手法として、放射冷却方式の比較や接触冷却の効果などについても参考技術として議論した。</p> </li> <li>3. 最新の周辺技術動向に関する調査           <p>様々なIT技術が進化しており、パーソナル空調に関連しそうな他分野の技術も開発されている。それらの空調システムへの展開可能性を議論するため、多面的な技術情報を収集し、議論している。</p> </li> </ol>
ZEB計画指針検討 小委員会 丹羽 英治	6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ZEB実現のための要素技術の抽出と体系化           <p>日本における先進事例の調査結果をもとに、要素技術の整理を行った。</p> </li> <li>2. 計画指針（ガイドライン）の検討           <p>計画指針（ガイドライン）のひとつとして、パンフレット「ZEBの先進事例集」を発刊した。</p> </li> <li>3. 継続的研究テーマ           <p>今後のテーマとして、バイオマスエネルギーの評価方法、社会的価値評価方法等についての検討を開始した。</p> </li> <li>4. 国内外への情報発信           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) H29年度大会（高知）において、OS「ZEBの先進的取り組み」を実施した。（2017.9.14）</li> <li>2) REHVA Summit、REHVA Conference 2017 に参加し、日本のZEBへの取り組みを発信するとともに、今後のREHVAとの共同研究の枠組みを構築した。（2017.11.13-14）</li> <li>3) 100周年記念シンポジウム「ZEBの先進事例」を実施した。（2017.12.11予定）。</li> </ol> </li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
給排水衛生設備委員会 大塚 雅之	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各小委員会の研究テーマと調査の運営方法について、審議検討した。</li> <li>2. 各小委員会の平成30年度の計画と予算について検討した。</li> <li>3. 小委員会の成果が、本学会の各種出版物等の内容に影響する部分を明らかにするための報告事項を審議した。</li> <li>4. 本学会の功績賞・篠原記念賞の推薦候補について審議した。</li> </ol>
大規模厨房設備設計 検討小委員会 浅野 良晴	4	<p>大規模厨房設備は、HACCP等の衛生管理基準に則って設計する必要がある。食品納品から保管にわたる安全性と衛生面の管理、調理機材の性能と規模とそれらのレイアウト等の計画、製品の搬送計画を考慮に入れて計画する。</p> <p>厨房設備の規模は多岐にわたっていることから、本小委員会のミッションとしては学校給食に関して検討することとした。給食センターでは食器などの洗浄装置のレイアウト等、施設の設計にあたって資料や設計事例が不足しているため、学会の設備の設計者には多大な負担となっている。現在、空気調和・衛生工学会からもその様な資料が出ておらず、設計時に参照することができない状況である。そこで本小委員会では、実際の施工事例をまとめると共に関連する法律や用語を解説した上で計画の要点を説明し、メーカーの資料だけではわからない学会の設計理念を盛り込んだ事例集を作成することとした。</p> <p>本小委員会で審議するために、厨房工業会様から3名の委員に参加いただいた。資料を提出するだけでなく、実際の給食センターの視察会も企画していただき、多くの体験ができ、実際の運用に関する見聞を広めることができた。</p> <p>小委員会の2年目に、熊本地震があり、給食センターの被害が発生したことから、BCPへの関心が高まった。そこで、内閣府の担当部署の方から、国の考えるBCPの在り方に関して講演をいただいた。同時に給食センターの建設にあたり、地方自治体には多大な財政負担があることから、PFIに関する関心が高まった。これについても内閣府の担当部署の方から、国の考えるPFIの在り方に関して講演をいただいた。</p> <p>本年度は、こうした研究の成果を報告書として仕上げることに重点をおき、3年間の委員会活動のまとめを行った。</p>
最適給水システム 小委員会 村川 三郎	5	<p>小委員会活動は2年目に入り、9月の高知大会では中間報告をすると共に、以下の活動を引き続き実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 給水給湯負荷データの収集と分析。具体的には以下のような建物用途について検討を進めた。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 規模・利用特性の異なる事務所ビルの給水量調査と原単位の集計。小規模オフィスの水使用実態の分析。</li> <li>2) 事務所ビル（研修所、研修宿泊室、食堂を含む）給水量の年間に渡るデータを分析し、原単位の集計を実施。</li> <li>3) 集合住宅の給水量調査と分析。</li> <li>4) 病院の給水量データを収集し、月・日・時間別に分析。</li> </ol> </li> <li>2. 動的給水給湯負荷算定法の検討。昨年度と同様にMSWCプログラムの精度検証と適用モデルの構築を進めた。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実測データのある事務所ビルを対象に、MSWCプログラムによる算定結果と比較し、算定精度の検証。</li> <li>2) 病院の不特定多数の利用があるトイレ用途について、MSWCプログラムに適用する算定モデルの検討。</li> <li>3) 代表的な給水器具について、MSWCプログラムに適用可能な給水パターンの整備を実施。</li> </ol> </li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
最適給水システム 小委員会 (続き)		<p>4) 算定モデルを構築するために、大学施設のトイレ利用状況について給水量と在室人員の関係を調査。</p> <p>5) 事務所ビルの時間別データの適用を考慮し、建物全体およびトイレシステムを対象にユニットモデルの検討。</p> <p>3. 給水給湯システムの検討。昨年度から引き続き、瞬時負荷の扱い、給水ポンプ容量の決定法などについて討議。</p> <p>1) 瞬時負荷の時間間隔の取り扱いについて、実測とシミュレーション結果から検討。</p> <p>2) 給水システムの最適設計に向けて、負荷変動とポンプ容量・電力消費量、および給水負荷と管径について引き続き検討。</p> <p>3) ホテルを対象に、給湯負荷と貯湯槽容量・熱源容量の関係について引き続き検討。</p>
給排水衛生設備 設計手法検討小委員会 小原 直人	8	<p>給排水衛生設備設計技術規準・同解説SHASE-S206-2009を見直すため、下記の活動を行った。</p> <p>1. 見直し方法に関する審議を行った。見直しのためには実験的研究が必要であることから、本小委員会としては見直し項目の提案までとし、具体的見直し数値化は別委員会に委ねることとした。</p> <p>2. 給排水の管径設計方法に関して、設計者に国土交通省規準、SHASE-S206-2009設計規準などの利用状況をアンケート調査することとした。具体的には、アンケート内容と解析は全員で審議し、アンケート作業はワーキンググループを設け行っている。</p> <p>3. 海外規準のうち、給排水に関する管径設計規準を翻訳し、節水機器などの規準化の状況を調査する。具体的には2018 INTERNATIONAL PLUMBING CODE (略称 IPC)と、IAPMO 2015 UNIFORM PLUMBING CODE (略称UPC)を購入し、ワーキンググループ内で翻訳作業をし、全員で審議している。</p> <p>4. 国土交通省より、節水大便器の器具給水負荷単位の規準化案を発表いただき、審議を行い理解を深めた。</p>
再生可能エネルギーと 多熱源利用調査小委員会 赤井 仁志	8	<p>下記の活動を行った。</p> <p>1. 再生可能エネルギー熱に関わる補助金の情報収集を行った。</p> <p>2. 国の動向の調査と傾向の情報収集を行った。</p> <p>3. 給排水衛生設備の他に、冷暖房で利用されている再生可能エネルギー熱の事例を調査した。</p> <p>4. NWD0の熱源水ネットワーク研究開発事業の調査をした。</p> <p>5. 地中熱+空気熱のハイブリッドシステムの情報収集をした。</p> <p>6. 再生可能エネルギー熱利用施設の見学会を行った。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
節水型衛生器具普及の あり方提言小委員会 豊貞 佳奈子	5	<p>国内外での衛生器具の節水化動向と関連政策、および各国での家庭用水使用量内訳を調査・検討し、我が国における節水型器具普及のあり方を提言するために、初年度は次の研究活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自治体アンケート調査企画 <p>国内の節水化動向と家庭用水使用量を調査するために、自治体約600箇所を対象に「節水政策と水使用実態に関するアンケート調査」を実施すべく、調査項目等を検討した。節水型便器普及に成功している福岡市水道局を訪問ヒアリングし、アンケート調査項目や送付先(部局)に関して協力を得た。節水型衛生器具の普及啓発や導入助成の実績、雨水利用、増圧直結給水普及促進に関する項目を調査する。配布先は各自治体の水道局とし、政令指定都市、中核市、施行時特例市(計104市)に全件配布する。残り約500市を9地域(北海道・東北・・・)に分け、各地域の給水人口の大・中・小3～4都市ずつを選定した。また、水道料金が特に高い/低い自治体を30都市程度ずつ選定した。今年度末(3月末)にアンケート発送予定である。</p> </li> <li>2. 海外の節水器具、節水政策情報収集 <p>各委員が、便器・水栓金具の各国節水規格、中国の給排水基準、各国の給排水システム概要に関する資料を収集し、情報共有を行った。</p> </li> <li>3. その他 <p>日本レストルーム工業会から「水のCO2排出係数」統一化と算出方法に関する説明があり、当委員会から意見を伝えた。また、オーストラリアがISOに提案中の節水ラベリング案について当委員会にて協議し、意見を国内とりまとめ先である日本建材・住宅設備産業協会に伝えた。</p> </li> </ol>
建物における雨水対策 検討小委員会 金津 文夫	11	<p>小委員会では初年度として3つの課題を挙げて活動を進めてきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集中豪雨における排水管、利用施設等の設備側の不具合の検討 <p>アンケートを実施し、集中豪雨による不具合の実態について回答を得た。 回答よりこれらを分類、対応策についてまとめていく。 未回収分のアンケートは現在、再確認中。必要があれば再度追加アンケート実施を行う予定。</p> </li> <li>2. 敷地内における雨水浸透貯留施設の全国の都市の技術の動向調査 <p>雨水浸透および貯留施設に雨水利用施設を組み合わせる場合、行政による制限が加わるが、この内容について考え方や行政の指導内容を東京都での行政協議を一例として調査実施予定(2月中旬)。 浸透施設の事例について、小委員会に公開可能な施設について調査中。</p> </li> <li>3. 雨水利用施設の処理工程の問題点とその対策 <p>雨水利用を行う際の設備に対する問題点や対策について検討を行ってきた。沈降分離やろ材については設計の際に統一した基準などが明記されていないこともあり今後小委員会でその対応をまとめていく。</p> </li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
排水通気システム設計 基礎検討小委員会 本郷 智大	7	<p>近年の技術動向や過去の関連小委員会で排水負荷算法や性能評価手法等を協議し検討した成果・課題点を踏まえ、現状の設計手法や性能評価手法を拡充することを目的に、検討を要する事項について抽出を行うための協議を行った。協議を重ねた上で以下の検討項目を決定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排水通気設計法の問題抽出のためにアンケートを実施し、集計結果から検討事項の整理・検討。</li> <li>2. 技術要綱改訂に向け、SHASE-S206の排水負荷単位等について、IPC等の国外規格との比較検討。</li> <li>3. 技術要綱規定においては近年の実証結果を反映、再調できる内容があるため、関連する項目を精査し、大会論文等の集約と整理。</li> </ol> <p>具体的な取り組みとして、1. について、排水通気設計に関するアンケートを作成し、その内容、項目の協議を重ね精査した上で、設計事務所、施工会社等にアンケートの送付を行った。2. については、対比表を作成する草案として、SHASE-S206の排水負荷単位に関する内容について一部整理を行った。3. については、過去の小委員会資料基に調査内容、項目の検討を行った。</p>
ビル管理システム委員会 大島 一夫	5	<p>最終年度となる「既存BEMS保全・更新検討小委員会」、「建物エネルギーシステムの運用最適化検討小委員会」および、「BCP対応型BEMS検討小委員会」の3小委員会体制で活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親委員会としての活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 3小委員会の活動に対し、意見交換し、方向性を調整した。</li> <li>2) BEMSの動向およびこれを取りまく環境に関する情報交換を継続して実施した。</li> <li>3) 次年度の計画について議論調整し、次年度から「AI活用による建物システムの運用最適化検討小委員会」および「在室者情報活用BEMS検討小委員会」の2つの新小委員会を立ち上げることを決めた。</li> </ol> </li> <li>2. 小委員会の活動概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 既存BEMS保全・更新検討小委員会（主査：百田真史） 世代交代が早いICTを利用するBEMSの劣化要因、更新・改修の動機、更新・改修の設計・施工の実例および既存BEMSが保有するデータの利活用上の留意点等について成果報告書にまとめた。</li> <li>2) 建物エネルギーシステムの運用最適化検討小委員会 (主査：大岡龍三) 建築分野で現在導入されている運用最適化事例の調査、整理、代表的な最適化手法の分類を行うと共に、運用最適化システムの導入のための課題等をまとめ、シンポジウムを開催し、成果報告書を作成した。</li> <li>3) BCP対応型BEMS検討小委員会（主査：増田幸弘） BCPの観点から災害対応型ビル管理システムのあり方を検討しており、2年目になる今年度は、自社オフィスビルを対象に、発災後の状況把握支援機能、オペレーション支援機能などのケーススタディを行っている。</li> </ol> </li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
既存BEMS保全・更新 検討小委員会 百田 真史	2	<p>BEMSにPCが組み込まれることが一般的となり、PCの発展と並行して普及が進んできたBEMSであるが、PCは世代交代が早いこともあり、基幹ソフトのサポート打ち切りやPCパーツの供給停止といった問題が顕在化しつつある。また今後、建築物の保守管理ストックが増加することを考えると、上記問題のみならず、BEMS全体を見渡した「保全と更新」について検討する時期に差し掛かっている。</p> <p>そこで本小委員会においては、現状における対処事例および方法に関する調査を実施しつつ、BEMSを提供・使用・保守するそれぞれの立場における課題の整理を行った。またBEMS機能の経年劣化や中長期データの活用方法について検討を行った。</p> <p>小委員会の設置期間は3年間であり、平成27・28年度の活動成果の発表と意見交換を目的として、平成29年3月に100周年事業の一環としてシンポジウムを開催し、最終年度となる平成29年度において最終的に報告書として取りまとめた。</p> <p>本報告書の概要としては、1. BEMSの更新・改修の動機の背景として、BEMSに着目した改善および維持活動について取り纏めた。2. また計画・設計の概要および事例調査としてメンテナンス項目や更新内容などを取り纏め、3. 議論の取りまとめとして蓄積データの高度な利用について考察を行った。</p> <p>これにより、BEMSの保全・更新の実践に資することを期待する。</p>
建物エネルギーシステムの 運用最適化検討 小委員会 大岡 龍三	5	<p>本小委員会では、建物や地域エネルギーシステムの熱源機器等の最適運用の実現のために、実際の事例をもとに最適制御の導入可能性や実務上の導入障壁等を究明することを目的とする。</p> <p>本小委員会の2年目となる本年度は、昨年度につづき熱源システム最適化に関する事例の収集を行った。また、外部講師を招き、日本および世界の電力システムを取り巻く現状について議論を深め、今後のシステム最適制御の必要性・重要性について認識を共有した。</p> <p>第7回は2017年4月6日に行われ、田中委員から名古屋大学研究所共同館、菊池委員からあべのハルカス、塩谷委員から三建設備工業つくばみらい技術センター、福井委員から虎ノ門ヒルズにおける最適制御事例の紹介がなされた。また、大岡主査からシンポジウム開催の提案と日程案が出された。</p> <p>第8回は同年6月7日に行われ、シンポジウムの日程調整および発表内容の検討が行われた。発表内容の検討では、冒頭の研究背景において外部講師による発表を予定している旨、また、シンポジウムの最後に取り上げる「現時点での課題」に関して委員の間で議論した。</p> <p>第9回は同年7月12日に行われ、シンポジウムに招聘予定の外部講師による発表と西川委員による小田急百貨店の事例紹介がなされた。外部講師による発表では、日本で行われているデマンドレスポンス実証に関して意見を交わした。</p> <p>第10回は同年8月24日に行われ、シンポジウムで発表予定の池田委員による「最適化手法の概要」に関する内容に関して意見を交わした。</p> <p>第11回は同年10月16日に行われ、佐々木委員による「現時点での課題」に関する発表内容の紹介と意見交換がなされた。併せて、シンポジウムについて調整を行った。</p> <p>成果報告に際して同年11月1日に「建物エネルギーシステムの運用最適化の実施動向と今後の課題」とのタイトルでシンポジウムを開催した。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
BCP対応型BEMS検討 小委員会 増田 幸宏	5	<p>本小委員会は、災害に強い建物を実現するために、「BCP対応型BEMS」の検討を目的とする。BCPの観点から「災害対応型の建物管理システム」がどうあるべきか、災害時の対応力と建物管理機能を強化するためにはどのようなデータをどのように取得し、いつどのような形で活用する必要があるのか等について標準的な方法論を検討する。災害時の対応力を強化するためのBCP対応型BEMSは新しい概念であり、その標準的な方法論を提示することは、本学術分野に貢献するだけでなく、実務上も有意義であると考えている。</p> <p>小委員会では、上述のような建築分野におけるBCPの全体像を共有し、論点を整理しつつ、初年度である2016年度は関連する技術動向の調査を中心に活動を行った。具体的には、自治体病院のFMとBCPに関する事例、大規模病院施設における環境配慮とBCPに関する事例、災害時のBCP検証手法ガイドライン（空衛学会）、BEMSベンダーへのアンケート結果、インフラ状態モニタリング用センサシステム開発に関する事例、データセンターファシリティスタンダードの概要、BCP対応ビル指針案（公益財団法人ロングライフビル推進協議会）、発電機負荷の整理に関する事例、非常時のEMS機能概要資料、産業サイバーセキュリティー対策の人材育成施設等に関する動向や事例を小委員会にて共有を行い、BCP対応型BEMSの仕様検討に資する要素について議論を行った。</p> <p>2年目となる2017年度はオフィスビル（自社ビルタイプ）を対象として建物管理システムの仕様検討を行った。自社ビルとして使用されるオフィスビルを対象として、建物管理システムの具体的なケーススタディを実施している。</p> <p>発災後の状況把握の支援機能として業務継続可能なエリアの選定、執務空間の使用可否の判断、ヘルスマモニタリングシステムとの連携、ライフライン供給有無の判断、設備機器の使用可否の判断等、発災後のリアルタイムなオペレーション支援機能として発災後の電力マネジメント、水のマネジメントについて機能とインターフェース例及び現搭載機能の有効活用等について検討を行った。</p> <p>最終年度となる2018年度には、運用の体制と人材養成、在館者の情報共有方策（デジタルサイネージ等）、訓練との連携方策等を展望できればと考えている。シンポジウムも開催予定である。</p>
コミッションング委員会 赤司 泰義	5	<p>1. 小委員会の進捗管理</p> <p>各小委員会における以下の活動1. ～ 4. の進捗を管理するとともに、全小委員会の情報共有と議論を充実させ、各小委員会における研究活動の進展を図った。</p> <p>1) 建物所有者にCxの有効性を提示するために、Cxの導入効果を根拠を持って定量的に説明できるようにすること。（Cx導入効果調査検討小委員会）</p> <p>2) CC法を活用した個別分散空調システムの機能性能試験方法を整備し、本空調システムの導入が進む中小規模建物でもCxを確実に実施できるようにすること。（EHP式個別分散空調システムのFPT検討小委員会）</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
コミッシュンング委員会 (続き)		<p>3) Cx業務遂行上の難点となっているデータ整理・分析業務の省力化のための手法・ツール開発を行い、本業務を効率化すること。(Cxデータマネジメント手法活用小委員会)</p> <p>4) ZEBを目指した建物で導入されることの多い自然・再生可能エネルギーシステムのCx手法を整備・開発し、ZEBの実質化に寄与すること。(ZEBシステムに関するCx+B49手法検討小委員会)</p> <p>2. 本委員会独自の主体的活動</p> <p>1) 100周年記念事業の一つとして、「ビジネスとしてのCx普及に向けて～オーナーが語るCxの有用性と課題～」と題したシンポジウムを本委員会主催で開催した。本シンポジウムでは、実際にCxを発注されたオーナーの方々に、それぞれの経験に基づいてCxの有用性と課題について発表してもらい、ビジネスとしてのCxに必要なことなどについて意見交換を行った。</p> <p>2) ISOのCxガイドラインの原案を翻訳し、内容に関する意見書をまとめISOの担当者に提出した。</p>
CC法を活用したEHP式 個別分散空調システム の機能性能試験検討 小委員会 三浦 克弘	4	<p>1. 当初の計画</p> <p>本小委員会は中小規模の建物で多く採用されている個別分散空調システムの機能性能試験方法を確立し、コミッシュンングの普及を促進することを意図している。</p> <p>設置期間3年の初年度として本年度に計画したのは以下の項目である。</p> <p>1) 学会における個別分散空調システムに関する研究活動の成果を調査して今期の研究活動へ活用し、今後の計画へ反映する。</p> <p>2) EHP式個別分散空調システムの実施例を調査して、システム構成と確認すべき機能や性能を明らかにする。</p> <p>3) 空調機メーカーで対応可能な性能確認方法と試験範囲を調査する。</p> <p>2. 実施内容</p> <p>1) 事例調査とヒアリング</p> <p>実際に行った事例調査とヒアリングは以下の項目である。</p> <p>①委員会内部で個別分散空調システムの不具合事例を調査し、機能性能試験の対象を検討した。</p> <p>②関連団体の懇談会を通じてヒアリングを行い、上記不具合事例と併せてコミッシュンングの実施に必要となる OPR (Owner's Project Requirement: 設計・企画要件書) 項目を整理した。</p> <p>③メーカーが収集している個別分散空調システムの測定項目と測定点を調査した。</p> <p>④個別分散空調システムを対象とした性能評価事例を調査した。</p> <p>2) 機能性能試験に関する検討</p> <p>上述の調査とヒアリング内容を元に以下の検討を行った。次年度以降も検討を継続する予定である。</p> <p>①メーカーが実施する試運転チェック項目を元に、機能性能試験事前チェックリスト案を作成した。</p> <p>②当学会コミッシュンング委員会の中央熱源方式に関する研究成果を元に、個別分散方式の機能性能試験計画書案を作成した。</p>



委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
コミッショニング導入 効果調査検討小委員会 高草 智	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Cx導入事例調査               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Cx実施事例（簡易なCx実施事例を含む）調査対象案として、商業施設（2件）、事務所ビル（7件）、大学施設（2件）、工場（1件）、博物館（1件）、その他複合ビル等（8件）を含め計21件を抽出した。</li> <li>2) 抽出した案件は、施設概要、Cx実施概要、ヒアリング対象等の情報を含め整理した。</li> <li>3) Cx導入効果を調査するため、ビルオーナー、設計者、施工者、施設管理者別のヒアリングシートを作成した。</li> <li>4) 抽出した案件のうち先行して事務所複合ビル、大学施設などのビルオーナー、施設管理者に対しヒアリングを実施した。今後継続的にヒアリングを実施していく。</li> </ol> </li> <li>2. BCP対策事例調査               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 従来のBCPの計画～運用までのフローにおいて適用するCxプロセスを整理した。</li> <li>2) BCP対策を実施している事例2件について、BCPの概要を整理し想定された災害レベルや必要機能についてまとめた。</li> <li>3) BCP事例に対しその概要を調査するためヒアリングシートを作成した。</li> </ol> </li> <li>3. ESCO・ESP導入事例調査               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ESCO導入事例について調査するための対象案件を抽出した。</li> <li>2) ESCO/Cx複合事例に対しその概要を調査するためヒアリングシートを作成した。</li> </ol> </li> </ol>
データマネジメント 手法活用小委員会 住吉 大輔	3	<p>コミッショニング（Cx）におけるデータマネジメントは、データが膨大化していること、BEMSやロガー装置の出力ファイルのフォーマットが不統一であること、抽出・処理方法が一般化されていないことなどから、ますます煩雑化し、Cxプロセスが非効率となる要因の一つとなっている。この問題を解消するため、前身のデータマネジメント手法検討小委員会において、データフォーマットの標準化を行うツールが作成され、データ処理の一元化に近づいた。本小委員会は、次なる課題として標準フォーマットに変換されたデータについて効率よくエラーチェックし、計測データの不具合やポイント名称の付け間違いなどを発見し、素早く解析作業に着手するためのデータクレンジング手法について検討し、コミッショニングのデータ解析作業を効率化するためのツールの作成、および具体的なシステムの構成機器（熱源機器、ポンプ、冷却塔、蓄熱槽、など）の性能チェックのための分析シートの開発を行うものである。</p> <p>今年度は以下の内容に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動方針の決定：活動方針として、データのエラーチェック手法の確立・ツール化、データ分析テンプレートの作成、ツールの整理と活用事例の蓄積に取り組むことを決めた。</li> <li>2. エラー情報の収集：エラーやその他、データクレンジングが必要なデータの汚れについて実例を収集し、対応すべきエラーを特定した。</li> <li>3. データクレンジング手法の議論：データクレンジングの際の対応方法について議論し、その方法をリストアップした。</li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
ZEBシステムに関する コミショニング手法 検討小委員会 高瀬 知章	3	<p>4回の委員会を開催し、以下の内容について議論を進めた</p> <p>第1回 (2017/6/2 開催) 本委員会の趣旨を委員に説明した。また、コミショニングに関するこれまでの経緯および活動内容について解説した。</p> <p>第2回 (2017/7/28 開催) 「地中熱利用の現状と展望」「データセンターにおける地中熱利用」「庁舎建築の地中熱利用例」について、それぞれ、委員より話題提供があった。また、地中熱利用システムに関する機能性能試験の事例が紹介され、本例を参考にしながら、機能性能試験の標準仕様の案を作成することとなった。</p> <p>第3回 (2017/10/12 開催) 地中熱利用システムに関する機能性能試験標準仕様の案が示された。試験対象とするシステムの絞り込みについて議論が行われた。また、機能性能試験を実際に適用することができる物件がないか、各委員で社内の事例を中心に確認をすることとなった。 環境技術実証ETV事業の紹介が行われた。実証事業で収集されたデータも多く、本委員会での利用の可能性について検討することとなった。</p> <p>第4回 (2018/1/30 開催) ZEBシステムのCxについて、アンケート調査を行うための調査票の案が示され、その内容について議論が行われた。</p>
省エネルギー委員会 山羽 基	3	<p>第1回委員会 (平成29年5月19日(金) 於中部大学三浦記念館・8C講義室)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事録の確認</li> <li>2. 平成28年度 第3回研究委員会報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 小委員会の名称変更依頼について (→住宅省エネルギー研究小委員会・非住宅省エネルギー研究小委員会)</li> </ul> </li> <li>3. 平成29年度 活動内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>- 住宅、非住宅ともに各対象について調査研究を行っていく方向とし、成果によっては指針を出すこととする。</li> </ul> </li> <li>4. 報告書の名称変更について <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「建築・設備の最新省エネルギー技術調査 (非住宅/住宅編)」に変更した。</li> </ul> </li> </ol> <p>第2回委員会 (平成29年11月10日(金) 於大阪ガス本社2階 2北-C-6会議室)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事録の確認</li> <li>2. 平成29年度 活動内容についての報告</li> <li>3. 次年度申請関係 (年次計画書、新規設置申請書等) の確認</li> <li>4. 研究委員会報告</li> <li>5. その他</li> </ol> <p>第3回委員会 (メール審議)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 省エネルギー委員会および住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会年次報告書について</li> <li>2. 住宅/非住宅省エネルギー研究小委員会委員の所属変更等の有無について</li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
住宅省エネルギー 研究小委員会 小椋 大輔	4	<p>第1回委員会：平成29年5月19日（金）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>新しい小委員会としての活動方針の意見交換を行った。</li> <li>建築研究所所属の三浦委員への質疑形式で、国の住宅政策に関する情報交換を行った。</li> </ol> <p>第2回委員会：平成29年7月13日（木）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>指針作成の是非や方向性について意見交換を行った。</li> <li>今年度の小委員会の活動について意見交換を行った。</li> </ol> <p>第3回委員会：平成29年10月2日（月）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー委員会の方向性を踏まえて指針作成の方向性について意見交換を行った。</li> <li>エネマネハウス2017の視察及び意見交換の実施について議論を行った。</li> </ol> <p>第4回委員会：平成29年12月12日（火）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>次年度の活動内容について議論を行った。</li> <li>エネマネハウス2017視察及び意見交換会を実施した。</li> <li>今年度の意見交換会について議論を行った。</li> </ol> <p>第5回委員会：平成30年3月13日（火）（予定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「IoTが拓く省エネ住宅の”未来”」の可能性について意見交換会を実施する予定</li> </ol>
非住宅省エネルギー 研究小委員会 河路 友也	4	<p>第1回 小委員会 平成29年7月14日（金）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>省エネ技術指針の活用状況や位置づけの明確化などについて議論した。</li> <li>本小委員会のアウトプットイメージについて、意見を出し合った。</li> <li>本小委員会で取り組むべき研究対象を明確にするため、省エネ技術指針の内容の見直しを行うことになった。</li> </ol> <p>第2回 小委員会 平成29年10月12日（木）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>省エネ技術指針の内容の見直し結果からは、データやシステムの陳腐化、全体構成の問題点、具体的な事例、計算方法の不足、単純な記載ミスなどの指摘があり、指針改定の必要性が示された。</li> <li>省エネ技術指針の活用状況やニーズ調査の必要性について議論した。</li> <li>本小委員会は、最終的には指針改定の必要性を示すために、改定方針、内容の検討を進めることになった。</li> <li>指針の活用状況やニーズを確認するため、企業所属の委員に調査を依頼した。</li> </ol> <p>第3回 小委員会 平成29年11月30日（木）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8社の指針活用状況・ニーズ調査の結果からは、指針を活用している会社は1社のみで、利用頻度が低いことが明らかとなった。指針の存在自体を知らない技術者（特に若い世代）が多いことも明らかとなった。</li> <li>省エネ手法陳腐化への対応策として、3年毎のシンポジウムに向けて記載内容を更新する案が示された。</li> <li>今後の進め方として、ZEB事例において活用された指針の技術をピックアップして深堀する方向となった。</li> </ol> <p>第4回 小委員会 平成30年3月9日（金） 予定</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ZEB事例を基に、次年度に深堀する技術の選定を行う予定である。</li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
住宅設備委員会 高村 秀紀	3	<p>住宅設備委員会は、住宅設備に関連する多くの諸問題を調査・研究し、会員は基よりエンドユーザーである一般の住まい手に対しても設備に関連する情報を提供する事を目的としている。</p> <p>本年度は4小委員会が活発に研究活動を行った。3小委員会は次年度継続し、1小委員会が本年度で終了する。各小委員会の活動内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 住宅設備のリサイクル推進検討小委員会（浅野良晴主査 終了） 会員や一般市民に対して家電のリサイクルへの対応について実施したアンケート調査結果や廃棄家電処理工場の見学や国の審議会の傍聴に基づいた家電製品のリサイクルに対する現状と問題点について、3年間の委員会活動のまとめとして報告書に取りまとめた。</li> <li>2. 高齢者・生活弱者に優しい住宅設備小委員会（川本聖一主査 継続） 高齢者・生活弱者に関わる政策や住宅設備などの情報収集を行った。また、ベータリビングの方による国土交通省の次世代懇談会の内容に関する講演会を開催した。</li> <li>3. 住宅設備のBIM活用検討小委員会 シンポジウム(住宅設備設計テンプレートとBIMのあり方について)を開催した。また、住宅設備設計におけるBIMの活用に関するアンケート調査を実施し、調査結果を取りまとめ中である。また、BIMソフトベンダーについて調査中である。</li> <li>4. 集合住宅の在宅避難のためのトイレ使用方法検討小委員会 各委員の協力を得て、職場、大学、自宅トイレでバケツ洗浄による必要水量に関するデータを収集した。また、都内の築25年の集合住宅を対象に、管理組合との意見交換のほか2回の現場調査を実施し、排水配管系統を明らかにした。これに基づき発災時の点検場所、点検方法、排せつ方法などのマニュアル化を進める。</li> </ol>
住宅設備のリサイクル 推進検討小委員会 浅野 良晴	3	<p>家電製品は住宅設備として扱うものが多数ある。エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の4品目は小売業者による引取り及び製造業者等(製造業者、輸入業者)による再商品化等(リサイクル)が義務付けられ、消費者(排出者)には、家電4品目を廃棄する際、収集運搬料金とリサイクル料金を支払うことなどをそれぞれの役割分担として定めている。</p> <p>また、製造業者等は引き取った廃家電製品の再商品化等(リサイクル)を行う場合、定められているリサイクル率(55～82%)を達成しなければならないとともに、フロン類を使用している家庭用エアコン、電気冷蔵庫・電気冷凍庫、電気洗濯機・衣類乾燥機(ヒートポンプ式のもの)については、含まれるフロンを回収しなければならない。</p> <p>また、国、製造業者等、小売業者、市町村、消費者といった各主体が積極的に特定家庭用機器廃棄物の回収促進に取り組み、社会全体として適正なリサイクルを推進するため、平成27年3月に家電リサイクル法の基本方針に家電の回収率目標(平成30年度までに56%とする。)を規定された。その目標を達成するため、平成28年3月に、各主体における回収率向上のための連携した具体的な取組と取組目標及びその評価・点検の方法について定めた「特定家庭用機器廃棄物回収率目標達成アクションプラン」が策定された。</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
住宅設備のリサイクル 推進検討小委員会 (続き)		<p>本小委員会ではこうした背景から、会員の皆様に家電のリサイクルにどの様に対応しておられるかアンケートを取らせていただいた。一般市民の方へもアンケートをさせていただいた。さらに廃棄家電の処理を行っている工場の見学を行い、現状と問題点について調査を行うこととした。また国の審議会を傍聴し、こうした現状と問題点を整理することとした。小型家電についても現状と問題点を調査し、整理することとした。</p> <p>本年度は、こうした研究の成果を報告書として仕上げることに重点をおき、3年間の委員会活動のまとめを行った。</p>
高齢者・生活弱者に 優しい住宅設備小委員会 川本 聖一	6	<p>1. 活動の目的</p> <p>住宅設備を使用したり設計したりする際に、高齢者や生活弱者に対して配慮すべきことがらを整理し、現状市販されている機器やそれを使用するの現行設計手法の問題点を検証する。また、結果を踏まえて、生産者や消費者に対して提言を行う。</p> <p>2. 委員</p> <p>委員14名、特別委員3名、合計17名で活動</p> <p>3. 活動の詳細</p> <p>第1回小委員会 (2017年05月19日)</p> <p>①小委員会設置申請書、委員会計画の確認、②話題情報提供 (高齢者・生活弱者に関わる政策、「スマートウェルネス住宅研究会企画委員会」研究成果の紹介、バリアフリー新法に関わる設計基準の紹介)、③自由討議 (高齢者の年齢とは何才?。健康弱者にならないためにはどうするか?。ストック住宅に向けての提案を期待したい。高齢者は取り扱い安い住宅設備である必要がある。空家問題解消につなげられないか?。)</p> <p>第2回小委員会 (2017年07月07日)</p> <p>①住宅設備委員会報告(対象設備の範囲の確定要望。収入の少ない生活弱者に対する対策。アウトプット目標設定の要望)、②「LIXIL 住まいのUDガイドブック」に関する詳細報告、③高齢者の温熱環境適応能力等に関する論文調査に関する報告、④在宅医療と電源品質に関する報告、⑤「国交省：IoT技術等を活用した次世代懇談会」内容報告</p> <p>第3回小委員会 (2017年09月22日)</p> <p>①医療機器に関するEMS規格・規制に関する報告 (住宅内での電磁波妨害への耐性の厳格化など)、②2020年提言アウトプット(各委員の専門性とその分担を考慮する。設備に係る規格、規制、制度や海外の状況を考慮する必要がある。各委員からのテーマの抽出を行う。介護離職の防止に役立つものになるといい。「自立出来る」サポートにする提言にしたい。)</p> <p>第4回小委員会 (2017年12月08日)</p> <p>①「国交省：次世代懇談会」内容報告(ベターリビング西本次長)、②第2回住宅設備委員会報告 (研究費配分の加算、次年度計画の予定)、③「e-cocochi (ゼロエネ住宅プレゼンツール)」の紹介、③「HOSPEX JAPAN他」見学報告</p> <p>第5回小委員会 (2018年02月16日 予定)</p> <p>第6回小委員会 (2018年03月30日 予定)</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
集合住宅の在宅避難のためのトイレ使用方法 検討小委員会 木村 洋	8	<p>「集合住宅の震災時在宅避難に濃度ためのトイレの上手な使い方報告書」(平成28年10月31日)に基づいて実際に集合住宅で管理組合の協力を得て当該マンションにおけるマニュアルを作成する。</p> <p>このオンプロでのマニュアル作成を参考に、集合住宅の震災時の排せつの考え方を体系的にとりまとめる。</p> <p>初年度の本年度は以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>バケツ洗浄による必要水量の把握 各委員の協力を得て、職場、大学、自宅トイレでデータを収集した。</li> <li>実際の集合住宅におけるマニュアル作成への着手 都内の築25年の集合住宅理事長より、マニュアルを共同で作る方との要望が寄せられ、着手することとした。 今年度、管理組合との意見交換の他、2度の現場調査を行い、排水配管系統を明らかにした。これに基づいて今後、発災時の点検場所、点検方法、排せつ方法などのマニュアル化を進める。</li> </ol>
住宅設備のBIM活用 検討小委員会 柿沼 整三	9	<p>住宅設備のテンプレートの活用をより拡大できる方法として、BIMとの活用に着目している。このBIMが住宅設備で活用されることによる有効性の検討を行なうに、29年度は以下を行なった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>シンポジウムの開催：住宅設備設計テンプレートとBIMのあり方について(H29年10月18日)</li> <li>住宅設備設計におけるBIMの活用に関するアンケート調査実施(まとめ中)</li> <li>BIMソフトベンダー調査中</li> </ol>
施工・保全委員会 飯田 徹	2	<p>本委員会は、施工および保全業務における要素技術およびプロセスの研究を行い、併せて学会の施工・保全分野に従事する会員への還元・貢献を図る事を目的として、6小委員会の活動を承認した。</p> <p>また、平成29年中に2回、同30年に2回、合計4回の委員会を開催した(その内3月開催第4回は予定)。</p> <p>今年度は、次の小委員会の活動に対する支援・指導を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>次の小委員会(H29年度終了)の成果報告書を受付けた。 なお、成果報告書の遅れ(③④)があり、査読は1月末に実施したい。 <ol style="list-style-type: none"> <li>トラブル情報活用小委員会(前田主査)</li> <li>未来都市・施設のためのSBCM小委員会(藤井主査)</li> </ol> </li> <li>次の小委員会の次年度継続を承認した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>安全性を重視した建築・設備のリスク及び回避手法の定量化に関する調査検討小委員会(割石主査)</li> <li>施工図ガイドライン小委員会(加藤主査)</li> <li>取扱説明書作成ガイドライン検討小委員会(花房主査)</li> <li>設備機器・配管の信頼性向上小委員会(松川主査)</li> </ol> </li> <li>次の小委員会の次年度から新規活動開始を承認した。(H29年度～H31年度) <ol style="list-style-type: none"> <li>実践的な近未来都市・施設のSBCM(スマートな事業継続マネジメント)検討小委員会(田中主査)</li> <li>トラブル情報活用小委員会(関口主査)</li> </ol> </li> <li>功績賞に次の小委員会の成果報告書を推薦した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>排水管清掃の設計・施工・維持管理検討小委員会(平成28年度終了、松島主査)</li> </ol> </li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
トラブル情報活用 小委員会 前田 幸輝	10	<p>最良の教科書である過去のトラブル事例に関してトラブル情報と関連する技術情報についてのコラムを継続的に公開することにし、下記のようなテーマにて活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. トラブル情報の収集と蓄積              トラブル情報を継続して収集し、トラブル情報シートやコラムとしてまとめた（作業継続中）。</li> <li>2. 情報の公開              成果品であるトラブル事例シートやコラムを学会誌に掲載する（作業継続中）。              トラブル情報シートを学会ホームページに継続的に追加公開した（作業継続中）。</li> </ol>
設備機器・配管の信頼性 向上小委員会 松川 安樹	11	<p>本小委員会の研究テーマの一つである「冷却水系統の設計・施工・維持管理に関するガイドライン化の検討」を行うために、以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例紹介             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 委員が経験した腐食事例を紹介することで、相互理解を深めた。</li> </ol> </li> <li>2. ガイドライン化に向けたディスカッション             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 既存のガイドラインの中から本委員会の趣旨に適合したものを抽出し、ガイドライン作成の参考にした。</li> <li>2) 本委員会で作成するガイドラインの方向性（目指すべきもの）を協議した。</li> </ol> </li> <li>3. 平成29年度空気調和・衛生工学会大会(高知)で中間報告             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成29年9月13日、委員会の活動状況に関する中間報告を行った。</li> </ol> </li> <li>4. 外部機関を利用した勉強会を開催             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 維持管理に関する専門知識を深めた。                開催日時：平成30年1月26日（金） 14:00～17:00                開催場所：株式会社ティエルブイ 東京CESセンター                勉強会テーマ：蒸気の基礎とトラブル対策                参加者：10名</li> </ol> </li> </ol>
安全性を重視した建築・ 設備のリスク及び回避 手法の定量化に関する 調査検討小委員会 割石 浩幸	7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成29年度空気調和・衛生工学会大会(高知工科大学) に以下の3編の発表を行った。              建築設備の施工・保全における安全・品質向上手法に関する検討             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 第16報 建築設備業の災害傾向・リスクと災害低減シミュレーション</li> <li>2) 第17報 熱中症による災害の発生状況と対策</li> <li>3) 第18報 施工における高齢者作業員の労働災害の傾向と特徴の詳細な検討</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の論文は、平成28年度「施工・保全における安全・品質向上の手法検討小委員会」の検討内容の結果をもとに内容の検討を加え作成された。</li> <li>・発表に関する評価を行った。</li> </ul> </li> <li>2. 建築設備会社の施工現場における熱中症に関するアンケート調査及び自覚症状調べ              某建築設備会社の日本各地の施工現場の作業員及び管理者約1000人に対して、熱中症に対する意識・理解と対策及び作業前後における自覚症状調べのアンケート調査を行なった。              そしてデータの集約、結果分析を行い、来年度の空気調和・衛生工学会大会論文にまとめることとなった。</li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
取扱説明書作成ガイド ライン検討小委員会 花房 俊治	6	<p>年次計画書に則り、以下の活動を行った。</p> <p>建築設備引渡し時の取扱説明に関わる課題の整理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 取扱説明書に関わる現行の指針類の実態把握 空気調和・衛生工学便覧、建築設備の試運転調整ガイドライン、引渡し業務に関するガイドライン公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)、建築物等の利用に関する説明書作成の手引き(本編)</li> <li>2. 取扱説明書に関わるトラブル事例の状況把握 某施工業者のトラブル事例の事例研究について</li> <li>3. 他業界の取扱説明書に関わる事例研究 家電製品の取扱説明書の記載事項の事例について</li> <li>4. 取扱説明書に関わる課題点の討議 設計者・施工者・維持管理者の立場からの考察、新たな技術(ZEB、BIM、BCP、IoT等)に対する考察</li> </ol>
施工図ガイドライン 検討小委員会 加藤 健一郎	8	<p>施工図にどのような情報を記載しなければならないかを検討し、統一したルールであるガイドライン案を作成することにより、作図者や経験不足等による施工図のばらつきをなくし、施工後のトラブルを未然に防ぐことを目指す。検査時の指摘事項、品質事故の事例より施工図作成時に必要な情報を記入していれば防げたことを考慮し、施工図に記載すべき情報を示す。</p> <p>初年度である本年度は前委員会の成果を基に以下の内容の検討を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不具合事例の収集、実際の施工図収集による施工図に記載すべき情報の抽出 前委員会の成果物で不足している不具合事例を施工・保全委員会「トラブル活用情報小委員会」の事例を利用し、施工図に記載すべき情報の抽出を行った。また、実際の施工図を施工部位ごとに約20枚収集し、施工図に記載すべき情報の抽出を行った。</li> <li>2. 施工図作成時間確保のための運用ルール検討 施工図承諾行為の遅延、設計変更等による施工図修正などにより、施工図作成時間の確保が難しい状況である事を考慮し、施工図作成の運用ルールについて前委員会で模範的なルールをまとめた。この結果を基に各種施工計画書との相互関係を検討し具体的なルールを再考している。</li> </ol>
地球環境委員会 桂木 宏昌	5	<p>平成29年度の活動内容は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小委員会の活動方針に関する審議 以下の3つの小委員会の活動方針について審議および意見交換を行った。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境負荷削減技術検討小委員会</li> <li>2) 環境配慮建築アクションプラン小委員会</li> <li>3) 環境配慮・防災併活用設備システム計画小委員会</li> </ol> </li> <li>2. 意見交換および情報交換 以下の事項について意見交換および情報交換、小委員会の活動との関連付けを検討した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究委員会の報告及び関連事項の審議</li> <li>2) 低炭素社会推進会議の内容報告(岩本委員)</li> <li>3) 建築物省エネ法に関する情報交換</li> <li>4) COP23等に関する意見交換 ほか</li> </ol> </li> <li>3. 小委員会の成果報告書のレビュー 今年度終了予定の3つの小委員会の成果報告書のレビューを実施した。</li> </ol>



委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
環境配慮建築アクション プラン小委員会 岩本 静男	4	<p>本小委員会は、平成27年4月1日～平成30年3月1日まで3年間の活動とし、「省エネルギー・環境配慮技術の進展を予想し、2050年を想定した建築設備を探り、2020年以降の行動目標を策定し、今後のカーボンニュートラルビル、ゼロエネルギービルの普及に寄与すること」を活動目的とした。</p> <p>本小委員会の活動計画は、前3年間の活動の環境配慮建築アクションプラン検討小委の成果を踏まえて、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準的な規模の事務所建築等を対象とした年間シミュレーションを基本的な方法とする。</li> <li>2. 2030年の建築設備として普及が期待される技術として、外気冷房、昼光利用、BEMS、照明自動消灯の4つとする。</li> <li>3. 自然エネルギー導入のポテンシャルをきめ細かく精度高く推定すること、バックキャストによる将来の建築設備の想定2点を今後の方針とし、地中熱・クールピット利用、オンデマンド制御、自然エネルギー使用に関する定量的知見を集めることとする。</li> <li>4. 低炭素社会推進会議やAIJ低炭素社会推進・技術分野WGなどと情報交換を行う。</li> </ol> <p>の4つを基本方針とし、最終年度の平成29年度は、これまでの3年間の活動報告として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2030年の建築設備として普及が期待される技術として、外気冷房、昼光利用、BEMS、照明自動消灯の4つについて、標準的な事務所建築のシミュレーションの成果</li> <li>2. ドイツZEB視察をはじめ各委員が参加した国内外のZEB視察結果の報告</li> <li>3. 低炭素社会推進会議の発足以来4年間に及ぶ活動の概要報告の3点を、報告書にまとめた</li> </ol>
環境配慮技術検討 小委員会 村上 正吾	4	<p>本小委員会の目的は、最新の環境負荷削減技術の調査、及び各要素技術の情報収集を通して、技術の開発、普及促進を図り、地球温暖化対策を中心とした環境への取組みに、学会として寄与することである。環境配慮技術の進化は日進月歩であり、地球環境だけでなく、健康、社会、経済など様々な要求に応じて大きく変化している。本小委員会では最新の環境負荷削減技術の情報を調査し、技術開発や普及促進に貢献するため、2015～2017年度の3年間で以下の活動を実施し、報告書にまとめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境負荷削減技術の情報収集。技術普及の方策検討</li> <li>2. 運用レベル対策に見られる環境負荷削減技術の調査</li> <li>3. 環境負荷削減技術解説シートの作成</li> <li>4. 環境負荷削減技術がもたらす多様な便益の整理</li> </ol>
環境配慮・防災併活用 設備システム計画 小委員会 村上 公哉	6	<p>従来、建築設備計画では、地球環境問題を背景に省CO2化・省エネルギー化など、平常時の環境配慮技術が重要視されてきた。東日本大震災を機にライフライン機能停止・低下時における建物の災害時機能継続技術が重要視されるようになり、その両者を考慮した設備計画事例が増えてきた。そこで本小委員会では、それらの事例を収集した後、そこに採用されている技術を体系的に整理し、環境配慮・防災併用型設備システム計画の事例と動向を整理することを目的に活動している。本年度は最終年度であり、過去2年間の活動成果を基に、以下の構成により成果報告書のとりまとめを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1章 環境配慮・防災併活用設備の考え方及び関連動向</li> <li>第2章 建物単体の設備設計事例</li> <li>第3章 街区・地区の設備設計事例</li> <li>第4章 技術の事例</li> <li>第5章 環境配慮・防災併活用設備の事例整理</li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
安全・防災委員会 森山 修治	1	<p>1. 設備耐震対策小委員会の活動内容の確認、作業進捗状況の確認と支援 【小委員会活動内容】 熊本地震調査時の計画手順の確認と今後への展開事項の整理、新たな知見と対応についての整理、さらには24年度に発行された「建築設備の耐震設計 施工法」のフォロー。</p> <p>2. 火災安全小委員会の活動内容の確認、作業進捗状況の確認と支援 【小委員会活動内容】 法適合に向けた既存建築物の排煙改修の手法として着目されている階段加圧システムについて適応条件の整理と具体的な対応策や問題点を整理するための既存不適格案件の抽出を行った</p> <p>3. 社外助成、功績賞、技術フェロー等の推薦 当該期間に該当なし</p>
設備耐震対策小委員会 水谷 国男	8	<p>今年度は、昨年度発生した熊本地震被害の調査データの分析を行った。また、関連団体と連携して行った熊本地震被害に関するアンケート調査結果の整理を行い、設備耐震と地震後の設備機能継続に関する検討を行った。</p> <p>さらに、水槽類のスロッシング・バルジングによる被害事例とその対策や、設備の落下防止対策に9関する情報交換を行った。</p> <p>また、日本建築学会の「非構造部材の耐震設計施工指針・同解説および耐震設計施工要領」における非構造部材と設備機器類との取り扱いに関して、改訂に盛り込む内容の検討を行った。</p>
火災安全小委員会 金谷 靖	4	<p>1. 法適合に向けた既存建築物の排煙改修手法に関する課題の整理 既存不適格建築物は大改修も増築もできない状況のため、建築基準法第86条の8に規定された制度に基づき、既存不適格建築物の法適合に必要な段階的な改修を進めるための課題整理、ルールの具体化に向けた検討を行う動向がある。</p> <p>そこで本小委員会では、法適合に向けた既存建築物の排煙改修の手法として着目されている階段加圧システムについて、適用条件の整理を行うことにした。整理を行う上で最近行われた階段加圧の実験やシミュレーション結果、海外の規格などを題材に問題点や対応策の議論を行った。</p> <p>また、既存不適格建築物に階段加圧システムを適用する場合の具体的な対応策や問題点を整理するために、現在はS45年（1970年）竣工以前の10階以下のオフィス事例を参考にして既存不適格建築物のモデル化を行っている。</p>
換気設備委員会 近藤 靖史	4	<p>当委員会では、以下の傘下の小委員会活動状況の確認と、親委員会（研究委員会）からの情報伝達などを行った。</p> <p>また、委員会予算の執行状況の確認および功績賞やSHASE技術フェローの推薦に関わる審議などを行った。</p> <p>1. 高効率換気システム小委員会 2. 換気問題へのCFDの適用性検討小委員会 3. BIM・CFDパーツ開発応用小委員会 4. 空気質小委員会</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
高効率換気システム 小委員会 甲谷 寿史	4	<p>当小委員会では産業換気について取り上げることとし、主として工場内の換気問題を中心に継続的に情報共有を図った。今後は、当該分野に関して様々な角度から検討し、中長期的な課題抽出と活動テーマを協議する。</p> <p>H28年度に立ち上げたSHASE-S102換気規準・同解説、SHASE-S116トレーサガスを用いた単室の換気量測定法の改定小委員会と連携し、改定に向けて基礎資料の収集・整理の作業を継続して実施した。具体的には、空調方式と規準化居住域濃度との関係の整理、およびトイレを代表とする附室の換気量に関する検討を行った。</p> <p>前身小委員会傘下の換気効率WGにおいて実施したREHVAガイドブック Mixing Ventilationの訳出については、纏めに向けて訳出原稿のレイアウト作業を行った。</p>
換気問題へのCFDの 適用性検討小委員会 酒井 孝司	8	<p>本小委員会は本年度7回（年度内にもう1回開催予定）の委員会を開催し、下記について議論・検討を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. CFDによる室内環境解析に関するガイドブック出版を目標に、各委員による原稿の校正、委員間における内容のレビューを繰り返し実施し、内容の精査を行い、CFD初学者のために有益な情報提供が可能となるような内容の加筆・修正を行った。</li> <li>2. 委員に関連のある出版社を数社選定し、出版に向けて協議を行った結果、2017年4月末にオーム社から出版の内諾を得た。ガイドブックの内容について、オーム社と協議を行い、修正作業を継続しながら8月末に入稿した。9月から10月末にかけて、校正作業を順次行い、12月初旬に発行した。</li> <li>3. 国際会議等で発表されたCFDによる換気・室内環境関連の研究論文や海外の研究機関で実施されているベンチマークテスト、理論的背景の記載のある国内論文等についての調査を行い、内容を委員間で共有した。</li> </ol>
BIM・CFDパーツ開発 応用小委員会 大嶋 拓也	6	<p>本小委員会では、前身のCFDパーツ化とBIM応用小委員会（平成25～平成27年度）の活動を引き継ぐ形で、傘下のBIMシミュレーションWGにおいては建物モデリング・熱負荷計算・CFDの連携に必要なデータ仕様の検討、CFDパーツ化WGにおいては室内空気環境予測におけるCFDのための空調吹き出し口パーツの作成を行っている。平成29年度は、以下を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. BIM連携シミュレーションのケース(事例)スタディ：実務レベルにおけるBIMとシミュレーション連携の実証を目的に、実在ビルの1フロアをモデルに、建物形状以外のBIM情報をCFDソフトウェアに連携させる検討を行っている。本年は、解析モデル、用いるCFDパーツの検討を行い、さらに制気口型番、位置、数量など、内部発熱などの設定条件の検討を行った。</li> <li>2. 環境シミュレーションデータ連携の現状と課題について、各ソフトウェアベンダからの聞き取りなどを行った。</li> <li>3. CFDパーツの公開： これまでに作成したライン型、4方向カセット型、アネモ型の3種の吹き出し口のCFDパーツについて、昨年度に準備したCFDパーツデータ、パーツ作成ガイドライン、ホームページ案内文、免責事項などをまとめ、親委員会の換気設備委員会および事務局と連携しながら空気調和・衛生工学会ウェブサイト上に公開した。</li> </ol>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
BIM・CFDパーツ開発 応用小委員会 (続き)		<p>4. モーメンタム法に基づいたCFDパーツの作成に向けた検討: 3. で公開したCFDパーツにおいては、境界面上の流速が直接的に与えられる。それに対し、運動量を体積力で与えることで拡散半径、到達距離などの予測精度の改善を図る、モーメンタム法に基づいた次世代パーツの開発を昨年度に引き続き行っている。次世代パーツとして達成すべき目標(「建築設備設計基準 平成27年版」における到達距離の再現)、パーツ公開への日程及び工程、パーツフォーマットの要件(含めるべきデータ)を議論・策定した。角形アネモ吹出し口、ライン吹出し口について、与えるべき運動量の算定方法を検討し、試算を行った。4方向カセット吹出し口については従来法を踏襲しつつ、境界条件設定の見直しによる精度改善を行った。さらに、モーメンタム法導入に向けた基礎検討を行った。</p>
空気質小委員会 柳 宇	3	<p>本小委員会は、国内・海外の関連文献を調査し、大気汚染による室内空気質の影響の実態を明らかにすることを目的として設置されたものである。これまで、2回の委員会を開催し、下記の活動を行った。</p> <p>第1回：2017年8月7日に開催。下記の文献紹介が紹介され、議論を交わした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事務所ビルにおけるPM2.5の実態と室内外濃度比 (鍵委員)</li> <li>2. 外気中の微生物による室内への影響 ー生菌からマイクロバイオームまで (柳)</li> <li>3. エンドトキシンの室内環境濃度 (金) また、時期を見て下記の論文紹介をお願いする。</li> <li>4. オフィス空間における自然換気時の粒子状物質濃度の変化に関する実測 (菊本)</li> <li>5. 大気浮遊粉塵における放射能の実測調査研究 (野崎)</li> <li>6. 外気中の花粉および室内空気汚染対策に関する基礎研究 (湯)</li> </ol> <p>第2回：2018年1月16日に開催し、今後の活動について次の議論をお行った：①本年度の残りは文献調査を中心に活動を行う。②外気導入を行った際の小学校の室内空気質についてどのように考えるか。③劇場などでは外気冷房による屋外からの流入物質について考えるべき。④外気の放射性物質の考え方について。⑤全熱交換器を用いている場合の屋外気流の影響について。⑥クールチューブ(クールトレンチ)における空気質の現状について。⑦来年度は委員同士で協力して調査を行うことも考えられる。</p>

(2) 国際交流に関する事項

2.1 国際会議への当学会代表派遣 (2 件)

2.2 国際会議参加補助金支給 (1 件)

2.3 海外視察団派遣 (2 件)

(1) 第 22 回国際建築設備調査団 CIB W062 シンポジウム (オランダ/ハーレム)

団 長 大塚 雅之君 関東学院大学 建築・環境学部 教授  
副 団 長 西川 豊宏君 工学院大学 建築学部 教授  
期 間 2017 年 8 月 20 日 (日) ~ 8 月 27 日 (日) 6 泊 8 日 (機中 1 泊)  
参 加 者 18 名  
視 察 先 フィンランド (ヘルシンキ)・オランダ (アムステルダム) の建築・建築  
設備関連施設

(2) 第 27 回国際交流視察団 ASHRAE 冬季大会 (米国/シカゴ)

団 長 大岡 龍三君 東京大学 生産技術研究所 教授 人間・社会系部門 (学術理事)  
副 団 長 熊谷 雅彦君 日本ファンリテイ・ソリューション株式会社 常務取締役技術本部長 (財務理事)  
期 間 2018 年 1 月 20 日 (土) ~ 1 月 28 日 (日) 9 日間  
参 加 者 38 名  
視 察 先 ASHRAE 関連行事 (シカゴ) (1/20~1/24)

1. ASHRAE 冬季大会

・テクニカルセッション参加

(Japan Seminar での講演 (計 4 報)、BEST に関する講演 (1 報)  
等の聴講を含む)

・テクニカルツアー参加

2. AHR EXPO (空調設備機器展示会) 視察

海外交流団体との定例会議

1. ASHRAE

2. REHVA

3. AASA (Ashrae Associate Society Alliance) MEETING

関連先視察訪問 (サンフランシスコ及び近郊) (1/24~1/26)

1. DPR CONSTRUCTION SAN FRANCISCO OFFICE

2. INTEGRAL GROUP'S OAKLAND DESIGN STUDIO

3. DELTA AMERICAS HEADQUARTERS

4. 380 N. PASTORIA AVENUE

2.4 国際名誉員 (International Honorary Member) 候補者の選考について

平成 30 年 1 月 推薦締切り

平成 30 年 2 月 研究委員会にて候補者を選考し、候補者を決定

平成 30 年 3 月 理事会へ推薦

## (3) 出版物発行に関する事業

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
出版委員会 近藤 明	6	<p>1. 新規制定規格出版</p> <p>1) SHASE-S119-2017 空気調和設備室内騒音の測定法 (PDFデータ販売) 平成29年8月3日発行</p> <p>2. 改定規格出版</p> <p>1) SHASE-S115-2017 室内換気効率(規準化居住域濃度)の現場測定法 (PDFデータ販売) 平成29年8月3日発行</p> <p>2) SHASE-S220-2017 器具排水特性試験方法 (PDFデータ販売) 平成29年8月3日発行</p> <p>3) SHASE-S117-2017 換気・空調設備の現場風量測定法 (PDFデータ販売) 平成29年12月25日発行</p> <p>3. 新規出版図書</p> <p>1) 建築設備の凍結・雪対策計画設計施工の実務の知識 1刷 500冊 平成30年3月30日発行</p> <p>4. 新規委託出版図書</p> <p>1) はじめての環境・設備計画シミュレーションCFDガイド (オーム社) 初版 1刷 1000冊 平成29年11月30日発行</p> <p>5. 増刷の報告</p> <p>1) SHASE-G1005 既存建物の空調設備に対する性能検証過程 2刷 CD-ROM10枚 平成29年5月16日</p> <p>2) SHASE-G0019 BEMSポイント名称ガイドライン 2刷 CD-ROM20枚 平成29年5月16日</p> <p>3) SHASE-G0022 建築設備の試運転調整ガイドライン 2刷 CD-ROM20枚 平成29年5月16日</p> <p>4) SHASE-G0020-2016 災害時のBCP検証手法ガイドライン 4刷 CD-ROM20枚 平成29年6月14日</p> <p>5) SHASE-G1003-2011 空調兼用排煙設備計画ガイドライン 2刷 20冊 簡易印刷 平成29年11月30日</p> <p>6) SHASE-G1007-2014 換気システムの不具合対策に関するガイドライン 2刷 CD-ROM20枚 平成29年12月27日</p> <p>7) SHASE-G2007-2015 排水管清掃方法ガイドライン 3刷 CD-ROM20枚 平成29年12月27日</p> <p>8) SHASE-G0013-2011 改修工事のトラブル・リスク回避のためのガイドライン 3刷 CD-ROM10枚 平成30年1月23日</p> <p>9) 第14版空気調和・衛生工学便覧 第4巻給排水衛生設備編 2刷 200冊 平成29年8月28日</p> <p>10) 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラム —CASCADEⅢVer. 3.2— 3刷 CD-ROM50枚 平成29年7月14日発行</p> <p>11) SHASE-G1006-2013 ビル用マルチパッケージ型空調システム 2刷 200冊 平成29年12月15日</p> <p>12) SHASE-M0003-2015 建築と設備の環境配慮技術のすべて 2刷 500冊 平成30年1月30日</p> <p>13) SHASE-M1001-2009 新版 工場換気 5刷 1000冊 平成30年1月30日</p> <p>14) SHASE-S206-2009 給排水衛生設備規準・同解説 4刷 300冊 平成30年1月30日</p>

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
出版委員会 (続き)		15) SHASE-M1006-2017 新版 都市ガス空調のすべて 2刷 500冊 平成30年1月31日 16) SHASE-S010-2013 空気調和・衛生設備工事標準仕様書 4刷 1000冊 平成30年1月31日 17) 第14版空気調和・衛生工学便覧 第3巻空気調和設備編 2刷 200冊 平成30年3月9日 6. 委託出版図書増刷の報告 1) 空気調和・衛生設備の知識」改訂4版 2刷 1000冊 平成29年11月(オーム社) 2) 給排水衛生設備計画設計の実務の知識 改訂4版 2刷 1000冊 平成29年11月 平成29年11月(オーム社) 3) 空気調和設備 計画設計の実務の知識 改訂4版 2刷 1500冊 平成29年11月(オーム社) 4) 徹底マスター空気線図の読み方・使い方 第1版 26刷 700冊 平成29年11月(オーム社) 5) 空気調和・給排水衛生設備施工の実務の知識 第1版 11刷 600冊 平成29年5月(オーム社) 6) イラストで見る空調・給排水 第1版 4刷 109冊 平成29年10月(オーム社) 7. 今後の出版物 今後の出版物について協議をおこなった。 8. 100周年記念事業について「100周年のあゆみ」を制作しホームページにアップした。 9. 引用転載許諾申請について 適宜処理した。
空調・衛生アドバイス 編集小委員会 原田 仁	0	本年度の活動はなかった。
快適な温熱環境のメカ ニズム改訂小委員会 田辺 新一	2	「快適な温熱環境(仮称)」の出版に向けて内容の審議を行った。来年度出版予定である。
建築設備の凍結・雪対策 計画設計施工の実務の 知識編集小委員会 長野 克則	3	絶版となっていた「建築設備の凍結防止計画と実務」の改訂作業を行い、平成30年3月30日に出版した。
室内CFDガイドブック 編集小委員会 酒井 孝司	3	オーム社の委託出版「はじめての環境・設備設計シミュレーションCFDガイドブック」編集作業を行い平成29年11月に出版した。

委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
学会誌委員会 舟里 忠益	11	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学会誌「空気調和・衛生工学」を、平成29年4月号から平成30年3月号までを刊行した。</li> <li>2. 5月号～12月号まで8号連続で、創立100周年記念特集号を刊行した。</li> <li>3. 特集は10回、講座は2件の連載を終了、2件を新規開始した。</li> <li>4. 各小委員会企画・立案の特集および講座について検討し、掲載を決定した。</li> <li>5. 小委員会企画・立案の単発原稿について検討し、執筆依頼を行い適宜掲載した。</li> <li>6. 各種投稿原稿について査読を行い、採否を決定し、適宜掲載した。</li> <li>7. 学会創立100周年記念特集について検討し、掲載を決定した。</li> <li>8. 創立100周年記念特集号WGを立ち上げ、100周年記念特集号の全体構成を検討し調整を行った。 また、「8つのトライ-2030年に向けた次世代空調システム-」（平成29年5月）、「北海道、東北、中部、北信越、近畿、中国・四国そして九州支部のあゆみとこれから」（平成29年6月）、「創立100周年記念大座談会」（平成29年11月）の3つの記念特集を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>9. その他、学会誌発行に関することについて協議して決定した。</li> </ol>
熱源・設備原論 小委員会 高橋 幹雄	11	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成29年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、100周年記念特集号として「ICTと建築設備の将来に向けて」（平成29年8月）、通常特集号として「下水熱」（平成30年2月）を企画し内容確認のうえ掲載した。</li> <li>2. 講座として「パッケージエアコン」（平成29年8月～平成30年2月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>3. 建築設備Q&amp;Aとして平成29年5月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>4. 異見のページとして「30年後の空気調和・衛生設備と学会」（平成30年4月）を企画し、内容確認を行った。</li> <li>5. 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。</li> <li>6. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。</li> </ol>
空調・空気環境 小委員会 西川 豊宏	11	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成29年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、通常特集号として「交通施設を支える設備」（平成29年4月）、100周年記念特集号として「快適性への建築設備のかかわりと未来」（平成29年10月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>2. 講座として「建築物の環境認証制度」（平成30年3月～平成30年9月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>3. 建築設備Q&amp;Aとして平成29年6月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>4. 異見のページとして「今の建築設備に いるもの・いないもの」（平成29年11月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>5. 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。</li> <li>6. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。</li> </ol>



委員会名 (委員長・主査)	開催 回数	事業内容
給排水衛生・水環境 小委員会 杉山 龍朗	11	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成29年度に刊行した学会誌の掲載記事のうち、100周年記念特集号として「安全と建築設備の将来-過去の変遷をふまえて-」（平成29年9月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>2. 平成30年4月号掲載予定の特集「配管の施工省力化と長寿命化-ステンレス鋼鋼管と合成樹脂管-」を企画し、内容確認を行った。</li> <li>3. 講座として「音」（平成29年1月～平成29年6月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>4. 建築設備Q&amp;Aとして平成29年11月掲載分を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>5. 異見のページとして「100年建築には何が必要か？」（平成29年5月）を企画し、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>6. 提出された「竣工設備調査用紙」から「竣工設備概要データシート」掲載のため依頼物件を抽出した。</li> <li>7. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。</li> </ol>
海外文献紹介小委員会 川上 理亮	11	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学会誌「海外文献紹介」および「外国雑誌主要文献題目」欄の掲載記事を訳出し、学会誌に掲載した。</li> <li>2. 「海外文献紹介」欄の投稿原稿を査読した。</li> <li>3. 100周年記念特集「海外文献から展望する21世紀の建築設備技術」（平成29年11月）を企画・執筆し、掲載した。</li> <li>4. その他、学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。</li> </ol>
年鑑・年報検討 小委員会 河野 仁志	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成29年年報特集号（平成29年12月）を企画し、学会誌委員会に立案、内容確認のうえ掲載した。</li> <li>2. 100周年記念記事として「年報特集号の“技術動向”の変遷」（平成29年12月）を企画・執筆し、掲載した。</li> <li>3. その他学会誌刊行に伴う諸問題を検討した。</li> </ol>
論文集委員会 鍵 直樹	12	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投稿された論文の審査を行い、採否ならびに論文集掲載号を決定し、以下のとおり刊行した。  No. 241(平成29年 4月、学術論文3編、技術論文1編、計 4編35頁)  No. 242(平成29年 5月、学術論文3編、技術論文1編、計 4編37頁)  No. 243(平成29年 6月、技術論文1編、計 1編 8頁)  No. 244(平成29年 7月、学術論文1編、技術論文1編、計 2編14頁)  No. 245(平成29年 8月、学術論文1編 計 1編 8頁)  No. 246(平成29年 9月、学術論文2編、技術論文1編、計 3編27頁)  No. 247(平成29年10月、学術論文1編、技術論文2編、計 3編23頁)  No. 248(平成29年11月、学術論文2編 計 2編18頁)  No. 249(平成29年12月、学術論文3編 計 3編31頁)  No. 250(平成30年 1月、学術論文1編、技術論文1編、計 2編18頁)  No. 251(平成30年 2月、学術論文1編、計 1編 9頁)  No. 252(平成30年 3月、学術論文3編、技術論文1編、計 4編33頁)  ※計頁数：本文頁総数(刊行総頁数ではない。)</li> <li>2. その他、論文審査および論文集刊行に伴う諸問題を検討した。</li> <li>3. CiNi終了(平成28年3月)に伴い、論文公開データベースのJ-STAGE移行手続きを進めた。</li> <li>4. 空気調和・衛生工学会 大会にて講演論文からの空気調和・衛生工学会論文集への投稿論文の推薦を募り、推薦結果に基づき投稿依頼を実施した。</li> </ol>

#### (4) 刊行物に関する事項

##### 1) 空気調和・衛生工学会論文集

下記12号を刊行した。

号数	発行年月	本文頁* (編数)	目次	広告	その他	合計頁	発行部数
No.241	平成29年 4月	35頁(4編)	2	0	0	37	1,000
No.242	平成29年 5月	37頁(4編)	2	0	1	38	1,000
No.243	平成29年 6月	8頁(1編)	2	0	21	29	1,000
No.244	平成29年 7月	14頁(2編)	2	0	0	16	1,000
No.245	平成29年 8月	8頁(1編)	2	0	21	29	1,000
No.246	平成29年 9月	27頁(3編)	2	0	0	29	1,000
No.247	平成29年 10月	23頁(3編)	2	0	1	25	1,000
No.248	平成29年 11月	18頁(2編)	2	0	0	20	1,000
No.249	平成29年 12月	31頁(3編)	2	0	28	33	1,000
No.250	平成30年 1月	18頁(2編)	2	0	0	20	1,000
No.251	平成30年 2月	9頁(1編)	2	0	21	11	1,000
No.252	平成30年 3月	33頁(4編)	2	0	0	35	1,000
合計		261頁(31編)	24	0	93	322	12,000

\*：論文集の総頁数ではありません。

##### 2) 空気調和・衛生工学

学会誌「空気調和・衛生工学」は、第91巻4号から第92号3号までの12号を刊行した。

内訳は、別表「(5)平成29年度学会誌掲載内容内訳」のとおりである。

##### 3) 第14版空気調和・衛生工学便覧(平成22年2月、第1刷)、SHASE-S、SHASE-M、SHASE-G、 学会出版物の当期在庫数は、別表「(6)平成29年度出版物在庫部数 表1～5」のとおりである。

注：別表の改定・増刷に関する詳細は、出版委員会報告(Ⅲ.事業報告の6.調査資料収集の実施に関する事項 (3)出版物発行に関する事項)に記載。

(5) 平成29年度学会誌掲載内容内訳

(5) 平成29年度学会誌掲載内容内訳

巻号	本文										本文外					広告		発行部数																	
	特集		解説・技術報告・論文など		委員会報告		講座		海外文献紹介		竣工設備データベース		主要文献題目		会報		①その他		a 頁小計		目次・内容紹介など		b 頁小計		前付後付		目次裏(4)色対抗		記事前付後付以外		記事中(1/2頁以下)		c 小計		
	タイトル	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数		頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	
4	交通施設を支える設備	57.75	10				5.5	1	3.5	1	6.5	4	0.75	2.00	80.00	6.5	28.75	35.25	8	4.75	3	5	3	23.75	139	15,800									
5	★8つのトライ-2030年に向けた次世代空調システム-	63	8									7	0.5	32.50	103.00	8	23	31	6	7	3	4	3	23	157	15,800									
6	★北海道、東北、中部、北信越、近畿、中国・四国そして九州支部のあゆみとこれから	41.25	8	7	1	40.75	8.5	1		6		0.5	23.25	127.25	3	25.5	28.5	8	7.5	3	10	5.25	33.75	190	15,900										
7	★学会賞、特別賞十年賞・リニール賞、経典賞技術振興賞、藤原記念賞、井上宇市記念賞および功績賞	162.5	24									30.75	2.75	196.00	5.5	22.75	28.25	11	2.5	3	3	4	23.5	248	15,650										
90	★ICTと建築設備の将来に向けて	37.25	6			14.5	6.5	1	6	1	7.25	4	6.25	6.25	81.75	6.5	18.75	25.25	8	6.75	8	6	3.25	32	139	15,750									
9	★安全と建築設備の将来-過去の変遷をふまえて-	43	9			4	6	1	4	1	4.5	1.5	2.75	2.75	65.75	7.5	19.75	27.25	6	4.75	3	6	2.25	22	115	15,750									
10	★快適性への建築設備のかかわりと未来	55.5	9	3.5	1	13	7	1			4.75	1	5.75	5.75	90.50	7.5	18	25.5	6	2.5	3	9	1.5	22	138	15,750									
11	★創立100周年記念大座談会、海外文献からの展望する21世紀の建築設備技術	66	4				6	1				0.5	15.25	87.75	6.5	16.75	23.25	25	4.75	3	5	2.75	40.5	152	15,750										
12	★年報特集号	101.25	22									10.50	10.50	111.75	1	17.5	18.5	9	5.5	3	3	1.75	22.25	153	15,750										
1				43.25	2	15.5	5.75	1			5	6	0.5	13.25	89.25	2	16	18	7	2	10	4	4.75	27.75	135	15,800									
91	2 下水熱	39.75	7			3.75	9	1			9.75	1.75	0.5	22.00	86.50	3	20.75	23.75	8	4.25	5	8	5.5	30.75	141	15,700									
3				16.75	1	11	7.5	1	5.75	1	7.25	6	10	12.00	76.25	2	33	35	5	5	3	5	3.75	21.75	133	15,600									
年度計		667	107	71	5	103	62	9	19	4	51	30	45	148	1,196	59	261	320	107	57	50	68	41	323	1,838	189,000									
月平均		56	9	6	0	9	5	1	2	0	4	3	4	12	100	5	22	27	9	5	4	6	3	27	153	15,750									

注 ①竣工設備一覧、読者サロン、支部便り、私の回顧録、異見のページ、技術情報、年間総目次、広告目次、新名譽・特別会員紹介、再録などをいう。なお、本文「竣工設備一覧」の両面副りは1枚4頁、片面副りは1枚2頁として計算した。

②a本文頁小計+b本文外小計+c広告頁小計

③★創立100周年記念特集号

## (6) 平成29年度出版物出庫数

表1 空気調和・衛生工学会便覧

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
便覧第14版 1巻 基礎編	34	20	229	0
便覧第14版 2巻 機器・材料編	18	13	327	0
便覧第14版 3巻 空気調和設備編	27	50	243	200
便覧第14版 4巻 給排水衛生設備編	50	53	188	200
便覧第14版 5巻 計画・施工・維持管理編	19	18	325	0
便覧第14版セット	65	67	214	0

表2 空気調和・衛生工学会規格 (SHASE-S)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
SHASE-S 001-2005 図示記号	36	34	341	0
SHASE-S 003-2012 スリーブ形伸縮管継手	3	2	0	0
SHASE-S 006-2008 金属製変位吸収管継手	5	3	0	0
SHASE-S 007-2008 メカニカル形変位吸収管継手	4	2	0	0
SHASE-S 008-2008 ゴム製変位吸収管継手	5	4	0	0
SHASE-S 009-2004 建築設備用インサート	14	9	0	0
SHASE-S 010-2013 空気調和・衛生設備工事標準仕様書	263	273	1227	1000
SHASE-S 012-2013 建築設備のあと施工アンカー	21	25	0	0
SHASE-S 013-2014 建築設備用配管ねじ接合シール材	10	5	0	0
SHASE-S 014-2014 建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニット	5	7	0	0
SHASE-S 102-2011 換気規準・同解説	31	19	0	0
SHASE-S 103-2000 鋳鉄ボイラの出力試験方法	1	1	0	0
SHASE-S 106-2005 減圧弁	1	6	0	0
SHASE-S 110-2007 送風機の音響パワーレベル測定方法	1	7	0	0
SHASE-S 111-2012 煙突計算基準	22	17	0	0
SHASE-S 112-2009 冷暖房熱負荷簡易計算法	43	31	0	0
SHASE-S 113-2012 個別空調機の音響パワーレベル測定法	4	8	0	0
SHASE-S 114-2011 空調機器騒音測定方法	10	8	0	0
SHASE-S 115-2010 室内換気効率の現場測定法・同解説	9	2	0	0
SHASE-S 115-2017 室内換気効率(規準化居住域濃度)の現場測定法	0	14	0	0
SHASE-S 116-2011 トレーサガスを用いた単室の換気量測定法	10	6	0	0
SHASE-S 117-2010 換気・空調設備の現場風量測定法	29	16	0	0
SHASE-S 117-2017 換気・空調設備の現場風量測定法	0	5	0	0
SHASE-S 118-2010 冷凍機期間成績係数算定・表示法	5	3	0	0
SHASE-S 119-2017 空気調和設備室内騒音の測定方法	0	13	0	0
SHASE-S 203-2010 排水・通気用鉛管	1	1	0	0
SHASE-S 206-2009 給排水衛生設備規準・同解説	235	246	249	300
SHASE-S 209-2009 鋳鉄製マンホールふた	10	5	0	0
SHASE-S 211-2013 大気圧バキュームブレーカ	3	4	0	0
SHASE-S 212-2005 水撃防止装置の性能評価方法	2	1	0	0
SHASE-S 215-2013 圧力式バキュームブレーカ	3	3	0	0
SHASE-S 217-2008 グリース阻集器	7	0	0	0
SHASE-S 217-2016 グリース阻集器	827	38	0	0
SHASE-S 218-2014 集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法	8	15	0	0
SHASE-S 219-2010 循環式浴槽用砂式ろ過器の性能評価方法	1	0	0	0
SHASE-S 219-2016 循環式浴槽用砂式ろ過器の性能評価方法	2	5	0	0
SHASE-S 220-2010 器具排水特性試験法	3	3	0	0
SHASE-S 220-2017 器具排水特性試験法	0	9	0	0
SHASE-S 221-2012 オイル阻集器	15	11	0	0

\*SHASE-001、010、206を除き、PDFデータ販売のため、期末在庫なし

表3 ガイドライン(G)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
G 0002-2012 新版 建築設備の耐震設計 施工法	140	103	132	0
G 0003-1999 SIの手引き	1	0	9	0
G 0009-2007 京都議定書目標達成に向けて建築・都市エネルギーシステムの新技术	4	1	173	0
G 0010-1-2011 建築・設備の省エネルギー技術指針 住宅編 -指針の更新・追補、エネルギー消費実態調査、建物改修・機器更新の実績(第1章)-	3	1	5	0
G 0012-1-2012 省エネルギー指針の追補、指針の効果推定および事例調査	3	2	16	0
G 0013-2011 改修工事のトラブル・リスク回避のためのガイドライン	3	1	11	10
G 0015-2013 BEMS活用のためのグラフ画面とデータエクスポートのガイドライン	8	5	10	0
G 0016-2013 建築設備配管に使用する管フランジ用ガスケットの選定ガイドライン	4	5	12	0
G 0017-2015 ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の定義と評価方法に関するガイドライン	28	11	29	0
G 0018-2016 省エネルギー技術指針(非住宅編)ガイドライン	22	8	10	0
G 0019-2016 BEMSポイント名称ガイドライン	18	4	18	20
G 0020-2016 災害時のBCP検証手法ガイドライン—空調・衛生設備を中心に—	42	11	16	20
G 0021-2016 BEMS ビル管理システムの計画・設計と運用の知識	271	59	158	0
G 0022-2016 建築設備の試運転調整ガイドライン	18	13	9	20
G 1001-2012 試して学ぶ熱負荷HASPEE～新最大熱負荷計算法～	52	51	221	0
G 1002-1993 ダクトの新標準仕様・技術指針・同解説	2	3	3	0
G 1003-2011 空調兼用排煙設備計画ガイドライン	4	9	17	20
G 1004-2011 セントラル空調システムの最適化機器相互の統合的最適設計と運転の手引き	21	18	318	0
G 1005-2011 既存建物の空調設備に対する性能検証過程(復性能検証過程)指針	2	4	8	10
G 1006-2013 ビル用マルチパッケージ型空調システム—計画・設計から性能評価まで—	40	57	167	200
G 1007-2014 換気システムの不具合対策に関するガイドライン	5	4	21	20
G 1008-2016 建物エネルギーシミュレーションツールの評価手法に関するガイドライン	25	8	4	0
G 1009-2016 集合住宅の機械換気設備による室内負圧に関するガイドライン	3	4	13	0
G 2001-1992 図解・異管種接合法	3	3	168	0
G 2005-2009 BEMS給排水衛生設備ガイドライン	5	2	3	0
G 2006-2012 ディスポーザ排水配管設計・施工・維持管理法ガイドライン	11	0	4	0
G 2007-2015 排水管清掃方法ガイドライン	15	5	19	20
G 2008-2015 貯湯式給湯器転倒防止対策ガイドライン	9	4	7	0
G 2009-2016 トラップ性能試験法ガイドライン	3	0	17	0

表4 マニュアル(M)

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
M 0001-1-2015 都市ガスコージェネレーションの計画・設計と運用	97	46	100	0
M 0001-2-2013 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラムCASCADEⅢ	47	20	40	50
M 0001-2-2013 都市ガスによるコージェネレーション評価プログラムCASCADEⅢ交換価格	0	0	0	0
M 0003-2015 建築と設備の環境配慮技術のすべて—要素技術からスマートシティまで—	59	51	550	500
M 0005-2013 新版 災害時の水利用 飲める水・使える水	23	30	49	0
M 0010-2013 配管腐食・劣化事故調査の進め方マニュアル	1	3	8	0
M 0011-2018 建築設備の凍結・雪対策 計画設計施工の実務の知識	0	0	500	500
M 1001-2009 新版 工場換気	575	359	1482	1000
M 1002-2006 蓄熱式空調システム計画と設計	15	0	0	0
M 1002-2017 蓄熱式空調システムが実現するエネルギーマネジメント～計画・設計から運用まで～	0	168	305	0
M 1003-2005 新版 快適な温熱環境のメカニズム	87	66	47	0
M 1004-2003 低温送風空調システムの計画と設計	8	2	247	0
M 1006-2005 空気調和・衛生工学会編 都市ガス空調のすべて	0	0	0	0
M 1006-2017 新版 都市ガス空調のすべて	667	298	534	500
M 2001-2011 雨水利用の実務の知識設計・施工・維持管理マニュアル	16	17	1047	0

表5 その他

商品名	前期 出庫部数	当期 出庫部数	当期 期末在庫数	増刷等
湿り空気線図h-x線図	27	51	164	0
給排水衛生設備における騒音・振動低減設計・施工	3	0	92	0
置換換気ガイドブック-基礎と応用- REHVA No.1	13	14	373	0
オフィスにおける室内気候と知的生産性 REHVA No.6知的生産性評価を組み込んだライフサイクルコスト分析	7	9	569	0
換気効率ガイドブック—理論と応用—REHVA No.2	12	14	718	0
換気設計のための数値流体力学CFD	23	18	120	0

## 7. 表彰の実施に関する事項

### (1) 表彰事業

委員会名 (委員長・主査)	開催回数	事業内容
表彰運営委員会	2	各表彰の選考業績につき審議を行った。 各表彰に関する、規程、要領につき審議を行った。
学会賞・特別賞・ 振興賞選考委員会 田辺 新一	2	学会賞・特別賞・振興賞の審査・選考につき下記を理事会へ報告した。 1. 第56回学会賞論文賞 全5件 (学術論文部門4件、技術論文部門0件、論説・報文部門1件) 2. 第56回学会賞技術賞 全4件 (建築設備部門4件、技術開発部門0件) 3. 第18回特別賞十年賞 全0件 4. 第6回特別賞リニューアル賞 全1件 5. 第32回振興賞学生賞 登録86学部学科より79件 6. 第33回振興賞高校教育賞 全0件 7. 第32回振興賞技術振興賞 全14件 (第1区3件、北海道支部1件、東北支部2件、中部支部1件、北信越支部2件、近畿支部3件、中国四国支部1件、九州支部1件) 8. 第14回振興賞住宅環境設備賞 全0件 9. 第15回功績賞 全3件
論文賞審査小委員会 諏訪 好英	2	1. 学会賞論文賞(学術論文部門、技術論文部門、論説・報文部門)の審査にあたり、表彰規程第5条に定める審査対象業績につき審査を行い表彰候補業績(上記参照)を学会賞選考委員会へ報告した。
技術賞審査小委員会 村上 公哉	2	1. 学会賞技術賞(建築設備部門、技術開発部門)および振興賞技術振興賞第1区の審査にあたり、表彰規程第5条に定める応募対象業績の予備審査、資料調査および現場調査を行い表彰候補業績(上記参照)を学会賞選考委員会へ報告した。
特別賞審査小委員会 佐々木 邦治	2	1. 特別賞「十年賞」および特別賞「リニューアル賞」の審査にあたり表彰規程第6条に定める応募対象業績につき、予備審査、資料調査、および現場調査を行い、表彰候補業績(上記参照)を特別賞選考委員会へ報告した。
篠原記念賞推薦委員会 細谷 清	3	1. 篠原記念賞表彰業績の選定として、篠原記念賞推薦委員会推薦に加え、研究委員会、出版委員会、標準化委員会、学会誌委員会へ推薦を依頼し、応募のあった業績につき審査し、受賞候補業績を理事会へ報告した。 ・篠原記念賞 1件 ・篠原記念賞奨励賞 3件
井上宇市記念賞 推薦委員会 嶋村 和行	2	1. 井上宇市記念賞を公募し、下記の表彰候補者を理事会に報告した。 ・井上宇市賞 2件 ・アジア国際賞 1件

(2) 第 55 回空気調和・衛生工学会賞

学会賞論文賞は、表彰を行う年の前々年の 12 月 31 日からさかのぼって前 2 年間に論文集および学会誌に発表された業績とする。学会賞技術賞は、表彰を行う年の前々年の 12 月 31 日からさかのぼって前 3 年間に竣工または開発された業績とする。

1) 論文賞

① 学術論文部門

○印：主たる研究者

業績名	受賞者
<p>住宅における CO2 ヒートポンプ式給湯機の稼働実態と性能評価に関する研究</p> <p>第 1 報—実使用に基づく CO2 ヒートポンプ式給湯機の性能評価 (論文集No.169)</p> <p>第 2 報—住宅における湯の使われ方と給湯負荷の解析(論文集No.180)</p> <p>第 3 報—追い炊きを考慮した給湯負荷モードの開発 (論文集No.191)</p> <p>第 4 報—エネルギー消費量・機器効率の推計ツールの開発 (論文集No.205)</p> <p>第 5 報—シミュレーションによるエネルギー消費量・機器効率の検討 (論文集No.217)</p>	<p>高田 宏○ 村川 三郎 北山 広樹 濱田 靖弘 鍋島 美奈子 三村 拓矢</p>
<p>内部負荷の偏在化を考慮した空調設備の性能評価と設計手法に関する研究</p> <p>第 1 報—内部発熱の偏在化推定と室内熱環境・エネルギー消費への影響の検討 (論文集No.221)</p> <p>第 2 報—内部発熱の偏在化に対応した空調システム改善提案の検討 (論文集No.224)</p>	<p>柳井 崇○ 永田 明寛</p>
<p>マルチソース・マルチユース・ヒートポンプシステムに関する技術開発</p> <p>第 1 報—水熱源瞬間式給湯ヒートポンプの開発と性能検証 (論文集No.208)</p> <p>第 2 報—水熱源空調ヒートポンプの開発と性能検証 (論文集No.215)</p> <p>第 3 報—太陽空気熱源ヒートポンプの試作機における運転特性の確認と性能検証 (論文集No.217)</p> <p>第 4 報—年間運転性能予測シミュレーションによるシステム構成と運用に関する研究 (論文集No.221)</p>	<p>日野 俊之○ 吉田 吏志 大岡 龍三 兒玉 和生</p>
<p>人体各部の投影面積率を用いた室内空間における人体の放射受熱量評価に関する研究</p> <p>第 1 報—人体形状モデルによる投影面積率算出と至近距離壁面との形態係数評価 (論文集No.202)</p> <p>第 2 報—部位別放射受熱量の算出と不均一放射環境の評価への適用 (論文集No.214)</p>	<p>佐藤 大樹○ 大黒 雅之 吉田 伸治</p>

② 論説・報文部門

講座 ポンプの基礎知識 (4) ポンプの制御 (学会誌第 89 巻 6 月号)	森岡 浩
--	------

2) 技術賞

① 建築設備部門

業績名称	受賞者
虎ノ門ヒルズに導入した高効率熱源・空調設備の計画と性能検証	(株)日本設計 森ビル(株) 新菱冷熱工業(株)
あべのハルカスの環境・設備計画と実施	(株)竹中工務店 大阪本店 大塚 雅之 (株)関電エネルギーソリューション 三機工業(株)関西支社 日本ファシリオ(株) (株)日立プラントサービス
日本生命保険相互会社東館における環境・設備計画と実施	(株)日建設計 大阪 日本生命保険相互会社 三機工業(株) 山中 俊夫 甲谷 寿史 桃井 良尚 相良 和伸 (株)日建設計総合研究所

②技術開発部門

業績名称	受賞者
ホルムアルデヒド除去システムの開発	新菱冷熱工業(株) 池田 耕一
ネット・ゼロ・エネルギー・ビルの普及に向けた技術開発と ZEB 実証棟における実証成果	大成建設(株) 大成設備(株) 川瀬 貴晴 望月 悦子

(3) 特別賞「第 17 回十年賞」、「第 5 回リニューアル賞」

1) 特別賞「十年賞」

「十年賞」は、表彰を行う年の前年の 12 月 31 日からさかのぼって前 3 年間に竣工後 10 年を経過し、審査時に使用中の設備または施設に関する業績で、この間継続的な調査・改善によって適切な維持管理が行われた業績から下記を選出した。



業績名称	受賞者
T Aビルにおける継続的な運用解析・改善と計測技術	(株)日本設計 (株)エヌ・ティ・ティ・データ 高砂熱学工業(株) 住友電設(株) 三浦 宏久

## 2) 特別賞「リニューアル賞」

「リニューアル賞」は、リニューアル賞は表彰を行う年の前年の12月31日からさかのぼって前3年間に改修工事を実施し、審査時に使用中の設備または施設に関する業績で、改修工事による機能回復や性能向上の状況が検証された業績、ならびに公表された業績のうち、審査時に使用中のリニューアルに関する業績から下記を選出した。

業績名称	受賞者
群馬県立自然史博物館における省エネルギー改修	日本ファシリティ・ソリューション(株) 群馬県立自然史博物館 (株)ヤマト ジョンソンコントロールズ(株) 日立アプライアンス(株)
箱崎地区熱供給センター第一プラントの熱源改修	東京都市サービス(株) (株)竹中工務店 東京電力エナジーパートナー(株) (株)日建設計総合研究所 村上 公哉
クリスタルタワーの熱源・空調リニューアル	(株)竹中工務店 (株)TAKイーヴァック 新晃工業(株) (株)かんでんエンジニアリング

## (4) 第31回空気調和・衛生工学会振興賞

### 1) 第32回学生賞

本学会振興賞選考委員会の承認を得て登録した76大学学部学科の学部卒業生のうち、学科主任教授の推薦を受けた70名を表彰した。

### 2) 第31回技術振興賞

振興賞は、表彰を行う年の前々年の12月31日からさかのぼって前3年間に竣工した設備または施設の計画・設計・施工に関する業績、ならびに公表された以下の業績のうち、審査時に使用中の業績で技術の振興と奨励にふさわしいと認められた業績を選出した。

支部	業績名称	受賞者
第1区	建築・環境教育を实践する関東学院大学建築・環境棟(5号館)の環境・設備技術	関東学院大学 (株)日本設計 (株)竹中工務店東京本店 (株)朝日工業社

	排水レスフラッシング工法の開発	高砂熱学工業(株) 高砂丸誠エンジニアリングサービス(株)
	ZEB を目指した「Q'dビル」における計画・設計・施工	清水建設(株) (株)東京エネシス 三菱電機(株)
北海道支部	北見信用金庫紋別支店『まちのシンボル』となる空間の環境・設備計画	(株)北海道日建設計 菊田 弘輝
中部支部	愛知学院大学名城公園キャンパスにおける次世代型エコキャンパスのロールモデル構築	(株)大建設計 (株)熊谷組 北嶋工業(株) 東海テクノセンター(株) 木村工機(株) (株)シーエナジー 東邦ガス(株) 中部電力(株) 齋藤 輝幸 飯塚 悟
北信越支部	コマツ粟津工場新組立工場における省エネルギーと生産性向上を両立する大空間空調設備の計画・設計	清水建設(株)北陸支店
	信州大学国際科学イノベーションセンターの環境・設備計画	(株)森村設計 ダイダン(株) 浅野 良晴
近畿支部	ヤンマー本社ビル “YANMAR FLYING-Y BUILDING”	(株)日建設計 ヤンマー(株) セイレイ興産(株) ヤンマーエネルギーシステム(株) (株)ヤンマービジネスサービス 中山 哲士
	関西電力南大阪営業所における省エネルギー計画と運用実績の検証・評価	関西電力(株) (株)昭和設計 (株)アレフネット
	立命館中学校高等学校	鹿島建設(株)関西支店 近本 智行 鹿島建設(株)技術研究所 鹿島建設(株) 高砂熱学工業(株)大阪支店 須賀工業(株)京都支店 住友電設(株)京都支店 (株)アレフネット

中国四国支部	西条市庁舎における地域資源の有効活用についての効果 -水・風・光・木の活用-	(株)安井建築設計事務所
	サンスターホール（坂町立町民交流センター）～エコロジカルな防災拠点を目指した環境・設備計画～	(株)竹中工務店広島支店 (株)竹中工務店大阪本店
九州支部	佐賀県医療センター好生館	(株)日建設計 地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 小島 昌一 高砂熱学工業(株)九州支店
	えがお本社ビルの空気調和システム ～省エネルギーコールセンターオフィスの実現～	(株)久米設計九州支社 (株)大林組九州支店 (株)九電工

### 3) 第32回高校教育賞

業績名	受賞者
「風洞実験装置の製作及び性能試験」 ※第52回全国設備工業教育研究会（平成28年度）にて発表	小関 秀俊（静岡県掛川工業高等学校）

### (5) 第7回井上宇市記念賞

本賞は、故井上宇市君（第50期～第53期会長）の業績を記念し、空気調和設備及び環境工学分野に関する開発、設計、研究、教育に特に貢献のあった技術者、研究者に井上宇市賞、アジア国際賞を授与する。

賞名	受賞者
井上宇市賞	加藤 信介（東京大学生産技術研究所）
井上宇市賞	高瀬 知章（三菱地所株式会社）
アジア国際賞	THAM KWOK WAI（シンガポール国立大学）

### (6) 第26回篠原記念賞

本賞は、故篠原隆政君（第58期～第61期会長）の業績を記念し、給排水または衛生に関する技術の研究、開発、普及に優れた業績を挙げた会員に対して篠原記念賞を、また、将来の活動が期待できる博士修了学生あるいは修士修了学生、ならびに今後もさらなる活躍が期待できる会員に対して篠原記念賞奨励賞を授与する。

賞名	受賞者
篠原記念賞	高田 宏（広島大学）

奨励賞	松尾 隆史（関東学院大学大学院）
奨励賞	川口 俊哉（関東学院大学大学院）

(7) 第14回功績賞

功績賞は、空気調和・衛生工学の発展ならびに本会の活動に顕著な功績のあった委員会、出版物等に対して下記を選出した。

業績名	受賞者
事務所ビルを対象とした設計給水データの検討 委員会成果報告書	給排水設備委員会 設計給水データの検討小委員会
建築環境設計における空調吹出し口のCFD パーツ化およびBIM との連携手法の提案	換気設備委員会 CFD パーツ化と BIM 応用小委員会
SHASE-G 0020-2016 災害時のBCP 検証手法ガイドライン —空調・衛生設備を中心に—	標準化委員会 災害時の BCP 検証手法ガイドライン作成小委員会

# IV. 会計報告

## 1. 財務諸表報告

### (1) 貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	329,378,048	279,602,085	49,775,963
未収入金	14,810,749	16,830,175	△ 2,019,426
未収会費	0	0	0
在庫品	14,683,239	14,344,155	339,084
仮払金	20,000	40,000	△ 20,000
前払金	5,314,753	4,757,572	557,181
流動資産合計	364,206,789	315,573,987	48,632,802
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	0	101,565,000	△ 101,565,000
建物	0	14,150,191	△ 14,150,191
建物減価償却引当資産	0	53,399,829	△ 53,399,829
基本財産合計	0	169,115,020	△ 169,115,020
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	24,709,651	22,330,604	2,379,047
建物付属設備減価償却引当資産	0	38,917,574	△ 38,917,574
建物・設備改修準備引当資産	0	132,000,000	△ 132,000,000
公益目的資産	150,000,000	-	150,000,000
公益目的事業資産	200,000,000	-	200,000,000
事務所等の改修および取得資産	80,000,000	-	80,000,000
特定資産合計	454,709,651	193,248,178	261,461,473
(3) その他の固定資産			
建物付属設備	0	349,442	△ 349,442
備品	0	0	0
電話加入権	235,900	235,900	0
敷金・保証金	17,401,360	17,451,360	△ 50,000
投資有価証券	0	0	0
その他の固定資産合計	17,637,260	18,036,702	△ 399,442
固定資産合計	472,346,911	380,399,900	91,947,011
資産合計	836,553,700	695,973,887	140,579,813
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,858,054	5,639,571	218,483
未払消費税等	4,726,600	1,428,000	3,298,600
未払法人税等	0	0	0
前受会費	80,102,000	88,542,100	△ 8,440,100
前受金	6,314,980	8,919,640	△ 2,604,660
預り金	865,798	846,524	19,274
仮受金	118,966	164,806	△ 45,840
賞与引当金	7,800,000	7,100,000	700,000
流動負債合計	105,786,398	112,640,641	△ 6,854,243
2. 固定負債			
退職給付引当金	24,709,651	22,330,604	2,379,047
固定負債合計	24,709,651	22,330,604	2,379,047
負債合計	130,496,049	134,971,245	△ 4,475,196
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	706,057,651	561,002,642	145,055,009
(うち基本財産への充当額)	(0)	(169,115,020)	(△ 169,115,020)
(うち特定資産への充当額)	(430,000,000)	(170,917,574)	(259,082,426)
正味財産合計	706,057,651	561,002,642	145,055,009
負債及び正味財産合計	836,553,700	695,973,887	140,579,813

## (2) 正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:円)

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増 減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
①受取入会金	714,000	312,000	0	1,026,000	1,350,000	△ 324,000
正会員受取入会金	536,000	235,000	0	771,000	1,080,000	△ 309,000
学生会員受取入会金	115,000	50,000	0	165,000	170,000	△ 5,000
賛助会員受取入会金	63,000	27,000	0	90,000	100,000	△ 10,000
②受取会費	131,750,000	81,934,650	0	213,684,650	190,751,350	22,933,300
正会員受取会費	108,934,000	47,804,150	0	156,738,150	157,033,000	△ 294,850
学生会員受取会費	1,376,000	603,000	0	1,979,000	2,154,600	△ 175,600
賛助会員受取会費	21,440,000	9,407,500	0	30,847,500	31,563,750	△ 716,250
賛助会員特別会費	0	24,120,000	0	24,120,000	-	24,120,000
③事業収益	120,703,911	3,021,420	0	123,725,331	117,282,470	6,442,861
1-1 講座セミナーの実施	49,130,934	0	0	49,130,934	40,734,878	8,396,056
教育・普及事業収益	19,853,060	0	0	19,853,060	18,129,286	1,723,774
学術事業収益	24,066,178	0	0	24,066,178	17,248,007	6,818,171
CPD事業収益	5,211,696	0	0	5,211,696	5,357,585	△ 145,889
1-2 資格付与の実施	23,893,000	0	0	23,893,000	23,270,277	622,723
資格検定事業収益	23,893,000	0	0	23,893,000	23,270,277	622,723
1-3 調査・資料収集の実施	47,679,977	0	0	47,679,977	50,062,166	△ 2,382,189
学術調査研究事業収益	0	0	0	0	1,111,116	△ 1,111,116
国際交流事業収益	0	0	0	0	0	0
受託調査研究事業収益	0	0	0	0	0	0
出版物発行事業収益	47,679,977	0	0	47,679,977	48,951,050	△ 1,271,073
1-4 技術開発・研究開発の実施	0	0	0	0	0	0
規格制定事業収益	0	0	0	0	0	0
1-5 表彰の実施	0	0	0	0	0	0
表彰事業収益	0	0	0	0	0	0
法人会計	0	3,021,420	0	3,021,420	3,215,149	△ 193,729
Web広告収益	0	2,745,400	0	2,745,400	2,842,000	△ 96,600
周年記念事業収益	0	0	0	0	0	0
特別委員会収益	0	276,020	0	276,020	373,149	△ 97,129
④受取補助金等	0	0	0	0	0	0
⑤受取負担金	0	0	0	0	0	0
⑥受取寄附金	6,409,648	0	0	6,409,648	485,000	5,924,648
⑦受取利息	2,424	605	0	3,029	2,173	856
⑧雑収益	1,032,286	0	0	1,032,286	1,582,288	△ 550,002
経常収益計	260,612,269	85,268,675	0	345,880,944	311,453,281	34,427,663

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増 減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
(2) 経常費用						
①事業費	261,921,229	0	0	261,921,229	265,052,281	△ 3,131,052
1-1 講座セミナーの実施	32,428,772	0	0	32,428,772	27,176,670	5,252,102
教育・普及事業費	11,397,820	0	0	11,397,820	11,832,035	△ 434,215
学術事業費	20,263,831	0	0	20,263,831	13,894,558	6,369,273
C P D 事業費	767,121	0	0	767,121	1,450,077	△ 682,956
1-2 資格付与の実施	15,048,910	0	0	15,048,910	12,535,901	2,513,009
資格検定事業費	15,048,910	0	0	15,048,910	12,535,901	2,513,009
1-3 調査・資料収集の実施	65,587,083	0	0	65,587,083	68,681,636	△ 3,094,553
学術調査研究費	2,056,654	0	0	2,056,654	5,263,710	△ 3,207,056
国際交流事業費	896,744	0	0	896,744	1,293,925	△ 397,181
受託調査研究事業費	0	0	0	0	0	0
出版物発行事業費	62,633,685	0	0	62,633,685	62,124,001	509,684
1-4 技術開発・研究開発の実施	170,673	0	0	170,673	86,373	84,300
規格制定事業費	170,673	0	0	170,673	86,373	84,300
1-5 表彰の実施	6,370,268	0	0	6,370,268	6,037,098	333,170
表彰事業費	6,370,268	0	0	6,370,268	6,037,098	333,170
旅費・交通費	2,752,527	0	0	2,752,527	2,765,191	△ 12,664
小計	122,358,233	0	0	122,358,233	117,282,869	5,075,364
給料手当	72,103,684	0	0	72,103,684	76,665,009	△ 4,561,325
法定福利費	13,714,150	0	0	13,714,150	14,633,305	△ 919,155
賞与引当金繰入	560,000	0	0	560,000	△ 80,000	640,000
退職給付費用	4,673,918	0	0	4,673,918	5,402,544	△ 728,626
福利厚生費	1,192,251	0	0	1,192,251	1,153,969	38,282
旅費交通費	276,485	0	0	276,485	370,763	△ 94,278
通信費	1,680,082	0	0	1,680,082	1,380,769	299,313
減価償却費	0	0	0	0	805,225	△ 805,225
消耗什器備品費	121,600	0	0	121,600	21,737,680	△ 21,616,080
消耗品費	643,040	0	0	643,040	702,827	△ 59,787
修繕費	0	0	0	0	9,840	△ 9,840
印刷費	282,586	0	0	282,586	301,380	△ 18,794
共益費	3,143,334	0	0	3,143,334	7,191,898	△ 4,048,564
賃借料	20,217,759	0	0	20,217,759	2,596,072	17,621,687
租税公課	13,008	0	0	13,008	6,558	6,450
事務委託費	6,766,960	0	0	6,766,960	6,490,370	276,590
雑費	1,301,105	0	0	1,301,105	887,543	413,562
消費税(経常外の消費税を含む)	12,873,034	0	0	12,873,034	7,513,660	5,359,374
小計(事業運営費)	139,562,996	0	0	139,562,996	147,769,412	△ 8,206,416
②管理費	0	80,170,203	0	80,170,203	56,074,405	24,095,798
会員事業費	0	2,865,568	0	2,865,568	3,167,607	△ 302,039
委員会委嘱・名簿作成費	0	118,720	0	118,720	100,215	18,505
国際交流事業費(国際会議補助)	0	92,593	0	92,593	185,186	△ 92,593
技術フェロー事業費	0	19,000	0	19,000	42,403	△ 23,403
情報化促進事業費	0	4,470,465	0	4,470,465	2,612,810	1,857,655
会議費	0	7,907,717	0	7,907,717	7,188,177	719,540
役員選挙費	0	880,902	0	880,902	916,431	△ 35,529
加入学協会費	0	545,996	0	545,996	483,357	62,639
支払保険料	0	275,630	0	275,630	275,352	278
周年記念事業費	0	23,000,581	0	23,000,581	0	23,000,581
旅費・交通費	0	5,102,286	0	5,102,286	4,160,518	941,768
小計	0	45,279,458	0	45,279,458	19,132,056	26,147,402
給料手当	0	18,025,921	0	18,025,921	19,166,252	△ 1,140,331
法定福利費	0	3,428,538	0	3,428,538	3,658,326	△ 229,788
賞与引当金繰入	0	140,000	0	140,000	△ 20,000	160,000
退職給付費用	0	1,168,479	0	1,168,479	1,350,636	△ 182,157
福利厚生費	0	298,063	0	298,063	288,492	9,571
旅費交通費	0	69,120	0	69,120	92,691	△ 23,571
通信費	0	420,020	0	420,020	345,192	74,828
減価償却費	0	0	0	0	201,306	△ 201,306
消耗什器備品費	0	30,400	0	30,400	5,434,420	△ 5,404,020
消耗品費	0	160,760	0	160,760	175,707	△ 14,947
修繕費	0	0	0	0	2,460	△ 2,460
印刷費	0	70,646	0	70,646	75,344	△ 4,698
共益費	0	785,834	0	785,834	1,797,974	△ 1,012,140
賃借料	0	5,054,440	0	5,054,440	649,018	4,405,422
租税公課	0	3,252	0	3,252	1,639	1,613
事務委託費	0	1,691,739	0	1,691,739	1,622,592	69,147
雑費	0	325,275	0	325,275	221,885	103,390
消費税(経常外の消費税を含む)	0	3,218,258	0	3,218,258	1,878,415	1,339,843
小計	0	34,890,745	0	34,890,745	36,942,349	△ 2,051,604
経常費用計	261,921,229	80,170,203	0	342,091,432	321,126,686	20,964,746
当期経常増減額	△ 1,308,960	5,098,472	0	3,789,512	△ 9,673,405	13,462,917

科 目	正味財産増減計算書内訳書			当年度	前年度	増 減
	公益目的 事業会計	法人会計	内部 取引 消去			
2. 経常外増減の部						
（1）経常外収益						
固定資産売却益	146,522,235	36,630,559	0	183,152,794	0	183,152,794
経常外収益計	146,522,235	36,630,559	0	183,152,794	0	183,152,794
（2）経常外費用						
固定資産除却損	279,554	69,888	0	349,442	0	349,442
事務所移転費用	33,230,284	8,307,571	0	41,537,855	0	41,537,855
経常外費用計	33,509,838	8,377,459	0	41,887,297	0	41,887,297
当期経常外増減額	113,012,397	28,253,100	0	141,265,497	0	141,265,497
当期一般正味財産増減額	111,703,437	33,351,572	0	145,055,009	△ 9,673,405	154,728,414
一般正味財産期首残高				561,002,642	570,676,047	△ 9,673,405
一般正味財産期末残高				706,057,651	561,002,642	145,055,009
II 正味財産期末残高				706,057,651	561,002,642	145,055,009



### (3) 財務諸表に対する注記

#### 1. 重要な会計方針

- (1) たな卸資産の評価基準及び評価方法 個別法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法 建物 定率法  
建物付属設備 定率法  
備品 定率法
- (3) 引当金の計上基準  
賞与引当金 職員の賞与支給に備えるため、支給見込額の当期負担額を計上している。  
退職給付引当金 職員の退職金の支給に備えるため、退職給与規程に基づく期末要支給額から中小企業退職金共済事業財団退職金共済給付金額を控除した額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理 税抜き方式を採用している。

#### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土地	101,565,000	0	101,565,000	0
建物	14,150,191	0	14,150,191	0
建物減価償却引当資産	53,399,829	0	53,399,829	0
小 計	169,115,020	0	169,115,020	0
特定資産				
退職給付引当資産	22,330,604	2,379,047	0	24,709,651
建物付属設備減価償却引当資産	38,917,574	0	38,917,574	0
建物・設備改修準備資産	132,000,000	0	132,000,000	0
公益目的資産	-	150,000,000	0	150,000,000
公益目的事業資産	-	200,000,000	0	200,000,000
事務所等の改修および取得資産	-	80,000,000	0	80,000,000
小 計	193,248,178	432,379,047	170,917,574	454,709,651
合 計	362,363,198	432,379,047	340,032,594	454,709,651

注 基本財産(土地、建物)の売却決定 平成28年度第6回理事会(平成29年3月17日)

基本財産(土地、建物)の売却承認 第90期社員総会(平成29年5月11日)

「建物減価償却引当資産」、「建物附属設備減価償却引当資産」、「建物・設備改修準備引当資産」の全額取崩し承認および、「公益目的資産」、「公益目的事業資産」、

「事務所等の改修および取得資産」に関する規程の制定・資産移行(合計4億円)承認 平成29年第4回理事会(平成29年10月13日)

#### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
土地	0	-	0	-
建物	0	-	0	-
建物減価償却引当資産	0	-	0	-
小 計	0	-	0	-
特定資産				
退職給付引当資産	24,709,651	-	-	24,709,651
建物付属設備減価償却引当資産	0	-	0	-
建物・設備改修準備資産	0	-	0	-
公益目的資産	150,000,000	-	150,000,000	-
公益目的事業資産	200,000,000	-	200,000,000	-
事務所等の改修および取得資産	80,000,000	-	80,000,000	-
小 計	454,709,651	-	430,000,000	24,709,651
合 計	454,709,651	-	430,000,000	24,709,651

#### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし

## (4) 附属明細書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	土地	101,565,000	0	101,565,000	0
	建物	14,947,714	0	14,947,714	0
	建物減価償却引当資産	52,602,306	0	52,602,306	0
	基本財産計	169,115,020	0	169,115,020	0
特定資産	退職給付引当資産	22,330,604	2,379,047	0	24,709,651
	建物付属設備減価償却引当資産	38,917,574	0	38,917,574	0
	建物・設備改修準備資産	132,000,000	0	132,000,000	0
	公益目的資産	-	150,000,000	0	150,000,000
	公益目的事業資産	-	200,000,000	0	200,000,000
	事務所等の改修および取得資産	-	80,000,000	0	80,000,000
	特定資産計	193,248,178	432,379,047	170,917,574	454,709,651

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	7,100,000	7,800,000	7,100,000	-	7,800,000
退職給付引当金	22,330,604	2,379,047	-	-	24,709,651

## (5) 財産目録

平成30年3月31日現在

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	(単位：円) 金額	
(流動資産)	現金預金				
	現金	手許有高 北海道支部 東北支部 中部支部 北信越支部 近畿支部 尾亀・国際学術交流 環境工学研究会 中国・四国支部 九州支部	運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として	658,497 26,880 7,574 0 7,697 86,747 0 86,780 44,136 0	
		現金 計			918,311
	預金	郵便振替 ゆうちょ銀行 00160-7-216 ゆうちょ銀行 00190-1-37842	運転資金として 運転資金として	10,640,467 3,042,454	
		普通預金			
		三井住友銀行 京橋 0920282	運転資金として	88,248,271	
		三菱UFJ銀行 大久保 0053986	運転資金として	128,632,947	
		三菱UFJ銀行 大久保 1071778 (環境工学研究会)	運転資金として	149,292	
		三菱UFJ銀行 大久保 1071786	運転資金として	6,921,774	
		三菱UFJ銀行 大久保 1114768	運転資金として	4,462,213	
		三菱UFJ銀行 神楽坂 0447236	運転資金として	25,003	
		北海道銀行 札幌駅前 1568530 (北海道支部)	運転資金として	741,362	
		七十七銀行 芭蕉の辻 5015316 (東北支部)	運転資金として	9,383	
		三菱UFJ 柳橋 4609806 (中部支部)	運転資金として	1,534,475	
		北國銀行 本店営業部 865229 (北信越支部)	運転資金として	72,903	
		三井住友銀行 備後町 111689 (近畿支部)	運転資金として	1,483,366	
		広島銀行 大手町 3003841 (中国・四国支部)	運転資金として	900,664	
		福岡銀行 薬院 1516371 (九州支部)	運転資金として	685,234	
		三菱UFJ銀行 京橋 1718753	運転資金として	31,001,723	
		決済用普通預金			
		三菱UFJ 京橋 2889326	運転資金として	1,997,624	
		三菱UFJ 京橋 2889339	運転資金として	18,340,315	
		三菱UFJ 京橋 2889342	運転資金として	17,317,519	
		三菱UFJ 京橋 2889355	運転資金として	3,550,643	
		三菱UFJ 京橋 2889371	運転資金として	8,702,105	
		預金 計			328,459,737
		現金預金 計			329,378,048
未収金	3名 355件 (株)中外 会員・一般・丸善 会員・一般・丸善 5件	公1-1・中堅技術者研修会・セミナー受講料 公1-1・CPD継続費用、手帳・登録費用 公1-3・学会誌への広告掲載料 1月号～3月号 公1-3・学会出版物の売掛金 公1-3・便覧の売掛金 公1-3・学会誌別刷り、論文集掲載料等	70,000 2,958,730 7,017,570 2,228,243 2,454,126 82,080		
				14,810,749	
在庫品	便覧214セット、パワ1312冊	公1-3・期末在庫額	14,683,239		
仮払金	1件	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の慶弔金	20,000		
前払金	ホーム社(株)、日本郵便(株) (一財)大阪労働協会、(株)エルノ 日新航空サービス(株) カクサコミュニケーションズ(株) JPTマスメール(株) JPTマスメール(株) 全国公益法人協会 東京海上日動火災保険(株) (株)トセイ 全労済 3件 エムエステイ保険サービス(株)	公1-1・初級・中堅技術者研修会テキスト・DM 公1-1・初級・中堅技術者研修会会場費等 公1-1・大会視察費 公1-3・論文集英文校閲 公1-3・学会誌ホームページ作成費 法 役員選挙費 法 加入学協会費 法 会社役員賠償責任保険 公益目的事業及び管理目的の業務に使用する貸借料 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の共済保険料 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の永年表彰費等 公益目的事業及び管理目的の業務に使用する火災保険料	144,074 528,528 91,848 29,989 398,520 1,004,722 34,020 297,570 2,339,058 151,320 220,994 74,110		
				5,314,753	
	その他出版事業			0	
流動資産合計				364,206,789	

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(固定資産)				
特定資産	退職給付引当資金	決済用普通預金 三菱UFJ 京橋 2889279 (本部)		24,709,651
	公益目的資産	決済用普通預金 三菱UFJ 京橋 2889325 (本部)	公益目的事業の用に供するために継続して保有している財産	150,000,000
	公益目的事業資産	決済用普通預金 三菱UFJ 京橋 2889313 (本部)	公益目的事業に必要な事業等その他の業務または活動の用に供するために継続して保有している財産	200,000,000
	事務所等の改修および取得資産	決済用普通預金 三菱UFJ 京橋 2889300 (本部) 普通預金 三菱UFJ 京橋 1718753 (支部)	事務所の改修ならびに新たに事務所を取得する費用とする財産	50,000,000
				30,000,000
				80,000,000
		小 計		454,709,651
その他				
固定資産	電話加入権	03-5206-3600他、全6回線	(共用財産) うち、公益目的保有財産80% 管理目的の財源として使用している財産20%	235,900 188,720 47,180
	敷金・保証金		(共用財産) うち、公益目的保有財産80% 管理目的の財源として使用している財産20%	17,401,360 13,921,088 3,480,272
		その他固定資産計		17,637,260
固定資産合計				472,346,911
資産合計				836,553,700
(流動負債)	未払金	(公社) 日本水環境学会 日本通信紙(株) 日本印刷(株)、(有)アール、(株)共同通信イメージズ、執筆者委員会委員 JPEメール(株) 委員会委員 産興(株) 理事 NTTファイナンス(株)、トセイ(株)  管工業健康保険組合、日本年金機構	公1-1・環境工学研究会分担金 公1-2・設備士資格試験コンピュータ使用料 公1-3・凍結・雪対策出版製作費 公1-3・学会誌原稿、論文集査読料 公1-3・学会誌送付料・発送手数料 公益目的事業の旅費・交通費 法 HP運営費 管理目的業務の旅費・交通費 公益目的事業及び管理目的の業務に使用する 電話料金、電気料金 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の社会保険料	10,000 637,729 1,633,769 85,088 926,084 56,800 70,848 781,498 32,426 1,623,812
	未払消費税等 未払法人税等 前受会費	正会員 学生会員 賛助会員	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する 翌事業年度の会費	5,858,054 4,726,600 0
	前受金	100名 332件	公1-1・初級・中堅・初級ステップアップ 研修会受講料 公1-3・論文集購読料	58,883,000 474,000 20,745,000 80,102,000
	預り金	職員、委員会委員等 職員	源泉所得税 地方税 (住民税)	4,413,100 1,901,880 6,314,980
	仮受金	6件	法 過入金、二重入金等	340,498 525,300 865,798
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の賞与引当金	118,966 7,800,000
流動負債合計				105,786,398
	退職給付引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する 職員の退職給付金の引当金	24,709,651
固定負債合計				24,709,651
負債合計				130,496,049
正味財産				706,057,651

I～IVのとおり報告いたします。

平成30年4月20日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

会 長 奥 宮 正 哉 印

---

平成30年4月23日

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

会 長 奥 宮 正 哉 殿

公益社団法人 空気調和・衛生工学会

監 事 嶋 村 和 行 印

監 事 那 須 原 和 良 印

## 監 査 報 告 書

第91期事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書及びその付属明細書並びに財産目録等について、関係書類とともにその内容を監査した結果、法令および定款に照らして正当であることを認めます。

